

岩手県文化財調査報告書 第103集

岩手県内遺跡発掘調査報告書
(平成9年度)

平成10年3月

岩手県教育委員会

序 文

埋蔵文化財は、私達の祖先より永く培われてきた貴重な歴史的財産であります。私達はそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は近年の増大する大規模な開発等によりきびしい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかるために、遺跡の性格・所在地・範囲を正確に示すことが必要であることはいうまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところですが、現在確認されている遺跡数は1万余箇所にも上ります。これらの遺跡の周知徹底を図る必要があるとともに、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成9年度に実施した県内遺跡の発掘調査・試掘調査・分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位からご協力・ご指導を賜りましたことに対し心より感謝申し上げます。

平成10年3月

岩手県教育委員会

教育長 細屋 正勝

例 言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成9年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業所より入手した1/1,000地形図を原図として掲載した。
- 4 発掘調査については、概略を記した。
- 5 試掘調査に係る遺跡の推定範囲についてはアミで示し、試掘溝は実線で示した。
- 6 遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名のつけられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。
- 7 本事業の調査、整理、報告書編集等は岩手県教育委員会事務局文化課の佐々木勝主任文化財主査、佐藤嘉広主任、鈴木徹文化財調査員、佐々木務文化財調査員が担当した。なお、整理については下記の方々のご協力をいただいた。
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、桑野真里、鈴木見誌、小沢達子、安藤稀環子
- 8 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

目 次

序文

例言

I 発掘調査

- | | | |
|---|---------------------------|---|
| 1 | 担い手育成基盤整備事業（真城落合遺跡） | 3 |
| 2 | 二級村道川井線川井地区市町村道整備事業（大平遺跡） | 8 |

II 試掘調査

- | | | |
|----|--|----|
| 1 | 北上川上流改修事業川崎地区築堤工事（河崎の柵擬定地） | 11 |
| 2 | 一般国道4号改築事業平泉バイパス（佐野遺跡） | 13 |
| 3 | 一般国道4号改築事業平泉バイパス（三日町II遺跡） | 14 |
| 4 | 一般国道4号水沢東バイパス事業（惣前町遺跡） | 15 |
| 5 | 一般国道4号花巻東バイパス事業（石持I遺跡） | 16 |
| 6 | 日の出宿舎新築事業（日の出町I遺跡） | 17 |
| 7 | 世増ダム建設（長倉VII遺跡） | 18 |
| 8 | 東北横断道釜石秋田線（似内遺跡） | 19 |
| 9 | 東北横断道釜石秋田線（高松寺跡） | 20 |
| 10 | 東北横断道釜石秋田線（狼沢II遺跡） | 21 |
| 11 | 東北横断道釜石秋田線（上駒板遺跡） | 22 |
| 12 | 東北新幹線建設工事（盛岡以北）（芦名沢II遺跡） | 23 |
| 13 | 東北新幹線建設工事（盛岡以北）（秋浦I遺跡） | 24 |
| 14 | 一般県道薄衣舞川線改修（清水遺跡） | 25 |
| 15 | 一般国道283号改良事業（篠館跡） | 27 |
| 16 | 地方特定道路整備（北向工区）工事（潰谷地I遺跡） | 28 |
| 17 | 急傾斜地対策工事寺の上地区（浄法寺跡） | 29 |
| 18 | 主要地方道盛岡環状線野沢地区道路改良事業（野沢VI遺跡） | 30 |
| 19 | 盛岡広域都市計画公園9・7・1号御所湖広域公園町場地区オートキャンプ場整備（町場I遺跡） | 31 |
| 20 | 県営畜産経営環境整備事業奥羽北部地区（安栖野遺跡） | 32 |
| 21 | 低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業長岡地区（西長岡長谷田・草刈中屋敷遺跡） | 33 |
| 22 | 低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳田第一地区（岡村遺跡） | 35 |
| 23 | 伊手川河川改修・担い手育成基盤整備事業原体地区（下醍醐遺跡他） | 36 |
| 24 | 県営ほ場整備事業人首川東部地区（岩谷堂橋本I遺跡他） | 38 |
| 25 | 広域農道整備事業胆沢南部地区（本巻遺跡） | 41 |
| 26 | 担い手育成基盤整備事業真城地区（谷地遺跡他） | 42 |
| 27 | 担い手育成基盤整備事業真城地区（水ノ口・栗林遺跡） | 47 |
| 28 | 担い手育成基盤整備事業徳岡地区（休場遺跡） | 49 |
| 29 | 担い手育成基盤整備事業東田地区（中半入遺跡他） | 50 |
| 30 | 広域農道整備事業二戸地区・中山間総合整備事業御淨地区（大向上平遺跡） | 52 |

31	一般農道整備事業太田地区（長袖I遺跡）	53
32	中山間地域総合整備事業御淨地区（袖ノ沢V遺跡）	54
33	畑地帯総合土地改良事業九戸地区（南田I遺跡）	55
34	主要地方道二戸安代線緊急地方道整備事業（大向II遺跡）	57
35	広域農道整備事業東磐井地区（中長者I遺跡）	58
36	担い手育成基盤整備事業奥玉地区（宿下遺跡）	59
37	担い手育成基盤整備事業真城地区（畠中遺跡）	60
38	担い手育成基盤整備事業宮守川上流地区（須崎遺跡）	62
39	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業綾織地区（砂子沢I遺跡）	63
40	担い手育成基盤整備事業宮野目地区（庫理遺跡）	64
41	中山間地域総合整備事業大野地区（内沢環状列石）	65
42	中山間地域総合整備事業大野地区（内沢I遺跡）	66
43	中山間地域総合整備事業大野地区（内沢II遺跡）	67
44	矢巾試験地植栽事業（鳶ヶ平遺跡）	68
45	県南青少年の家グランド整備（柏山館跡）	71
46	県立胆沢病院合同公舎新築工事（龍ヶ馬場遺跡）	73
47	短大地区宅地造成事業（島田II遺跡）	74
48	越喜来地区宅地造成事業（小出I遺跡）	77
49	担い手育成基盤整備事業奥玉地区（立石沢II遺跡）	78
52	その他の試掘調査	79
III	分布調査	83
	矢巾試験地植採事業	担い手育成基盤整備事業八重畠地区
	一般国道455号山岸地区道路改良	農免農道整備事業鳥越地区
	広域農道整備事業二戸地区	ふるさと農道緊急整備事業黒川乙部地区
	担い手育成基盤整備事業煙山西部地区	一般県道土淵達曾部線上柳地区緊急歩道整備
	一般農道整備事業毒沢地区	国営かんがい排水事業猿ヶ石用水地区
	農免農道整備事業新町第1地区	担い手育成基盤整備事業八幡東部地区
	主要地方道栗駒衣川線上川内地区道路改良工事	河川等災害関連事業一級河川平糠川
	担い手育成基盤整備事業上台大下通地区	担い手育成基盤整備事業北万丁目地区
	担い手育成基盤整備事業黄南地区	畑地帯総合土地改良事業九戸地区
	中山間地域総合整備事業釜石地区	中山間地域総合整備事業高家地区
	県営土地改良総合事業太田地区	地方特定道路整備事業一関北上線舞川工区
	担い手育成基盤整備事業古城北部地区	緊急地方道整備事業薄衣舞川線中谷起工区
	担い手育成基盤整備事業姉体地区	県営ほ場整備事業姥沢上野地区
	中山間地域総合整備事業御淨地区	生活貯水池事業遠野第2ダム
	ため池等整備事業上野地区	広域営農団地農道整備事業
	越喜来地区住宅地造成事業	担い手育成基盤整備事業鍋倉地区
	担い手育成基盤整備事業下門岡地区	中山間地域総合整備事業新田郷地区
	担い手育成基盤整備事業黒岩第1地区	担い手育成基盤整備事業黒岩第2地区
	中山間地域総合整備事業大野地区	中山間地域総合整備事業黒岩地区

中山間地域総合整備事業浜田川地区	県単急傾斜地崩壊防止対策事業宇洞地区
県営畜産環境整備事業奥羽北部地区益花平1号線	県営畜産環境整備事業奥羽北部地区両沼清水線
県営畜産環境整備事業奥羽北部地区穴窪線	担い手育成基盤整備事業三照地区
主要地方道上米内湯沢線手代森地区道路改築	中山間地域総合整備事業鱒沢地区
地域環境保全林整備事業	主要地方道盛岡和賀線伝法寺地区道路改築
農地環境整備事業堺の沢地区	県営一般農道整備事業赤坂田地区
県営畜産経営環境整備事業奥羽北部地区	一般県道花巻空港線道路改良・花巻空港整備事業
主要地方道久慈岩泉線山根地区	中山間地域総合整備事業新渡戸地区
一般国道283号仙人道路道路改築事業	一般国道397号江刺伊手地区道路改良
一般農道整備事業太田地区	一般国道342号道路改築事業
県営公共牧場整備事業小石川地区	中山間地域総合整備事業新渡戸地区
県営畜産経営環境整備事業奥羽北部地区	一般河川広瀬川局部改良工事
急傾斜地崩壊防止対策事業	県際交流促進道路整備事業手倉森工区
主要地方道大槌川井線土坂地区道路整備事業	担い手育成基盤整備事業二子地区
主要地方道宮古岩泉線君田地区道路改良	主要地方道盛岡横手線湯本地区道路整備事業
北上川上流流域下水道石鳥谷幹線築造	主要地方道釜石遠野線橋野地区道路改良
一般県道盛岡鶯宿線交通安全施設整備事業	国道281号線元木地区道路改良工事
中山間地域総合整備事業葛巻北西地区	県際交流促進道路整備事業下野場工区
地方特定道路整備事業二戸安代線合川工区	緊急地方道整備事業長瀬橋下部工工事
河川局部改良八木沢川	一般県道宮古山田線石峠地区道路改良
急傾斜地崩壊対策事業	御所湖広域公園ファミリーランド東部地区整備
地方特定道路整備事業大川松草線	地方特定道路整備事業花巻北上線黒岩地区
県単急傾斜地崩壊対策事業花泉地区	担い手育成基盤整備事業湯本第四地区
花巻空港整備事業	主要地方道一関北上線立花地区
人首川広域河川改修事業A	広瀬川広域河川改修事業A
伊手川河川局部改良事業	山本川荒廃砂防事業
金ヶ崎町都市計画道路街路事業	重王堂沢荒廃砂防事業
一般県道岩崎藤根線和賀中央橋地方特定道路整備	急傾斜地崩壊対策事業
農免農道整備事業奥玉北部	畑地帯総合整備事業藤崎地区
畑地帯総合整備事業盛岡西部地区	盛岡広域都市計画道路津志田白沢線中村地区
蚕業試験場跡地地区宅地造成事業	県単河川改良事業
中山間地域総合整備事業御淨地区	広域農道整備事業二戸地区
葛根田橋橋梁整備（山村代行）工事	急傾斜地崩壊対策事業
県単道路改良事業金田一川工区	主要地方道軽米種市線荒屋敷、館野地区道路改良
一般県道明戸種市線小路合地区道路改良	久慈川筋川井地区県単河川改良
県道二戸軽米線道路改良平地区	新幹線関連道路整備事業宮沢工区
車両大型化対策橋梁整備事業蒔田橋工区	荒廃砂防事業
広域農道整備事業胆沢南部	
IV 柳之御所遺跡	93
V 写真図版	99

I 発掘調査

1 担い手育成基盤整備事業真城地区関連調査

真城落合遺跡（N E 36—0376）

所在地：水沢市真城字落合地内

事業者：岩手県水沢地方振興局胆江土地改良事業所

調査期日：平成9年3月3日～3月21日（15日間）

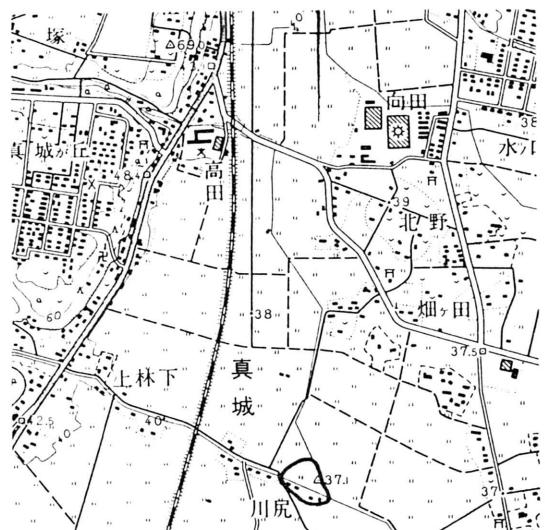
真城落合遺跡は北上川中流域の微高地に立地し、標高は37mほどで、周辺の低湿地との比高は1mほどである。遺跡中心部を大深沢川が東流しているが、これは河川改修による流路の変更によるものであり、遺跡範囲は河川を挟んで広がる。今回の調査は河川の付け替えに伴うもので、河道が第2図のドット部分を横断するため、記録保存を目的とした発掘調査が必要になったものである。

試掘調査では近世民家跡と考えられる柱穴群と遺物のほ

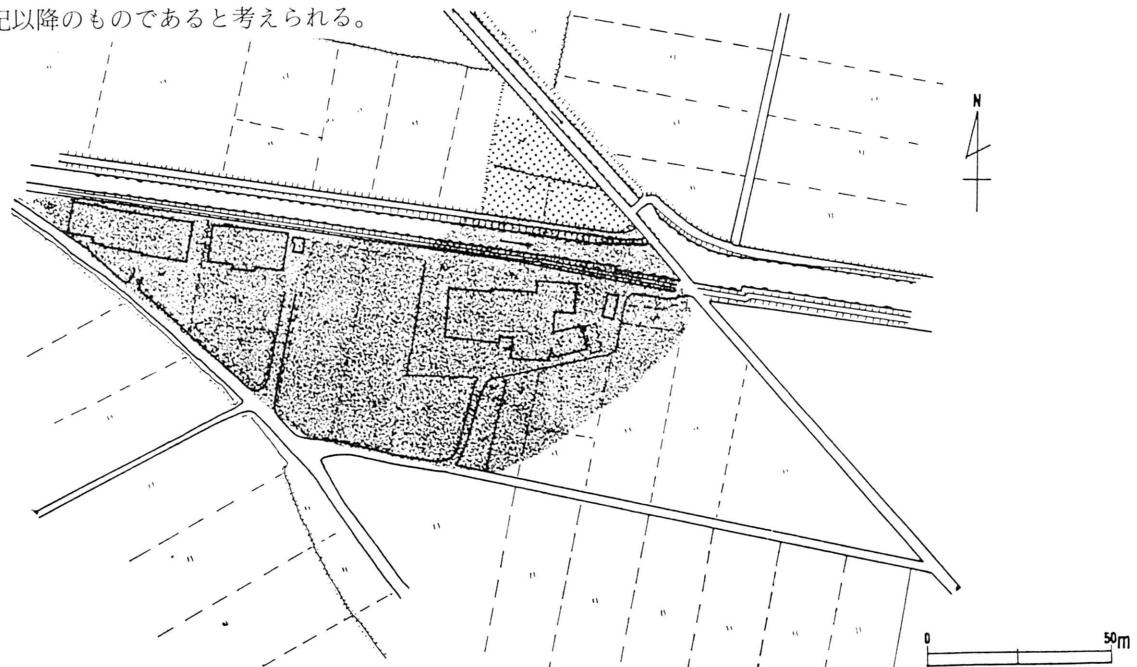
かに、土師器・須恵器が確認され、平安時代の遺構の所在の可能性も指摘されていた。

調査の結果、多数の柱穴が検出され、その分布は調査区域南側と北側の二カ所に集中した。埋土と遺物の状況から複数の近世建物跡が所在することが判明した。また、伝承では本調査区域は鍛冶場とされており、調査区域東端から鉄滓の出土も確認された。調査範囲内では鍛冶遺構は確認されなかったが、製鉄関連遺跡の性格も併せ持っていたものと考えられる。古代の遺構は、近世民家の造成の際に破壊されたものと考えられるが、検出された柱穴群の中に古代に属するものが含まれている可能性がある。

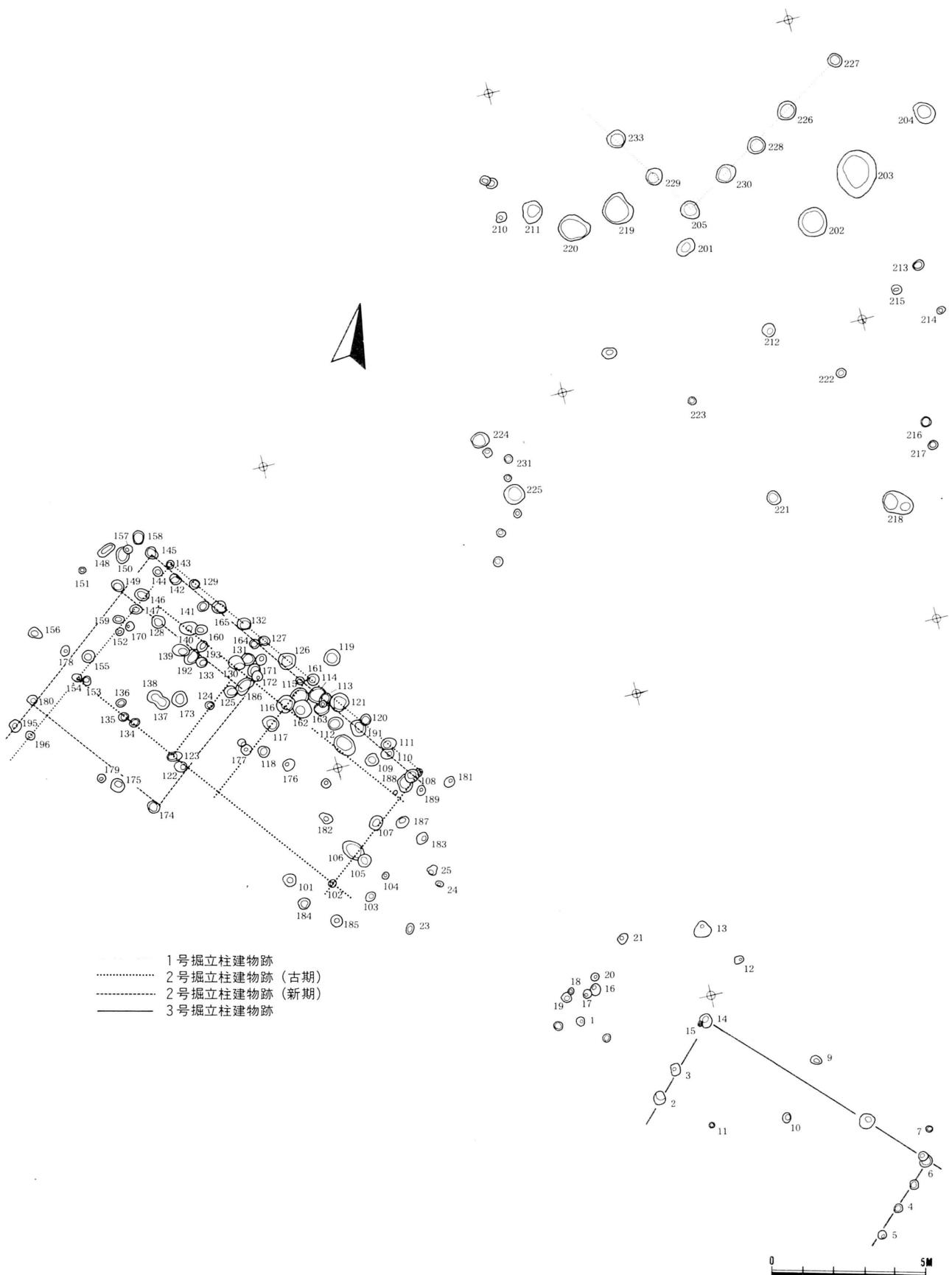
遺物1は底部に回転糸切痕のある陶器擂鉢で、胎土は暗赤褐色、外面に鉄釉が見られ、19世紀前半のものと考えられる。条痕の遺存状況は良好で使用頻度は低かったものと考えられる。遺物2は凝灰岩質の砥石で、両面および右側面と稜線部分にも使用痕跡が認められる。その他の遺物は17世紀前半、18世紀、19世紀前半の陶磁器が検出されている。P131から、18世紀の瀬戸美濃が検出されており、2号掘立柱建物跡（古期）は18世紀以降のものであると考えられる。



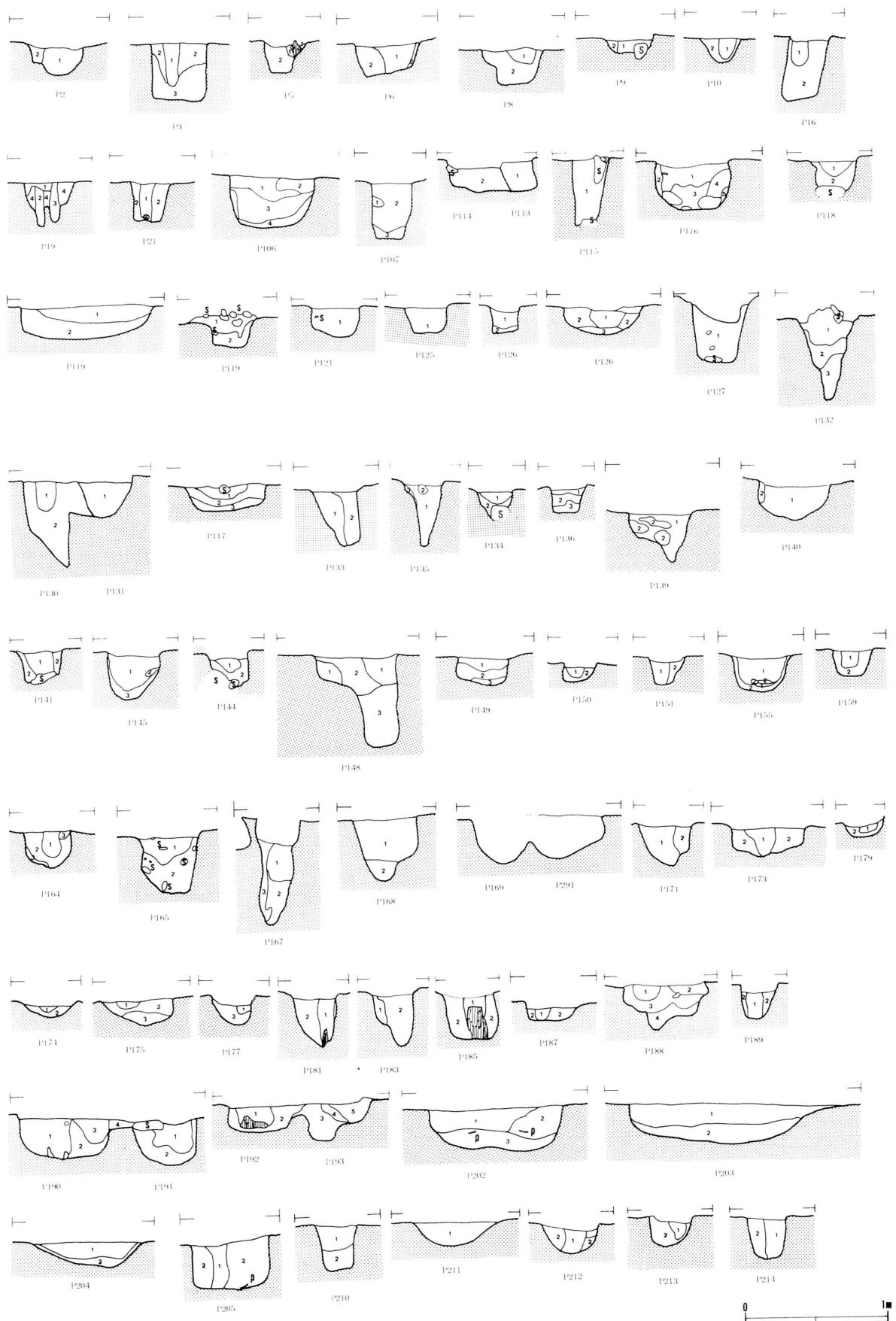
第1図 真城落合遺跡の位置



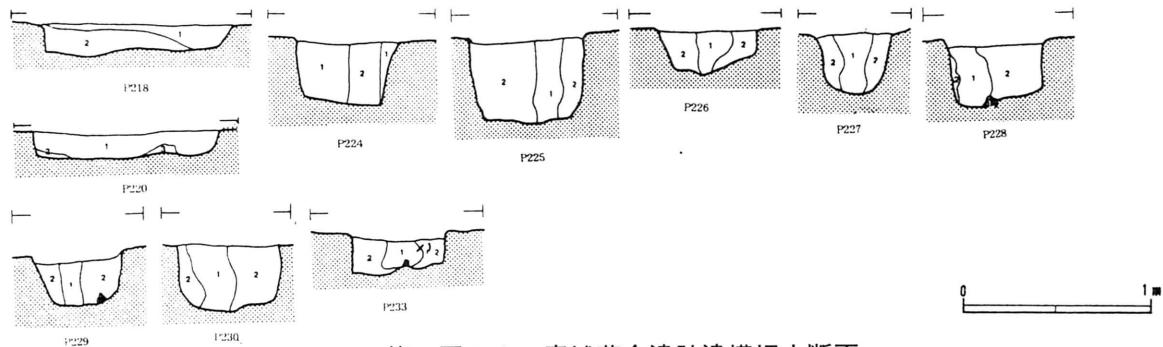
第2図 真城落合遺跡調査区位置図



第3図 真城落合遺跡遺構配置図



第4図の1 真城落合遺跡遺構埋土断面



第4図の2 真城落合遺跡遺構埋土断面

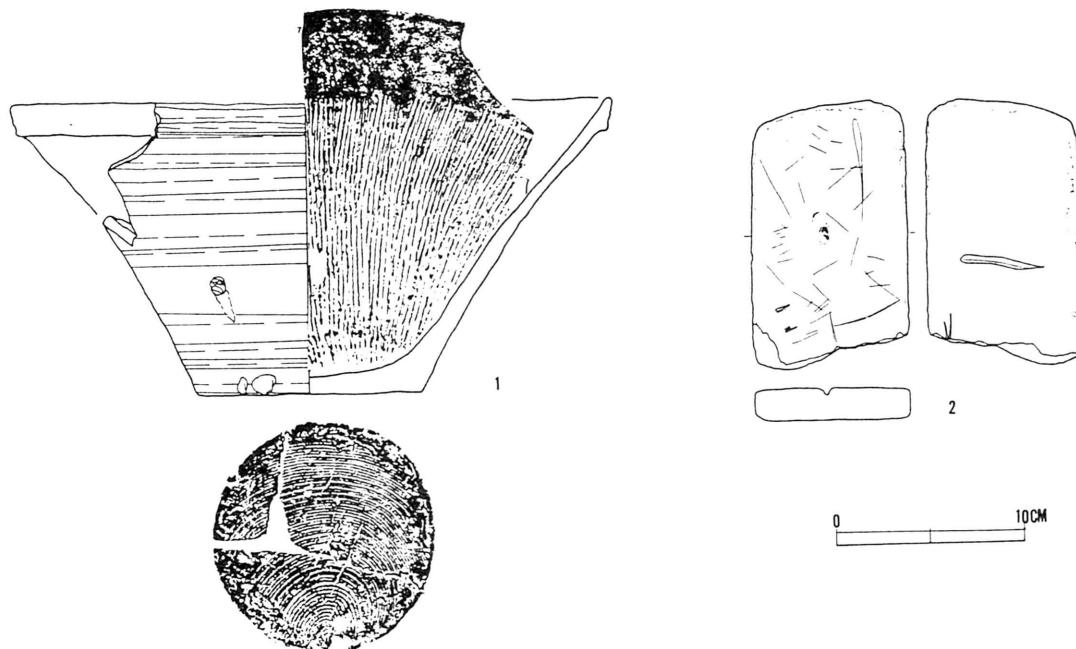
第1号掘立柱建物跡は南東コーナー部分が検出されたのみであり、建物跡を構成する柱穴の多くが調査区外にわたっているため、その全容については不明である。柱間寸法は、P223-P229(1.8m)、P229-P205(1.7m)、P205-P230(1.8m)、P230-P228(1.5m)、P228-P226(1.6m)、P226-P227(2.3m)である。

第2号掘立柱建物跡も一部の検出であり、その全容は明らかではないが、最低2期の変遷が考えられる。古期の建物跡は桁行8間+ α 、梁行4間+ α であり、上手に3間×3間の部屋が造られている。東側の柱穴については一部新期のものと重複する。新期の建物跡は古期のものよりやや東側に偏って構築されており、桁行10間+ α 、梁行6間+ α の直屋と考えられる。柱間は平均0.9mであり、上手に2間×3間、3間×3間の部屋が造られている。古期、新期とも桁行の軸方向はN60°Wで、北側に下屋がついている。

第3号掘立柱建物跡は、桁行の軸線を第2号掘立柱建物跡と同一とし、2号建物と同時期に存在していたものと考えられる。桁行3間+ α (柱間2.3m)、梁行3間+ α (柱間0.9m)で、P6周辺に焼土が分布している。

いずれの建物跡も、構成する柱穴には柱痕跡が認められるものや、柱材が残存しているものがあり、第2号、第3号建物跡には柱穴底面に偏平な礫が認められるものもある。また、第1号掘立柱建物跡と第2号掘立柱建物跡との間の、遺構密度の低い範囲も当時の生活空間の一部を構成していたものと考えられる。

なお、第2号住居南側の遺構空白区域は、祠と立木が所在するため調査が及ばなかった区域である。



第5図 真城落合遺跡出土遺物

表 真城落合遺跡柱穴一覧

柱穴番号	開口部規模(cm)	深さ(cm)	備考	柱穴番号	開口部規模(cm)	深さ(cm)	備考
1	36×24	20	ブロック状に褐色土含む	153	27×24	43	
2	36×36	22		154	27×21	53	
3	18×18	40	柱痕跡有り	155	39×36	26	
4	24×24	4	浅い	156	55×33	49	
5	30×27	24		157	30×27	22	
6	48×39	24		158	39×36	14	
7	18×15			159	30×24	18	
8	48×48	24		160	36×30	79	
9	30×27	18	底面に礫	162	60×54	28	黄褐色土斑状に含む
10	30×27	26	柱痕跡有り	163	45×45	21	
11	15×15	17		164	30×27	26	炭化材含む
12	30×27			165	45×39	46	炭化材含む
13	51×51			166			柱痕跡有り
16	33×30	46		167		76	柱痕跡有り
17	21×21	43		168		44	埋め戻し?
19	36×27	30	柱痕跡有り	169			
20	24×24	43		170	30×24	46	グライ化、粘土質
21	30×27	28	柱材残存	171	39×30	32	
22	12×12	7		172	30×30	28	
23	33×21	12		173	51×48	22	
24	21×15	16		174	39×39	12	
25	33×30	24		175	48×42	18	
101	39×39	26		176	36×33	38	
102	21×21	19		177	33×33	22	
103	36×27	26		178	33×30	18	グライ化、粘土質
104	21×21	32		179	30×27	12	
105	39×36	18		180	30×30	22	
106	66×51	36		181	33×27	36	底面に材残存
107	45×39	51		182	39×30	16	
108	54×36	47		183	39×30	42	
109	36×36	9	埋土最上部に礫	184	45×42	21	
110	39×33	22		185	36×33	36	柱材残存
111	54×39	37		186	33×30	53	
112	42×39	23		187	39×30	14	
113	39×30	22	P114より新	188	60×45	34	
114	45×45	22		189	30×21	26	柱痕跡有り
115	21×21	40	底面に礫	190		32	柱材残存
116	54×51	34	底面に礫	191	48×45	34	柱材残存
117	54×45	18	埋土上部に礫	192	51×33	18	
118	36×33	32	底面に礫	193	33×27	30	
119	51×51	24	埋土上部に礫	195	27×21	9	
120	30×30	28		196	39×36	25	
121	60×57	24		201	63×48	15	
122	39×30	45		202	93×90	30	遺物含む
123	39×36	69		203	150×123	30	酸化鉄多く含む
124	21×21	48		204	72×60	16	
125	36×34	20		205	60×54	36	柱痕跡有り
126	57×51	20		210	36×30	32	
127	36×33	30	底面に礫	211	74×66	14	酸化鉄含む
128	39×36	18	底面に礫	212	39×39	24	柱痕跡有り
129	33×30	32		213	30×27	20	
130	54×51	60		214	27×21	30	
131	39×39	24		215	21×18	11	粘土質土
132	45×36	64	埋土上部に礫	216	30×27	25	酸化鉄多い
133	33×30	40		217	36×24	41	酸化鉄多い
134	27×27	20	底面に礫	218	99×66	16	粘土質シルト、酸化鉄多い
135	27×27	46		219	99×96	23	
136	24×24	24		220		16	柱痕跡有り
137	42×39	50		220	111×102	14	
138	48×45	21		221	45×36	11	シルト、粘性有り
139	48×33	58		222	21×21	30	
140	57×42	36		223	21×21	19	
141	33×33	24	底面に礫	224	60×48	36	柱痕跡有り
142	36×33	56		225	69×66	48	柱痕跡有り
143	21×21	20		226	60×54	24	柱痕跡有り
144	27×27	26	底面に礫	227		32	柱痕跡有り
145	39×36	34		228	54×51	34	
146	42×33	50		229	27×27	30	柱痕跡有り
147	36×30	31		230	60×54	34	柱痕跡有り
148	42×27	64		232	45×33	50	
149	42×33	20		231	24×24	26	
150	54×45	16		233	57×57	24	底面に材残存
151	21×21	32		291		28*	
152	21×18	41					

2 二級村道川井線川井地区市町村道整備関連調査

大平遺跡 (J F 46-0153)

所在地：山形村川井第4地割地内

事業者：岩手県久慈地方振興局土木部

調査期日：平成9年11月25日～26日（2日間）

遺跡は久慈川と遠別川の合流点付近に形成された高位の河岸段丘及び丘陵から延びる尾根上に立地している。

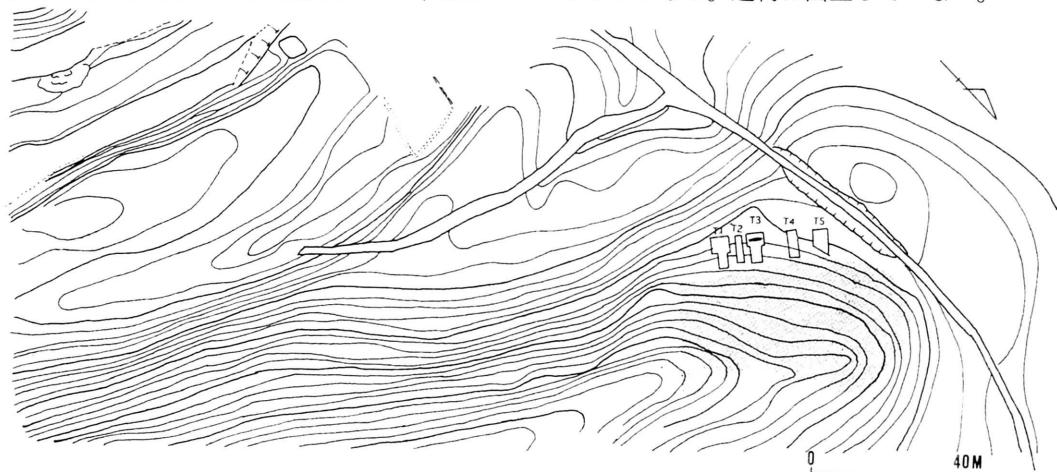
遺跡から南東方向は、かなりの急傾斜となり遠別川に面した低い段丘面につながっている。標高252m。

この段丘上及び丘陵尾根上に村道が新設されることから、平成8年度に試掘調査を実施した結果、主として尾根の頂部付近で縄文時代早期の土器片が確認された。それにより、平成9年度に財團埋蔵文化財センターによる1,800m²の本発掘調査が実施された。

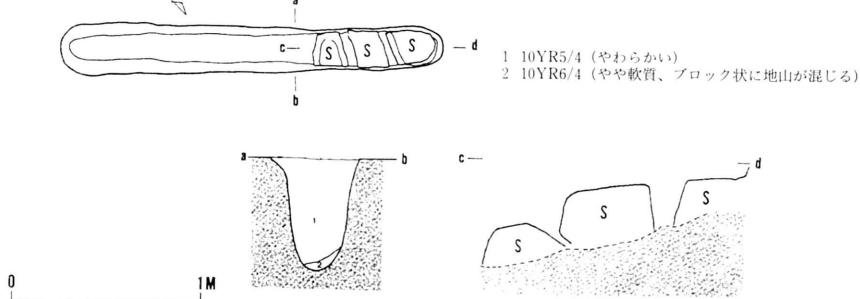
ところが、発掘調査着手中に、調査対象地の西側斜面部分に約200m²ほどの民有地のまま道路工事と一体化して掘削を行う箇所が所在することが判明した。そのため、財團埋蔵文化センター及び久慈地方振興局土木部と対応について協議した。その結果、この部分について、財團埋蔵文化センターの新たな調査区として追加することが困難であるとされたため、やむを得ず当課による緊急の記録保存を実施した。斜面に沿って5箇所のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。その結果、T3において溝状の落とし穴状遺構が検出された。底面南側が地山の角礫によって掘り込みが中止されているものである。遺物は出土していない。



第6図 大平遺跡の位置



アミ部分 H 9年度本調査区



第7図 大平遺跡調査区位置図・遺構

II 試掘調査

1 北上川上流改修事業川崎地区築堤工事関連調査

河崎の柵跡擬定地（O E 09—1173）

所在地：東磐井郡川崎村門崎地内

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成9年12月3日～5日（3日間）

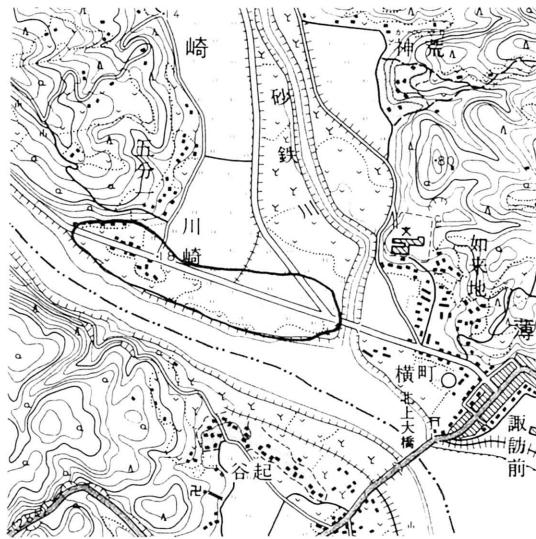
遺跡は川崎村門崎地内の砂鉄川と北上川の合流点付近に位置し、両河川に挟まれた自然堤防上に位置している。遺跡の標高は15～16mである。この付近は、北上川上流域で集中豪雨等があった場合、砂鉄川及び千厩川の逆流によって冠水し、しばしば重大な被害を受けている。遺跡の立地する自然堤防も、このような冠水が幾度となく繰り返されて形成されたものと理解できる。

「陸奥話記」天喜5年11月条に登場する安倍氏の城柵のひとつである河崎の柵については、この調査地付近が有力な擬定地とされ、川崎村の村名もこれに由来する。しかし、具体的調査が実施されておらず、比定箇所については地元研究者間でも意見が分かれている。

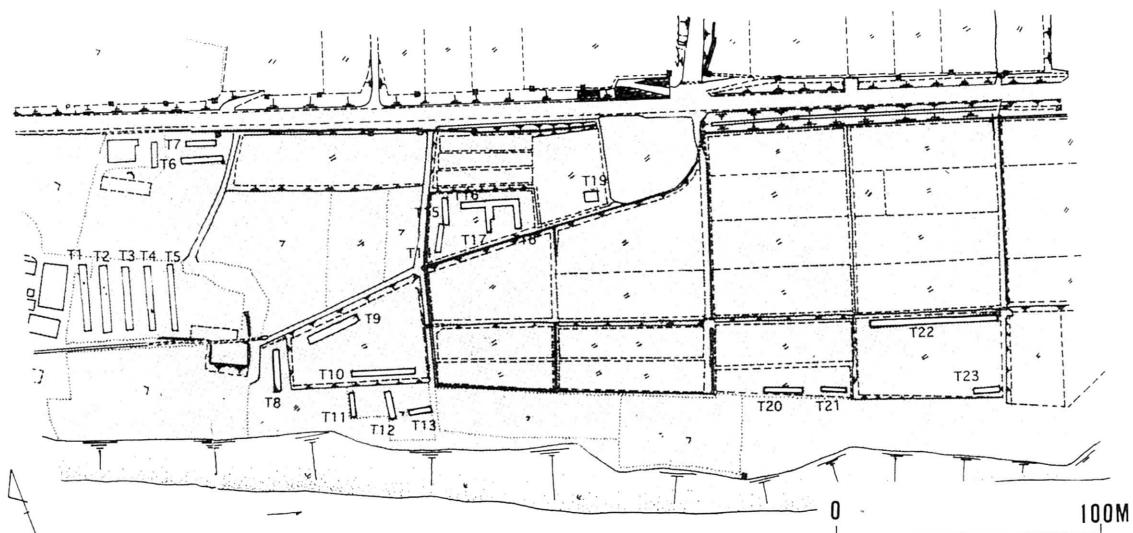
すでに、平成8年度に砂鉄川河口に近い東側地区について調査を実施している。東側地区は、今年度調査を実施した西側地区より標高が1m前後低いため、ほとんどが水田として利用されている。前回調査では、西側微高地に近いトレンチから内黒処理された土師器片が1片出土している。

今回の調査は西側地区に加え、東側地区についても地元伝承による運河状遺構等さらに下層遺構面が存在している可能性があると仮定して、追加調査を実施している（T20～23）。しかし、これらの調査区では、洪水による砂層の堆積が複数観察されたものの遺構・遺物の出土はなく、遺跡範囲から除外できる可能性が高まっている。

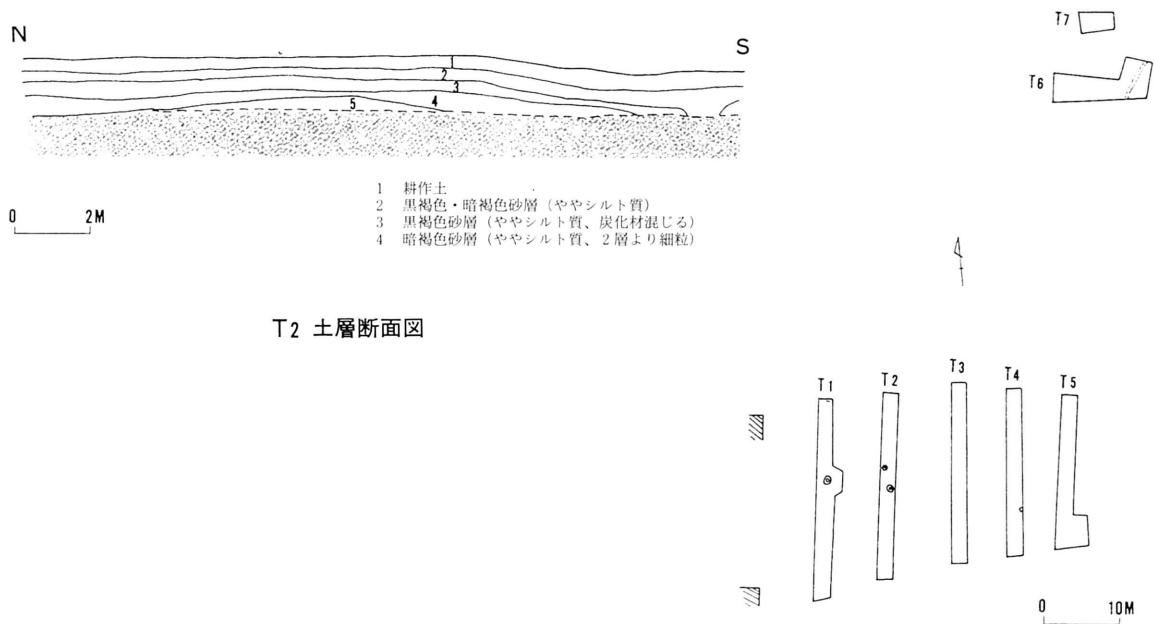
一方、西側調査区については、畠地及び宅地として利用されていることから、調査範囲が限定されている。今回は、主に立ち入り可能な畠地部分について調査の対象としている。T1～5について、自然堤防の最も高い部分に、T6、7を県道脇の北側緩斜面に設定した。



第8図 河崎の柵跡擬定地の位置



第9図 河崎の柵跡擬定地調査区位置図



第10図 河崎の柵跡擬定地遺構

その結果、現在の耕作土下には比較的近年の洪水による堆積層と考えられる、黄褐色の砂層に濁った褐色の砂層が互層をなして堆積する（2層）。この層では、ビニル片などが出土する。さらに下層（3層～5層）では、T 1～5 のいずれのトレンチでも近世の複数枚の遺構面が検出されている。これらのトレンチで検出される遺構には、小礫を多数使用し堀方を固定する柱穴列跡や、素掘の掘立柱建物跡などで、建物配置を復元できるものもある。また、3層・4層上面では、貯蔵穴と考えられる袋状の土坑などが複数検出されている。土坑は、上部が洪水作用により流出している場合もある。これらは、3～5層の中でもさらに細かな上下差が認められることから、堆積層を詳細に検討することで、建物配置の時間的変遷を追うことが可能であると考えられる。出土遺物は、近世の陶磁器片である。18世紀から19世紀代のものと考えられる。

T 6、7では、同様に2mほど掘り下げたところにやや粘土質の土壤が確認されている。部分的に褐色を示すところから遺構の可能性を検討し精査したが、現段階では自然堆積によるものと考えている。また、T 9～13では、150cmほど掘り下げたところで、T 1～5 同様の陶磁器片及び焼土・炭化物が確認された。

いずれのトレンチでも、2m付近まで掘り下げた段階で崩落の危険が高くなることから、それ以上の掘り下げは見合わせている。ただし、以下は現在の北上川の通常の河水面より低くなることから、遺構の所在する可能性は極めて低いものと考えられる。

この遺跡については、平成10年度に再度試掘調査を実施する予定である。

2 一般国道4号改築事業（平泉バイパス）関連調査

佐野遺跡（N E 86-0152）

所在地：西磐井郡平泉町字佐野

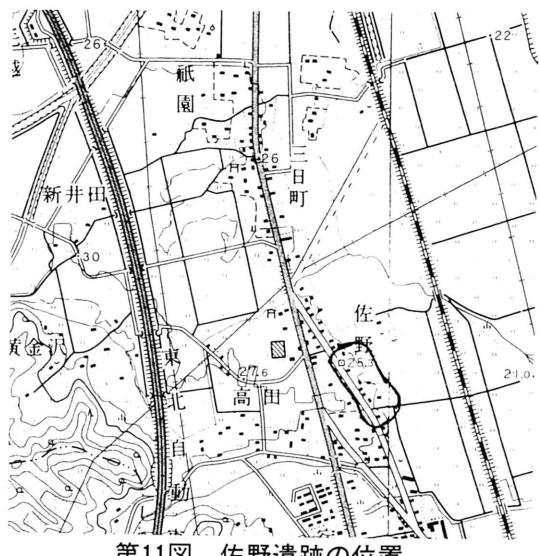
事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成10年12月5日

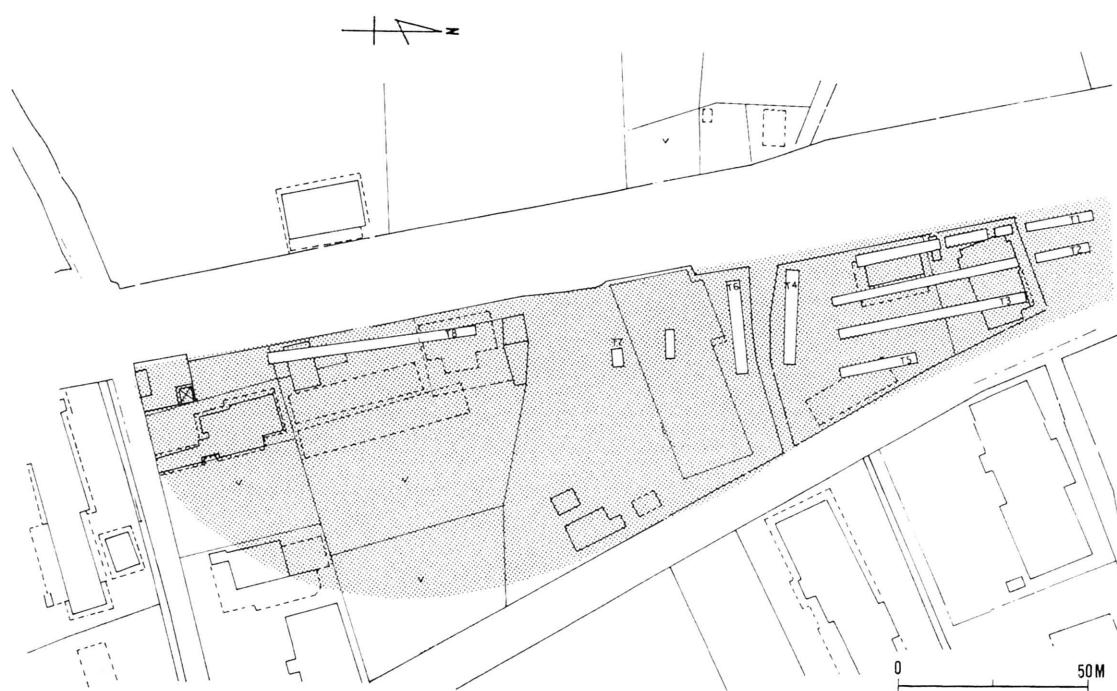
遺跡は平泉町中心部の南方約2kmに位置し、北上川西岸に広がる低位の河岸段丘上に立地する。標高約24m、北上川との比高差約4mで、現況は水田・畑地等となっている。

今回の調査は道路建設工事に伴うもので、旧宅地部分の一部を除きほぼ全域を対象として試掘トレンチを設定した。調査の結果、一段低いT1～T5付近は、宅地造成等によって大幅な地形の改変を受けており、遺構・遺物とも発見されなかった。しかし、隣接するT6では表土直下に地山の黄褐色土層が確認され、時期不明の溝ないし土坑が検出されている。なお、T7では地山の黄褐色土と褐色土の混塊土層が確認されており、住宅建築・撤去等に伴い削平等を受けている可能性が強い。

T8では表土下に厚さ10～40cmの搅乱層が観察される箇所も認められるが、南北に延びる溝や小規模な土坑類が検出されている。（平成10年度本調査予定）



第11図 佐野遺跡の位置



第12図 佐野遺跡調査区位置図

3 一般国道4号改築事業（平泉バイパス）関連調査

三日町II遺跡（N E 86-0120）

所在地：西磐井郡平泉町字三日町

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

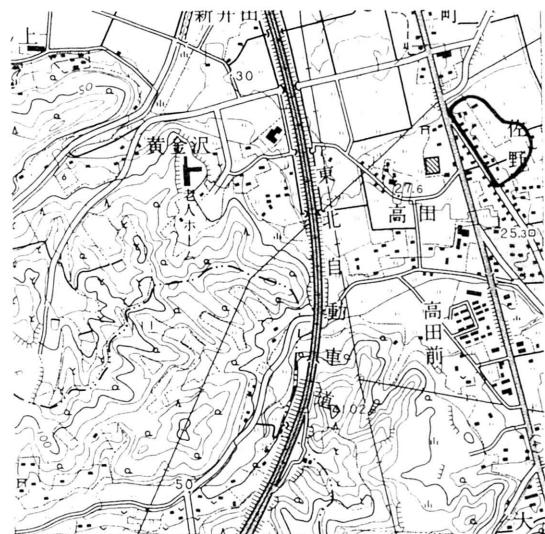
調査期日：平成10年11月27日・28日（2日間）

遺跡は平泉町中心部の南方約1.5kmに位置し、佐野遺跡とほぼ接している。北上川西岸に広がる低位の河岸段丘上に立地し、標高約22m、北上川との比高差約2mで、現況は水田・宅地等となっている。

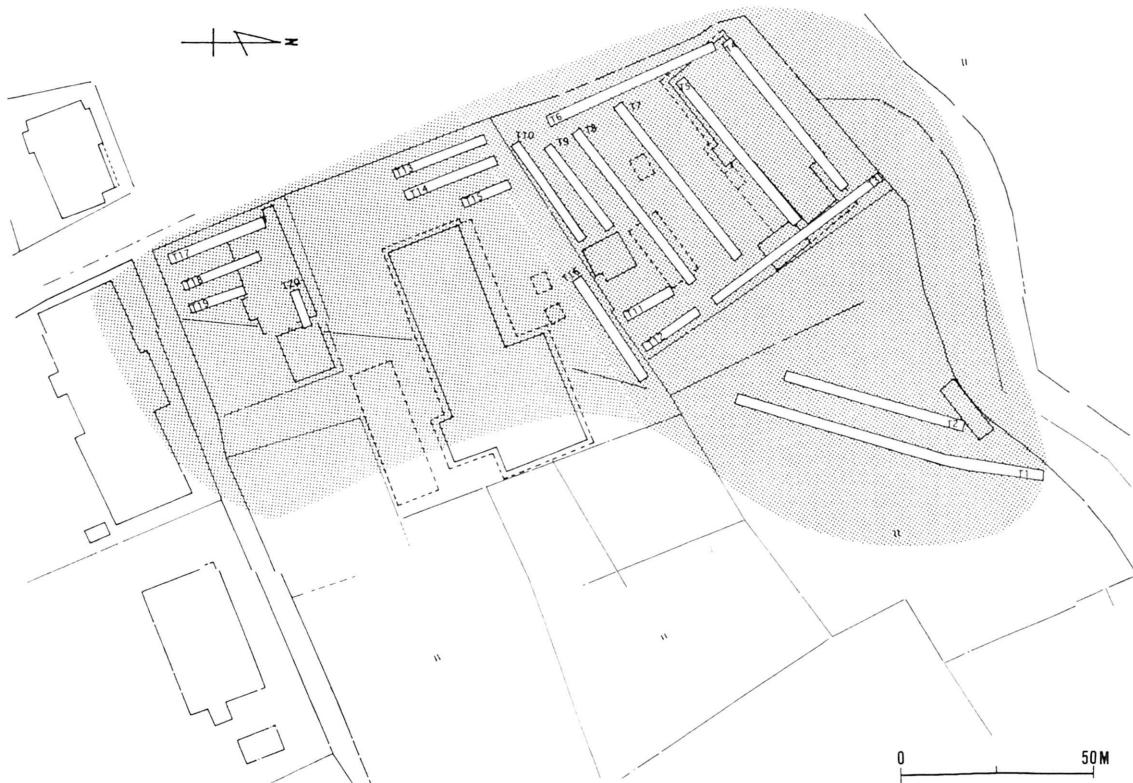
調査は道路建設工事に伴うもので、ほぼ全域を対象として試掘トレンチを設定した。調査の結果、開田によつて削平されているT1・T2付近では表土直下に地山の黄褐色土層が確認され、うちT2からは小規模な竪穴状

遺構、溝ないし土坑が検出されている。また、T3～T5では住宅建築に伴う40cm前後の盛土層（地山の黄褐色土を基本とする混塊土層）が認められ、T3からは溝ないし土坑、T4からは焼土、T5からは平安時代土師器の細片が出土しているほか、時期不明の柱穴が検出されている。

T6～T20からは遺構・遺物とも発見できなかった。T6～T12付近では安定した地山の黄褐色土層を確認できたが、T13～T20付近は宅地造成等に伴う大幅な地形の改変が行われており、30～70cmに及ぶ搅乱層が随所で観察された。（平成10年度本調査予定）



第13図 三日町II遺跡の位置



第14図 三日町II遺跡調査区位置図

4 一般国道4号水沢東バイパス事業関連調査

惣前町遺跡 (N E 17-1026)

所在地：水沢市佐倉河字惣前町地内

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成9年11月12日

遺跡は水沢市佐倉河地内にあり、北上川西岸の沖積地中の微高地上に立地している。遺跡の標高は38m前後である。

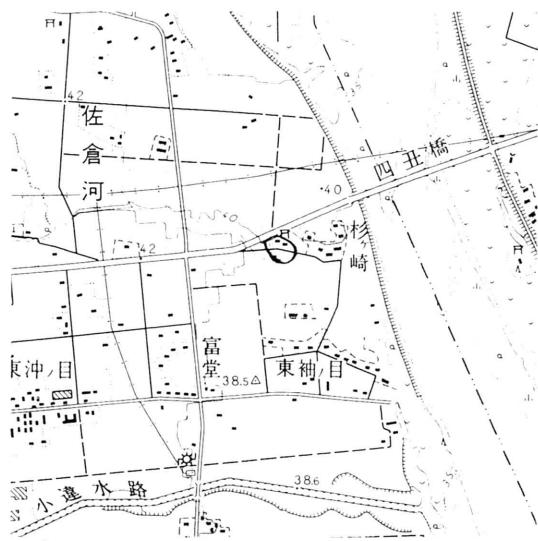
今回の調査範囲に隣接する北側については既に試掘調査が行われ、その際は埋蔵文化財は確認されなかった。

今回の調査では、事業予定地内に5箇所の試掘トレンチを設定している。その結果、T4で耕作土直下から縄文時代（後・晩期？）の竪穴住居跡と考えられる遺構とT5で縄文土器の散布が認められた。はっきりとは確認できなかったが、何らかの遺構が存在する可能性がある。

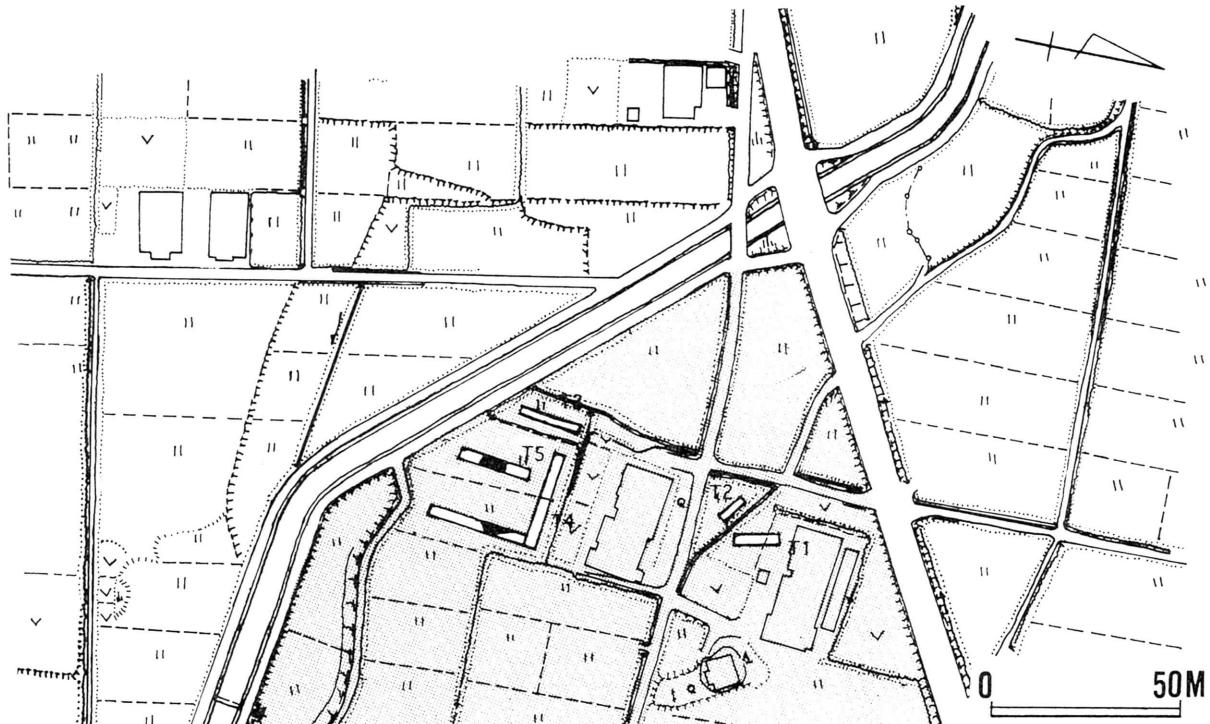
T4の北側についても縄文土器が散布している。

T1については、表土の下がすぐ黄褐色の地山になっており、ある程度削平されていると思われる。T2は南側の民家の周囲に比べるとやや低くなっている。耕作土の下もすぐにグライ化した青灰色の粘土質の層が続いている。T1・2については埋蔵文化財は確認されていない。

(平成10年度本調査予定)



第15図 惣前町遺跡の位置



第16図 惣前町遺跡調査区位置図・出土遺物

5 一般国道4号花巻東バイパス事業関連調査

石持I遺跡(ME16-2117)

所在地：花巻市東宮野目地内

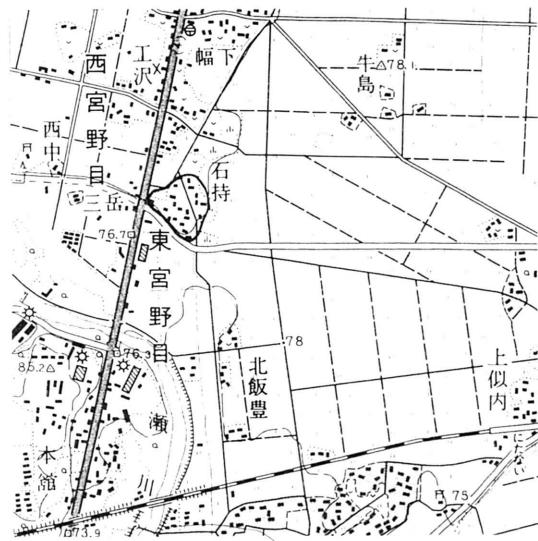
事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成9年11月14・28日（2日間）

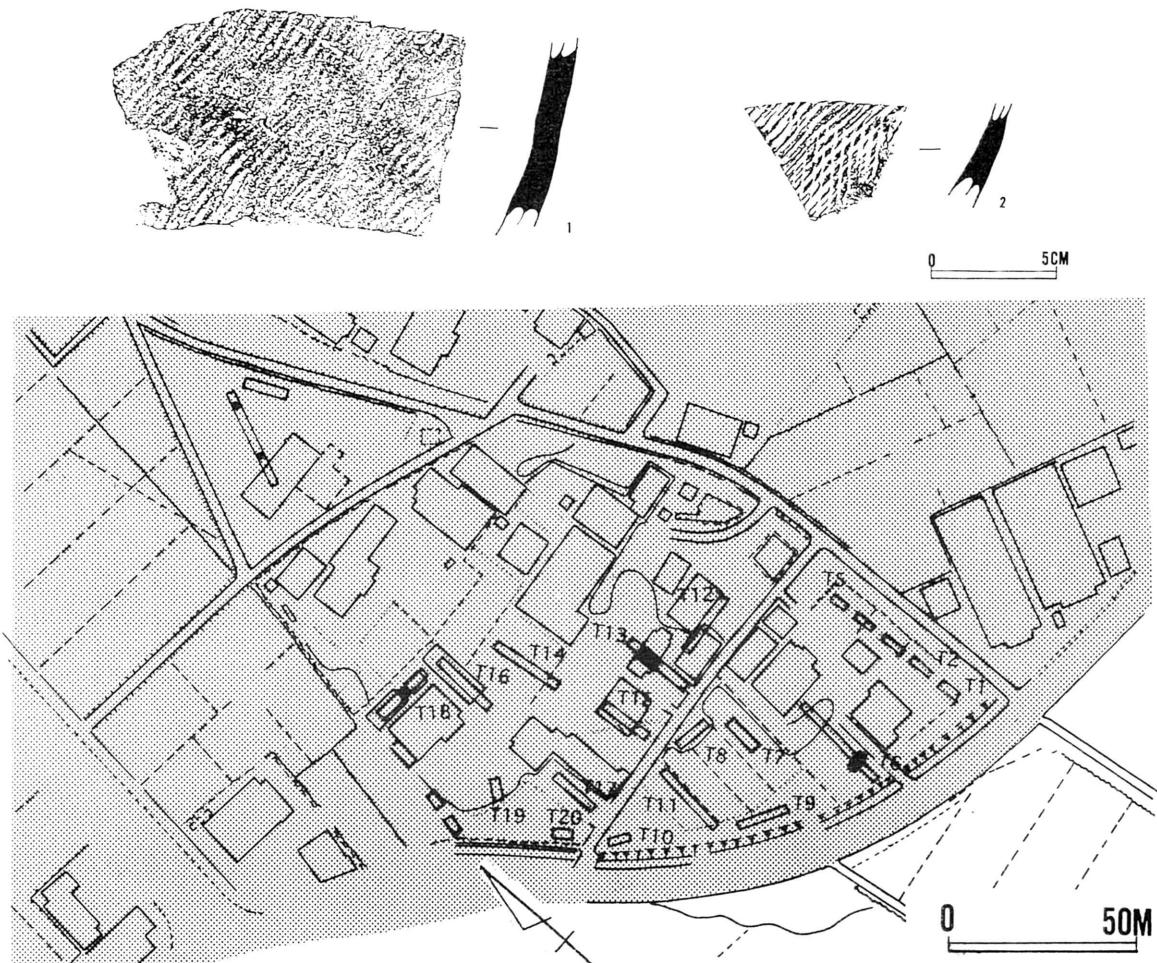
遺跡は花巻空港の南側に広がる沖積地中の微高地に立地している。遺跡の南側は水路で区切られている。標高は78m前後である。

今回の調査では二日間に亘って25箇所の試掘トレンチを設定している。その結果、平安時代の竪穴住居跡2棟、縄文時代の陥し穴状遺構2基、時期不明の柱穴状ピットなどが検出されている。

調査対象範囲の南側の水路に近い部分など調査区の一部は低湿地で、比較的最近埋め立てられている。こうした部分では遺構・遺物とも確認されていない。この南側の縁の部分を除いて調査区のほぼ全域に遺構・遺物が分布している。現況は住宅地となっており、宅地の造成による攢乱も受けている。（平成10年度本調査予定）



第17図 石持I遺跡の位置



第18図 石持I遺跡調査区位置図・出土遺物

6 日の出宿新築事業関連調査

日の出町 I 遺跡 (L G24—2003)

所在地：宮古市日の出町地内

事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所

調査期日：平成 9 年 12 月 1 日

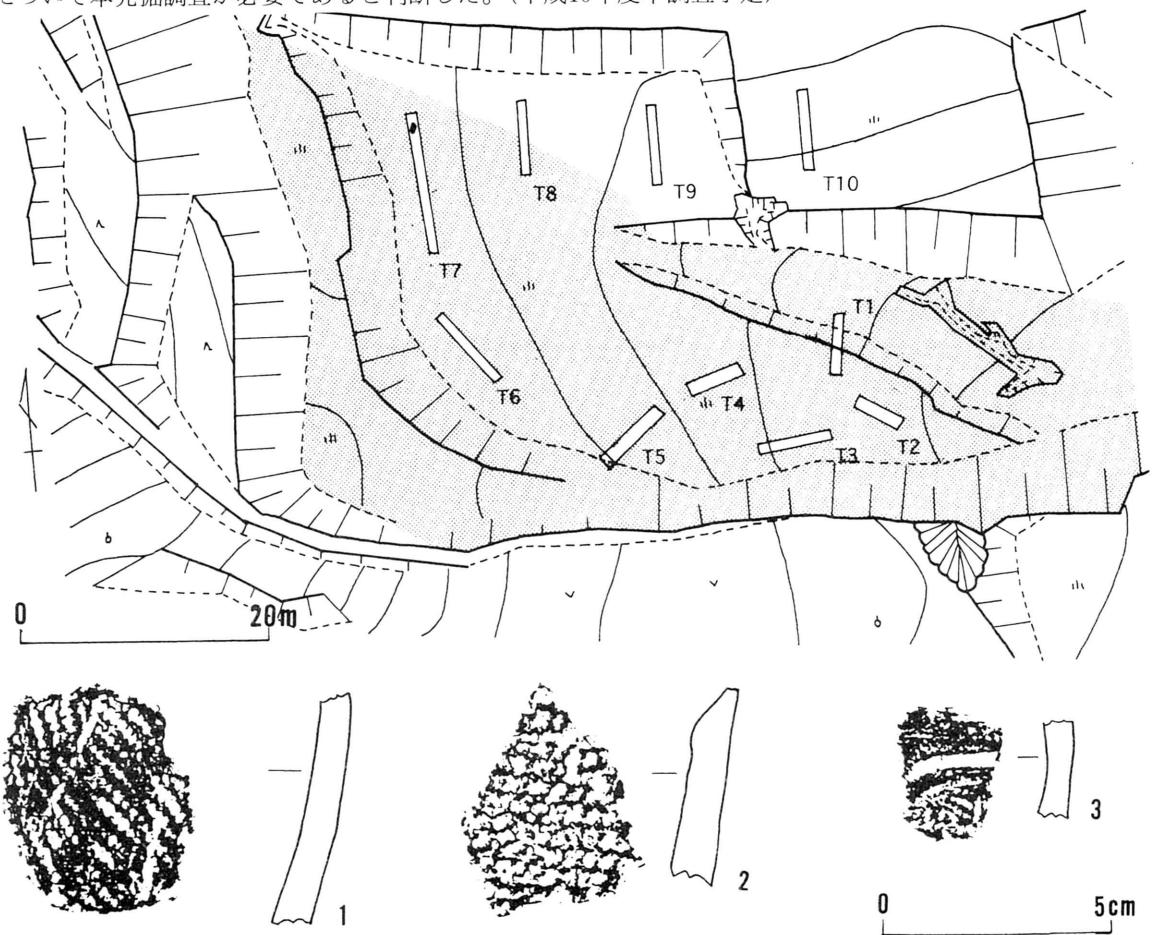
遺跡は宮古湾に延びる丘陵裾の北東向き緩斜面に立地している。標高約 100m。北側を国道45号が走るが、地形的には緩やかな傾斜が続いている。南側は一段高いやや平坦な部分で、畠地として利用されているが、近年は宅地化が進行している。

今回の調査は、三陸国道工事事務所職員宿舎建設に伴うもので、試掘調査を実施した時点で雑物等の除去がなされていた。

調査は、事業地中央に東西に流れる沢地を挟んで、その両側にトレーナーを設定して実施した。その結果、T 7 では暗褐色のローム質の地山面で小判型の小土坑が検出された。T 4～6 では、表土下の黒褐色土層中から胎土に纖維を含む縄文前期土器片及び中期の土器片が少量出土した。T 8～10 では、表土下に厚い花崗岩の風化土が堆積し、沢地南側とは土壤の堆積条件が異なっていた。以上より、沢地の南側を中心とする範囲について本発掘調査が必要であると判断した。(平成10年度本調査予定)



第19図 日の出町 I 遺跡の位置



第20図 日の出町 I 遺跡調査区位置図・出土遺物

7 世増ダム建設事業関連調査

長倉 VII 遺跡 (I F 63-2150)

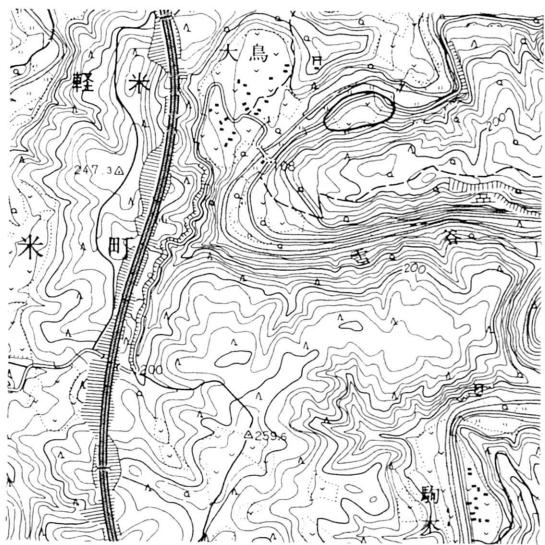
所在地：軽米町大字長倉間通仁久保地内

事業者：東北農政局八戸平原開拓建設事業所

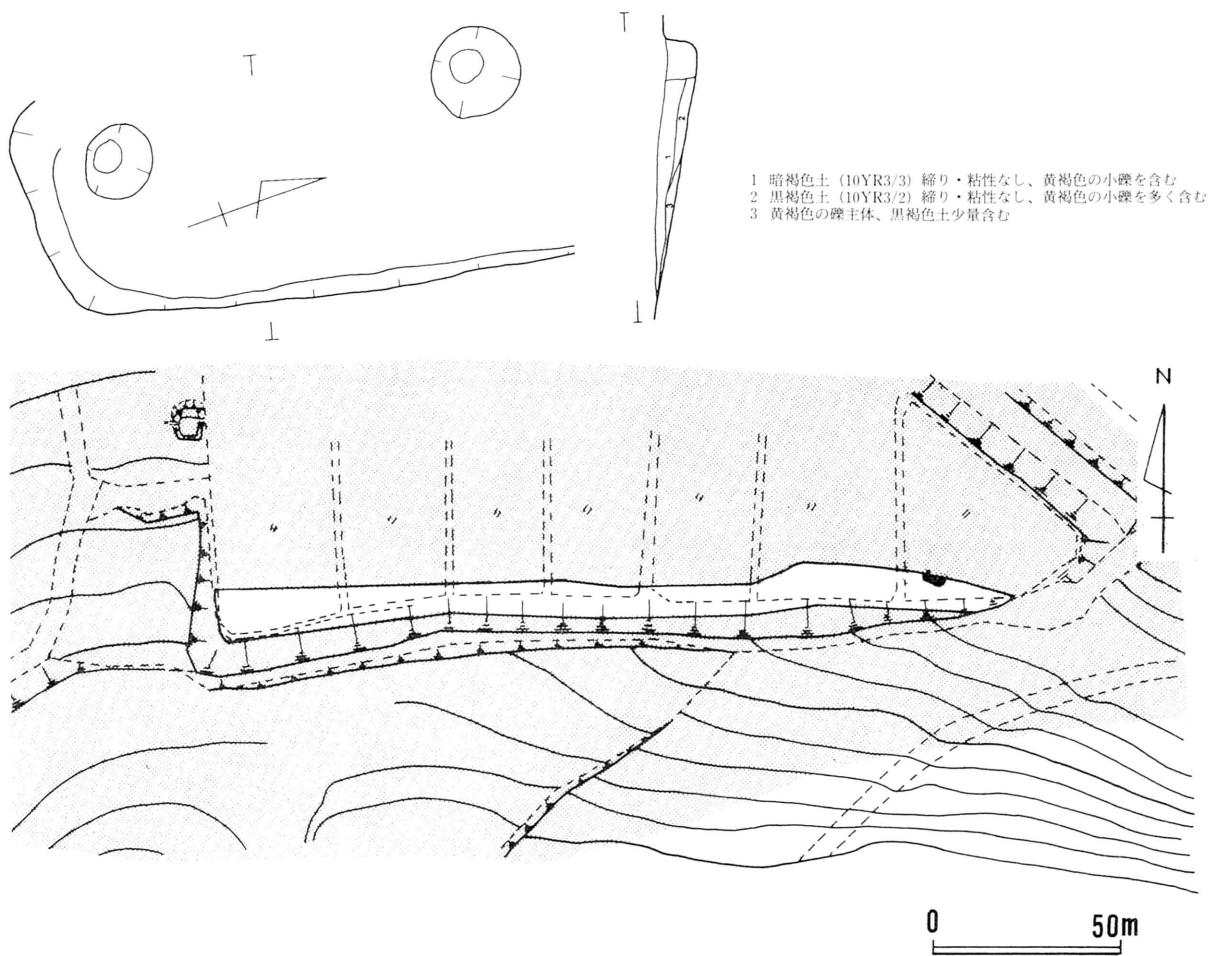
調査期日：平成 9 年 5 月 19 日

遺跡は雪谷川右岸段丘上に立地しており、標高は 115m 前後である。現況は水田であり隣接地を文化振興事業団埋蔵文化財センターが平成 7 年度に発掘調査を行っている。

今回の調査は事業の関係であらたに発掘調査が必要になった部分で、平成 7 年度の調査区に隣接する。調査の結果、調査区の西側については水田造成による大きな削平が行われており、埋蔵文化財は確認されなかった。東端付近で平成 7 年度の調査で確認された遺構の続きが検出された。遺構の平面形はやや崩れた長方形で斜面の上方には壁がわずかしか認められず下方にのみ確認された。また、床面からは柱穴が 2 基検出されており、何らかの上部構造を持つ竪穴状の遺構である。時期・性格ともに不明であるが、縄文時代までは遡らないと考えられる。



第21図 長倉VII遺跡の位置



第22図 長倉VII遺跡調査区位置図・遺構

8 東北横断道釜石秋田線関連調査

似内遺跡 (ME 16-2299)

所在地：花巻市上似内第10地割地内

事業者：日本道路公団東北支社北上工事事務所

調査期日：平成9年11月26日

似内遺跡はJR釜石線似内駅の北側にあり、北上川によって形成された沖積地の微高地上に立地している。遺跡の標高は75m前後である。

今回の試掘調査では道路予定地内に9箇所の試掘トレンチを設定し、埋蔵文化財の確認を行なっている。その結果、調査範囲のほぼ中央を南北に走る道路を挟んだ東側を中心に平安時代の竪穴住居跡をはじめとする遺構・遺物が確認された。遺構・遺物は西に向かうにつれて疎らになっていくが、道路の西側でも確認することができた。

東側ではT1・2・5で平安時代の竪穴住居跡が3棟検出されている。遺物も比較的多く、この東側が本遺跡の中心的な部分になると思われる。民家の移転の関係で調査できなかった部分もあるが比較的遺構密度が高いことが考えられる。検出面は耕作土から黒褐色土を一枚挟んだ3層の褐色土上面である。

西側では、遺構・遺物とも東側に比べて少なく、T6で焼土遺構が検出されている。遺物も東側に比べるとかなり少ないが、土師器片が若干表面採集できることや焼土遺構があること、地形的にも連続することなどから東側から延びる一連の遺跡の範囲内と考えることができる。(平成10年度本調査予定)



第23図 似内遺跡の位置



第24図 似内遺跡調査区位置図・出土遺物

9 東北横断道釜石秋田線関連調査

高松寺跡 (ME 27-1104)

所在地：花巻市矢沢字鞍掛地内

事業者：日本道路公団東北支社北上工事事務所

調査期日：平成9年12月8～9日（2日間）

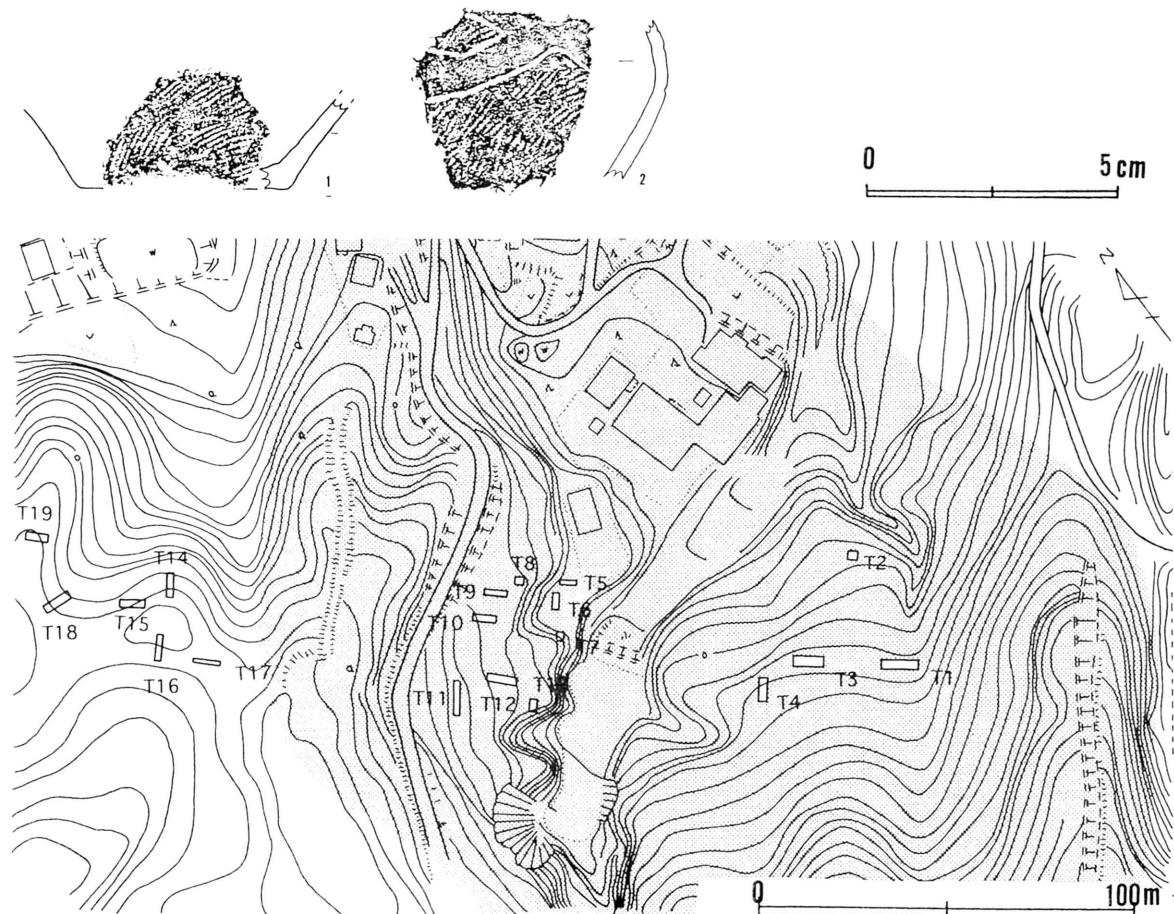
遺跡はJR釜石線新花巻駅の南方にあり、北側の小さな入江状の沖積地に流れ込む沢を挟んだ両側に広がっており、東西両側の丘陵も含んでいる。遺跡の標高は102～126mである。

今回の試掘調査では事業予定地内に任意に19箇所の試掘トレンチを設定している。西側ではT14～19まで試掘トレンチを設定しているが遺構・遺物とも確認できなかった。この範囲については遺跡から外して考えて良い

と思われる。その東隣の尾根には両側が土壘状になった尾根筋の道路跡と方形の土壘で囲まれた建物跡が確認されている。沢を挟んだ東側の尾根でも同様の道の跡が確認されている。寺跡に関連する遺構と思われる。遺跡の中央の沢付近では遺構・遺物とも確認されなかった。東側の比較的平坦な部分（T1～4）からは弥生時代の土器片と剝片が出土している。（平成10年度本調査予定）



第25図 高松寺跡の位置



第26図 高松寺跡調査区位置図・出土遺物

10 東北横断道釜石秋田線関連調査

狼沢 II 遺跡 (ME 15-1313)

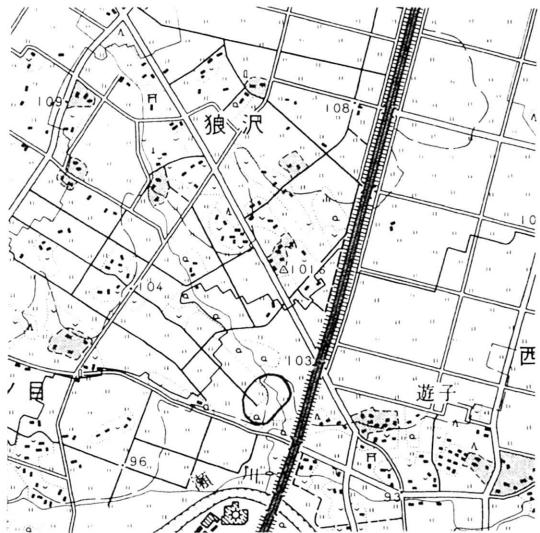
所在地：花巻市西宮野目地内

事業者：日本道路公団東北支社北上工事事務所

調査期日：平成 9 年 11 月 25 日

狼沢 II 遺跡は花巻インターの南約 2.5km の位置にあり、北上川によって形成された沖積地に向かった段丘の縁に立地している。遺跡のほぼ中央を東西に沢が横切っている。遺跡の標高は 95~97m である。

今回の調査では、事業予定地内に任意に 12箇所の試掘トレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認している。その結果、沢の北側については遺構・遺物とも確認できなかった。南側については調査区南端の T11 で古代の堅穴住居跡が検出された。遺物はごく小さな土師器片が 1 点出土しているのみである。この T11 付近は植林された杉林であるが比較的最近のもので、以前は畑として利用されていたと思われる。T 5・7 付近は地山が露出した状態になっており、遺構等は確認できなかった。T 12 周辺は低湿地で遺物等は出土していない。その他の部分は遺構等は検出していないが、T 11 と一緒に地形であり、削平も受けていないため古代の何らかの遺構・遺物が存在する可能性がある。(平成 10 年度本調査予定)



第27図 狼沢 II 遺跡の位置



第28図 狼沢 II 遺跡調査区位置図

11 東北横断自動車道釜石秋田線関連調査

上駒板遺跡 (ME 27-2317)

所在地：花巻市上駒板地内

事業者：日本道路公団東北支社北上工事事務所

調査期日：平成9年12月11日～12日、16日

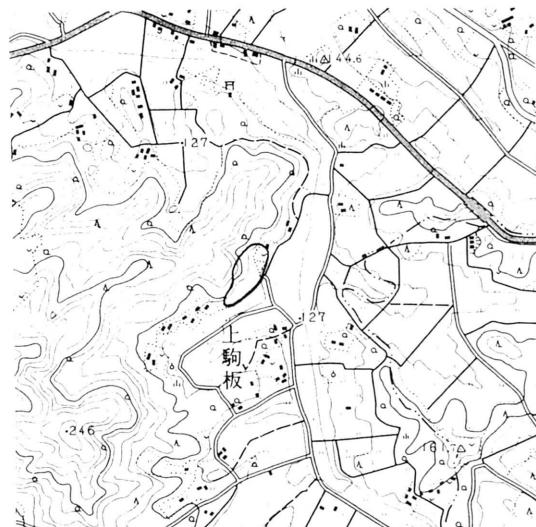
平成10年2月2日～3日（6日間）

遺跡は、北上山地内の小河川沿いに開けた沖積地に面する山地とその尾根部分に立地する。山地の頂上部分に祠があり、縄文時代の石棒が安置されており、関連する遺構が山地の尾根に所在する可能性が指摘されていた。また、尾根周辺の畑地では、土師器の散布が微量ながら確認されたほか、石鏸（第30図1）が採取された。山地から東に伸びる尾根は開田されており、地形の改変が進行している。

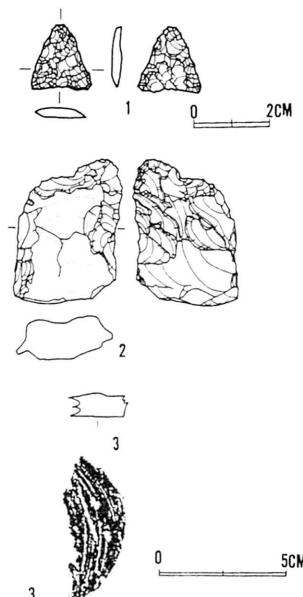
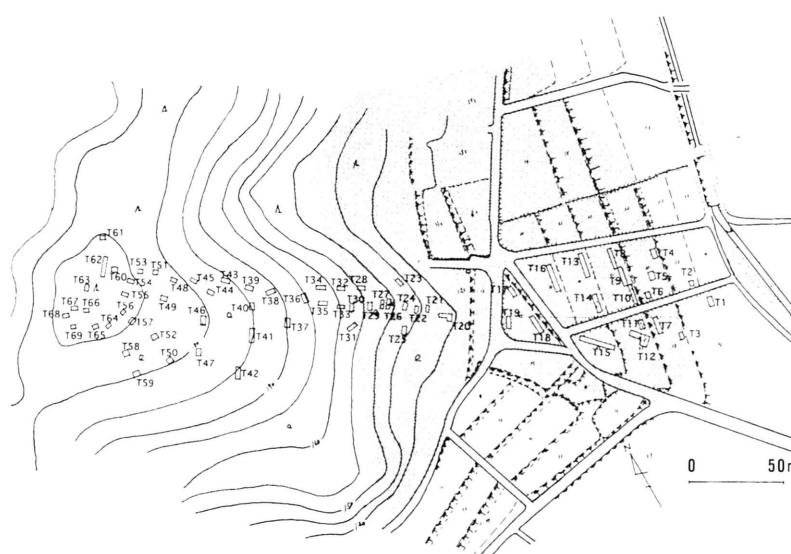
調査は水田部分は重機で表土を除去した後精査し、遺構の有無を確認した。T1～T2については、土層は湿地状の様相であり、遺物なども確認されていない。T3～T19については、地形の改変が著しいものの、部分的にプライマリーな土層の残存が確認され、T9～T12では柱穴状遺構が多数検出された。T12では土坑から糸切痕跡が確認される土師器底部（第30図3）が検出されたことから、付近の柱穴状遺構は9世紀後半～10世紀ごろのものであると考えられる。

山地部分は重機の進入が不可能であるため、人力によるトレンチを設定し、埋蔵文化財の所在の有無を確認した。その結果、T26で幅100cm、深さ80cmの人为的な掘り込みが検出された。埋土からは石器（第30図2）が検出された。また、T27では幅30cmの溝状遺構が確認された。これより西側の尾根および沢地付近では、遺構の所在は確認されなかった。

柱穴が確認された水田部分および、それから延びる尾根部分の下部までが遺跡の範囲と考えられる。（平成10年度本調査予定）



第29図 上駒板遺跡の位置



第30図 上駒板遺跡調査区位置図・出土遺物

12 東北新幹線建設事業関連調査

芦名沢II遺跡 (KE47-1367)

所在地：玉山村馬場字芦名沢地内

事業者：日本鉄道公団盛岡支社

調査期日：平成9年11月14～15日（2日間）

遺跡は姫神山より流れる小河川によって形成された河岸段丘状の微高地に立地する。標高210m。遺跡付近では北側及び南側より小河川が流入し、それぞれ小扇状地形を形成し、芦名沢I遺跡及びII遺跡が立地している。芦名沢I遺跡については平成9年度に本発掘調査が実施されており、縄文時代・平安時代の遺構が検出されている。

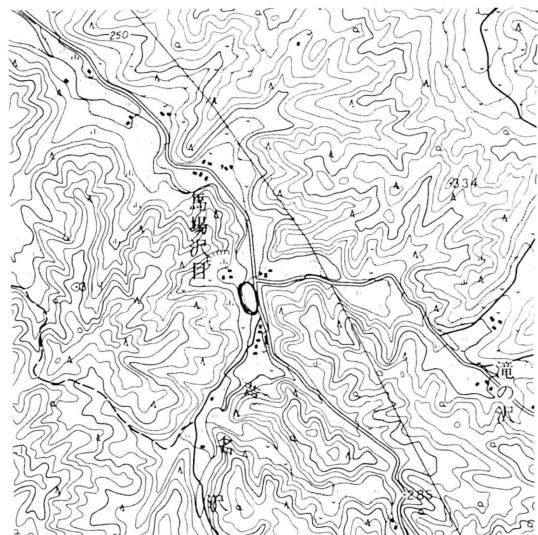
今回調査した芦名沢II遺跡は、蛇行する河川によって舌状に張り出した地形上に立地し、以前は畠地として、

現在は水田として利用されている。現河川に近い一段低い北東側水田部分は、T1～3により調査をした結果、耕作土直下が人頭大の円礫を含む酸化した砂層となり、遺物・遺構等は確認できなかった。

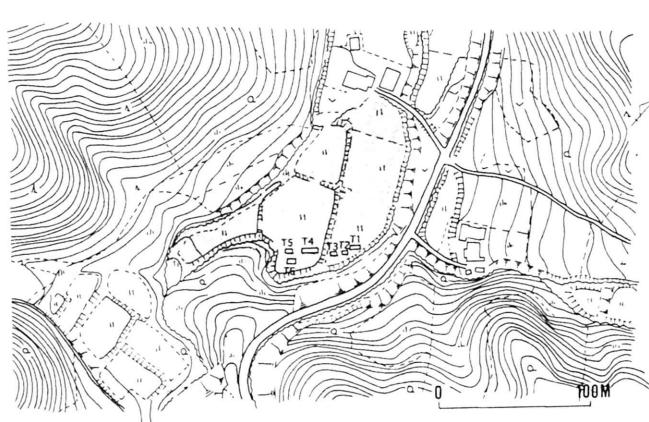
高い面の平坦部にT4～6を設定した。T4では、耕作土下で黒褐色の遺物を含む土層が検出され、さらに掘り下げたところで焼土も確認できたことから、竪穴住居跡等が所在するものと予想された。また、T5では、遺構の確認は困難であったが、炭化物混じりの遺物包含層が検出されたことから、遺跡範囲が広がるものと推定された。東側に設定したT6では、水田造成の際の土壤及び円礫が出土し、後世の搅乱であることが明らかとなった。

出土遺物は、縄文土器等20点程度である。縄文前期後半の土器と後期の土器が出土している。出土状態等から、これらを地点ごとまたは層位ごとに分けることは困難であった。

この遺跡は、若干の後世の土地造成等を受けているものの、縄文時代の集落遺跡として残されていることが明らかとなった。（平成10年度本調査予定）



第31図 芦名沢II遺跡の位置



第32図 芦名沢II遺跡調査区位置図・出土遺物

13 東北新幹線建設関連調査

秋浦 I 遺跡 (KE 38-0112)

所在地：岩手町大字江刈地内

事業者：日本鉄道建設公団盛岡支社

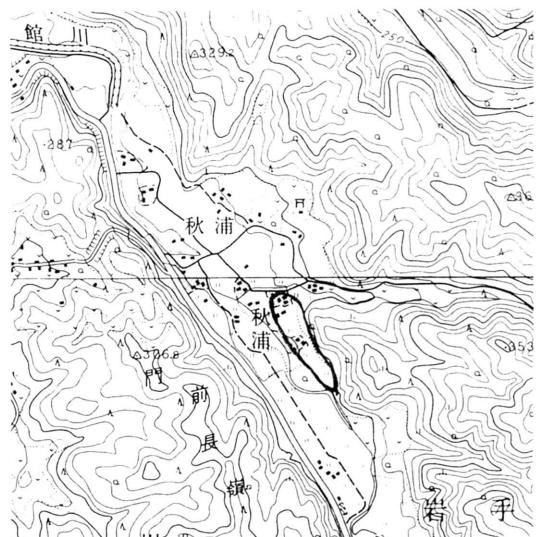
調査期日：平成9年11月5日

遺跡は北上川支流の古館川に面した南西向きの緩斜面に立地する。本遺跡は平成9年度に財團法人文化振興事業団埋蔵文化財センターによる本調査が実施されており、縄文時代の大規模な集落跡であったことが判明している。

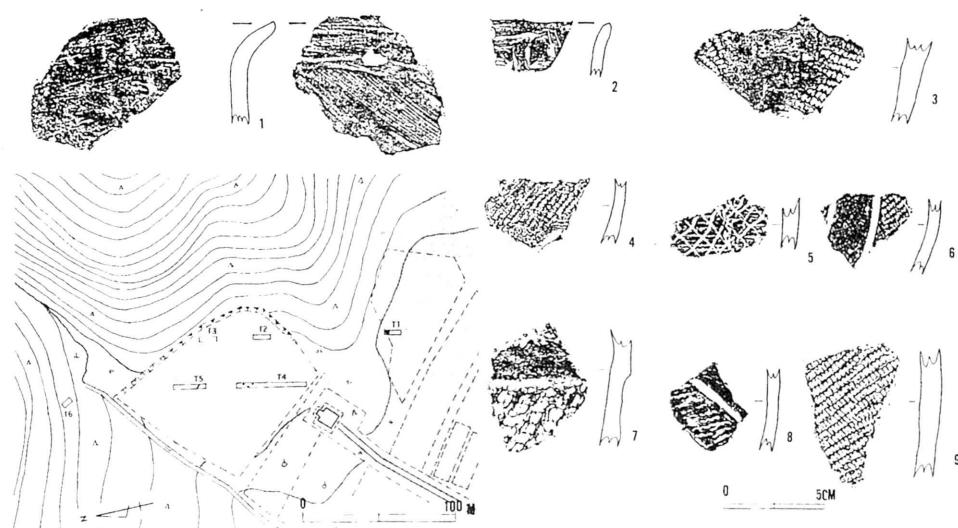
今回の試掘調査は9年度に本調査がおこなわれた範囲の東西幅各5mほどの部分で、埋蔵文化財の所在を確認した。現況は休耕田であるが、調査の結果、旧地形は南西に傾斜する斜面であることが確認された。基本的な土

層は、第1層：水田耕作土20cm、第2層：旧畠地土20cm、第3層：整地層150cm、第4層：黒色土30cm、第5層：褐色土（地山層）となっている。T1では第5層を掘り込んだ土坑が山裾際で一基検出された。T1・T2間の山地部分は埋蔵文化財センターの調査で遺構は所在しないことが確認されている。T2、T3は第1層直下で疊まじりの褐色土地山層が確認され、削平が大きく進んでいる。T4南端は厚い盛土層が確認され、北端で柱穴状遺構が3基検出された。この場所の東側の調査済区間では平安時代の堅穴住居跡が確認されており、この遺構もこれに関連するものと予想される。T5では幅70cmほどの溝跡が検出された。この溝跡付近から北側は第1層直下に第5層が確認され、削平されているものと考えられる。ただし、傾斜が南西方向であり、工事に影響があるために試掘が不可能であったT5の西～北西側は遺構の残存する可能性がある。遺物は主にT4、T5の第4層から縄文時代中期に属するもの20点ほどと、平安時代の土師器が数点検出されている。(平成10年度本調査予定)。

なお、この調査と同時に隣接する遺跡、円満寺跡(KE 28-2191)の範囲の一部についても試掘調査を実施したが、埋蔵文化財の所在は確認されなかった。



第33図 秋浦 I 遺跡の位置



第34図 秋浦 I 遺跡調査区位置図・出土遺物

14 一般県道薄衣舞川線緊急地方道整備事業関連調査

清水遺跡 (N E 87-1199)

所在地：一関市舞川字清水

事業者：岩手県一関地方振興局土木部

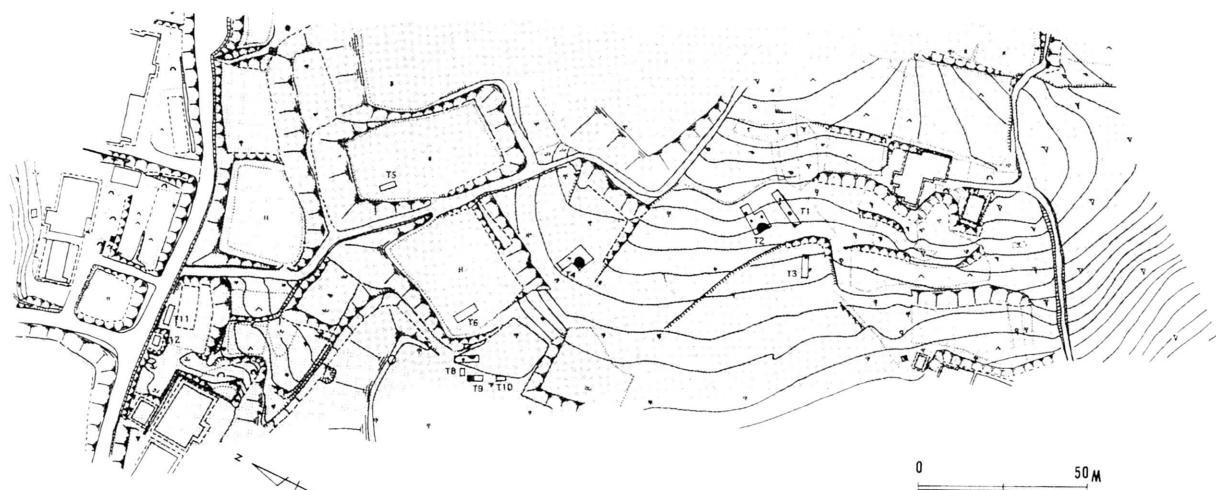
調査期日：平成9年11月7日

遺跡は、北上高地が北上川沖積地に向かって張り出す、緩やかな尾根上に立地する。遺跡内のはぼ全域に多量の遺物の散布がみられ、相当規模の遺跡であると予想される。試掘トレンチは作物等の関係から部分的な範囲に限られたが、T1では地表下40cmほどで柱穴状の遺構が多数検出され、焼土粒を伴う大型の土坑も検出された。平行するT2では、同じく地表下40cmほどで直径150cmほどの大型の土坑と、柱穴状遺構が多数検出された。いずれ

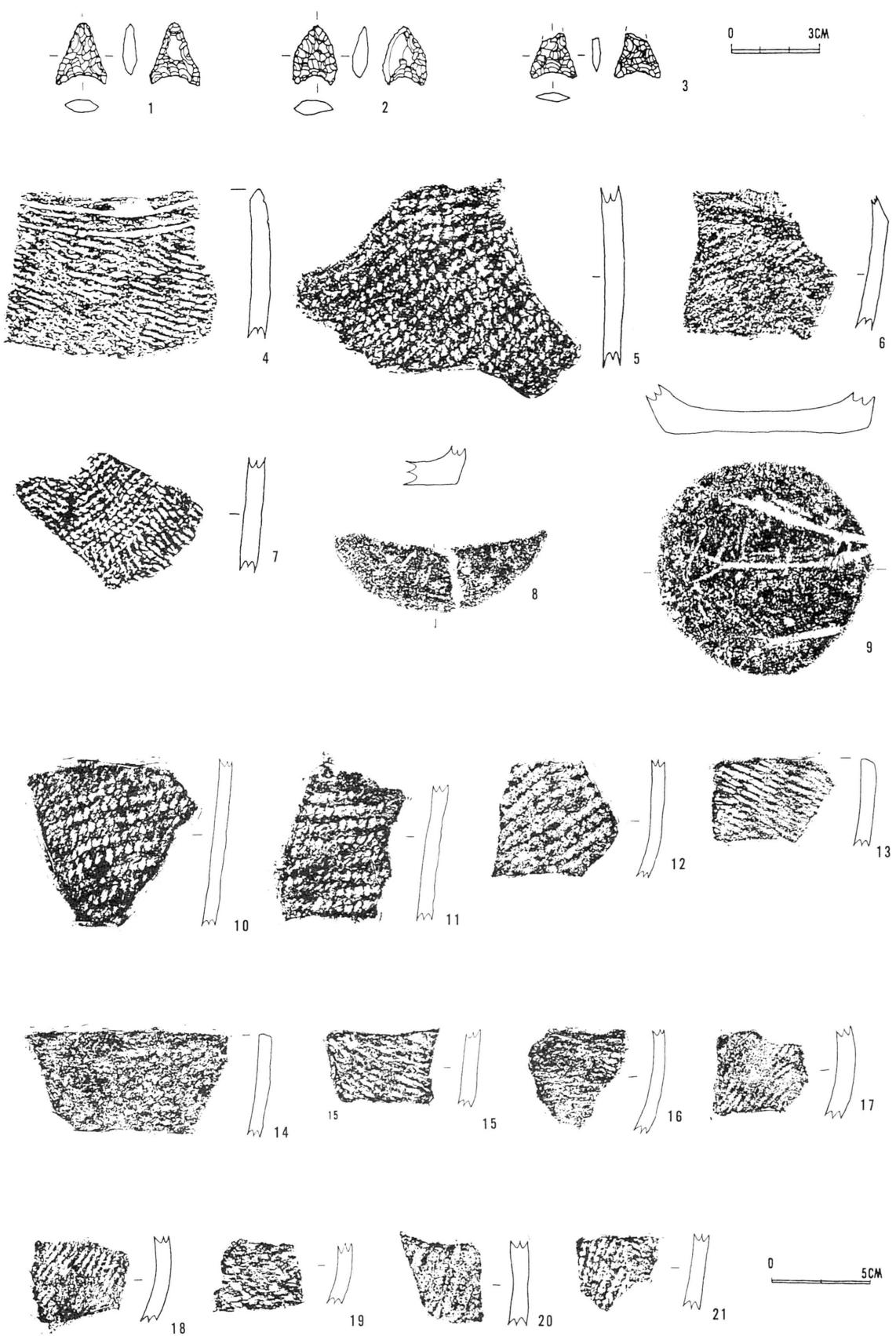
も保存状況は良好であると考えられる。この西側のT3では柱穴状遺構が縄文土器片を伴って検出された。遺物は予想より少なく土器片少量と剝片数点にとどまっている。T2とT4の間の畠地は小麦作付け中であったためトレンチは設定できなかったが、大量の石鏃類の散布が確認された。T4は開田により削平が認められるものの、土器片多数を伴う土坑が検出された。T6～T10付近は地形の改変が進んでおり、削平で地山が露出している部分があるが、T7、T9では土坑2基と柱穴状遺構1基の残存が認められた。T8の土坑には縄文土器が伴う。T5部分は削平が進行しており、耕作土直下は地山層が現れた。T11～T12は遺構は確認されなかつたが、遺物が微量検出された。また、聞き取り調査では地図南端の民家敷地内の井戸掘削の際に大量の土器片が出土しており、遺物を確認したところ、縄文時代後期と考えられる土器片がコンテナ一箱ほど保管されていた。この民家付近には遺物包含層の所在も予想される。なお、図中南端の東西南向の道路付近より南側は山林のため試掘調査が不可能であったため、あらためて試掘調査が必要となる。(平成10年度以降本調査予定)



第35図 清水遺跡の位置



第36図 清水遺跡調査区位置図



第37図 清水遺跡出土遺物

15 一般国道283号改良事業関連調査

篠館跡 (MF76-0298)

所在地：遠野市上郷町平倉地内

事業者：岩手県遠野地方振興局土木部

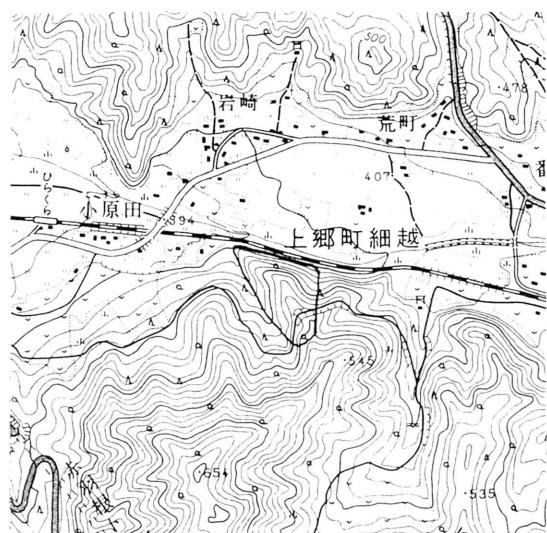
調査期日：平成9年7月23日

遺跡は、遠野市の南東赤羽根高原から北側に延びる丘陵尾根の最先端部に位置している。遺跡直下はJR釜石線が東西に走り、さらにその北側を早瀬川が北西方向に向かって流れている。国道340号は一つ西側の丘陵斜面を南北に走っている。標高は最も高い部分で500mを超える。

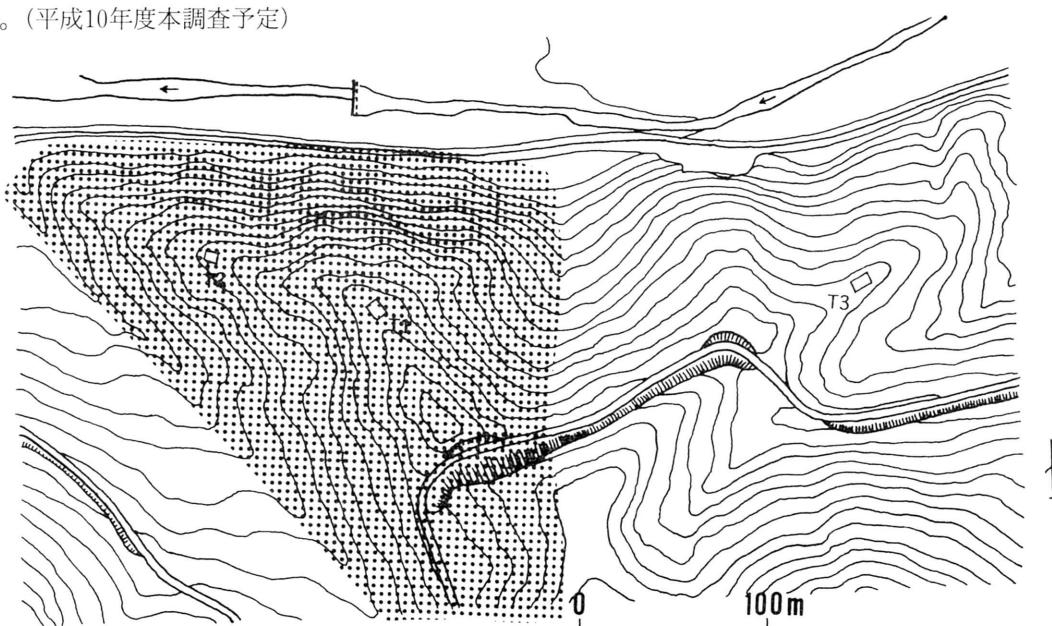
今回の調査は国道283号の改良工事に伴うものであるが、新ルートが現在の仙人方面から大きく南側に付け替えられるため、遠野盆地の南端を横断する大規模な改良工事となっている。

篠館跡は、尾根の縁辺に林道が開削されているが、館跡部分では南西から北東方向に向かい狭い馬の背状の尾根部分を切り進んでいる。この部分は元々低く切り通されていたと考えられ、堀切を形成していた可能性が高い。この林道よりさらに南側にも平坦な地形が認められることから、さらに奥に館の範囲が延びていると推定される。この林道から北側部分が、今回の事業に関連して調査の対象となっている。林道に近い北側尾根頂部には、わずかながら狭い平坦部が認められ、建物跡等館跡に付属する遺構の存在が予想される。さらにその北側にも一段平坦部が造られる。尾根は北西方向に延び、この尾根を巻くような形で帶郭もしくは堀跡が数段形成されている。個々の段のつくり出しが明瞭である。一方、鉄道に面した部分は急な崖面となり、また鉄道林として植林されていることから、全面的発掘調査は困難であると判断した。

さらに、この尾根の東側に小さな沢によって分けられた別の尾根が延びるため、試掘調査によって遺構・遺物の有無を確認した。その結果、この部分ではそれらは認められないものと判断され、調査対象から除外した。(平成10年度本調査予定)



第38図 篠館跡の位置



第39図 篠館跡調査区位置図

16 地方特定道路整備（北向工区）工事関連調査

潰谷地 I 遺跡（I E 88—1203）

所在地：二戸市野々上字潰谷地地内

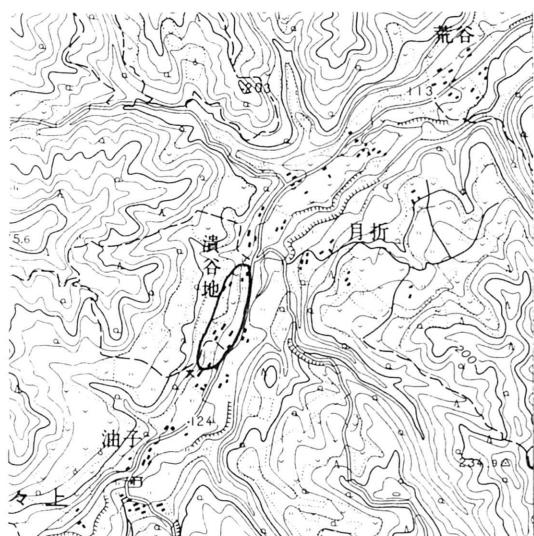
事業者：岩手県二戸地方振興局土木部

調査期日：平成 9 年 10 月 2 日

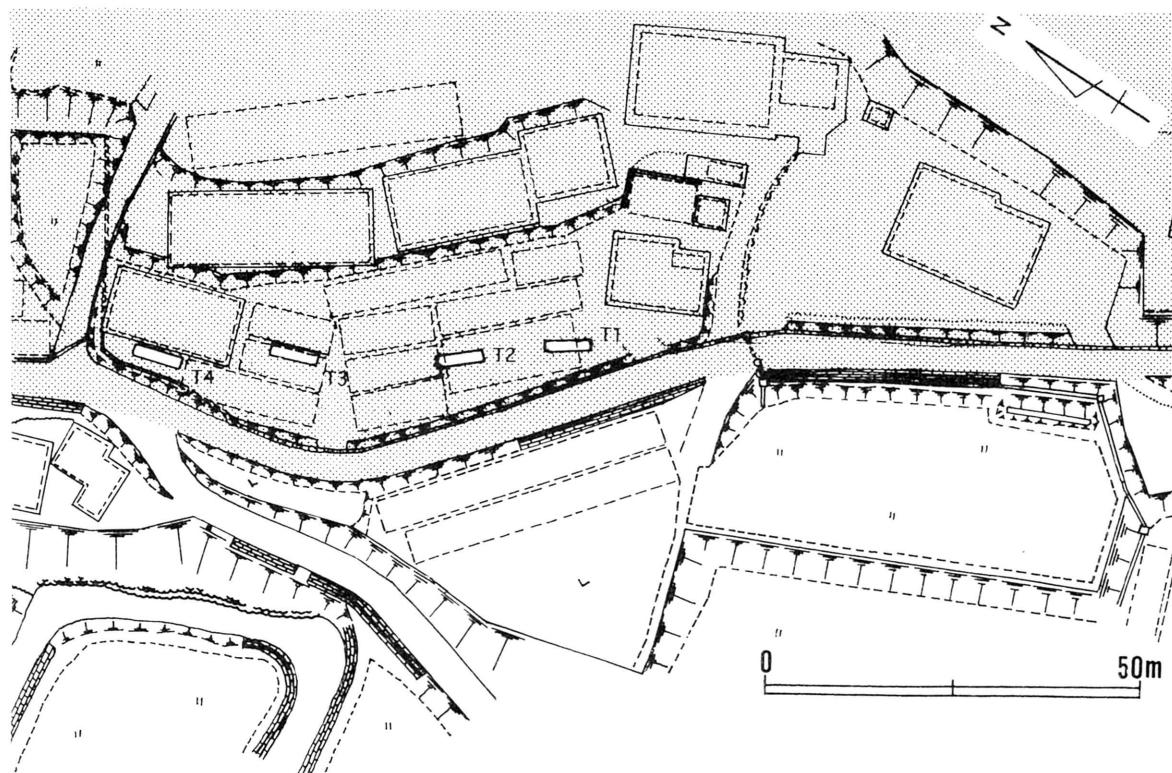
潰谷地 I 遺跡は海上川北岸に形成された幅の狭い平坦地に立地している。調査区域の標高は 122m 前後である。

今回の調査では、新たに道路になる事業予定地内に 4 箇所の試掘トレンチを設定している。調査区の層序は 1 層が耕作土（20cm程度）、2 層が黒褐色土（50cm程度）、3 層に中セリ軽石（20～30cm）が確認されさらにその下に 4 層黒褐色土（50cm程度）、5 層南部浮石となっている。

調査の結果、T 2 トレンチで縄文時代と考えられる溝状の陥し穴状遺構が 1 基検出されている。T 3 トレンチでは遺構と認定することはできなかったが、同じ 3 層上面で若干の土の濁りが確認された。何らかの遺構になる可能性がある。遺物はいずれのトレンチでも確認されなかった。その他の T 1・4 トレンチでは遺構・遺物は確認されなかった。（平成 10 年度本調査予定）



第40図 潰谷地 I 遺跡の位置



第41図 潰谷地 I 遺跡調査区位置図

17 急傾斜地対策工事寺の上地区関連調査

浄法寺城跡（JE 36—1304）

所在地：二戸郡浄法寺町浄法寺字寺の上

事業者：岩手県二戸地方振興局土木部

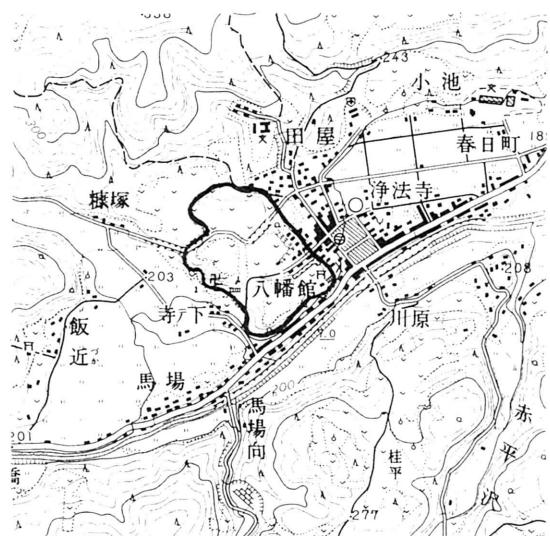
調査期日：平成9年8月27日

遺跡は浄法寺町中心部の北側に広がる河岸段丘を利用して形成されている。この城館は中世浄法寺氏の中心的居館で、安比川流域でも最大級の規模を誇る。主郭は八幡館と呼ばれ、北東隅に八幡宮が祀られる。このほか、大館、新城館などによって構成され、明瞭な堀跡のほか、大手門跡などが伝えられている。標高210m。

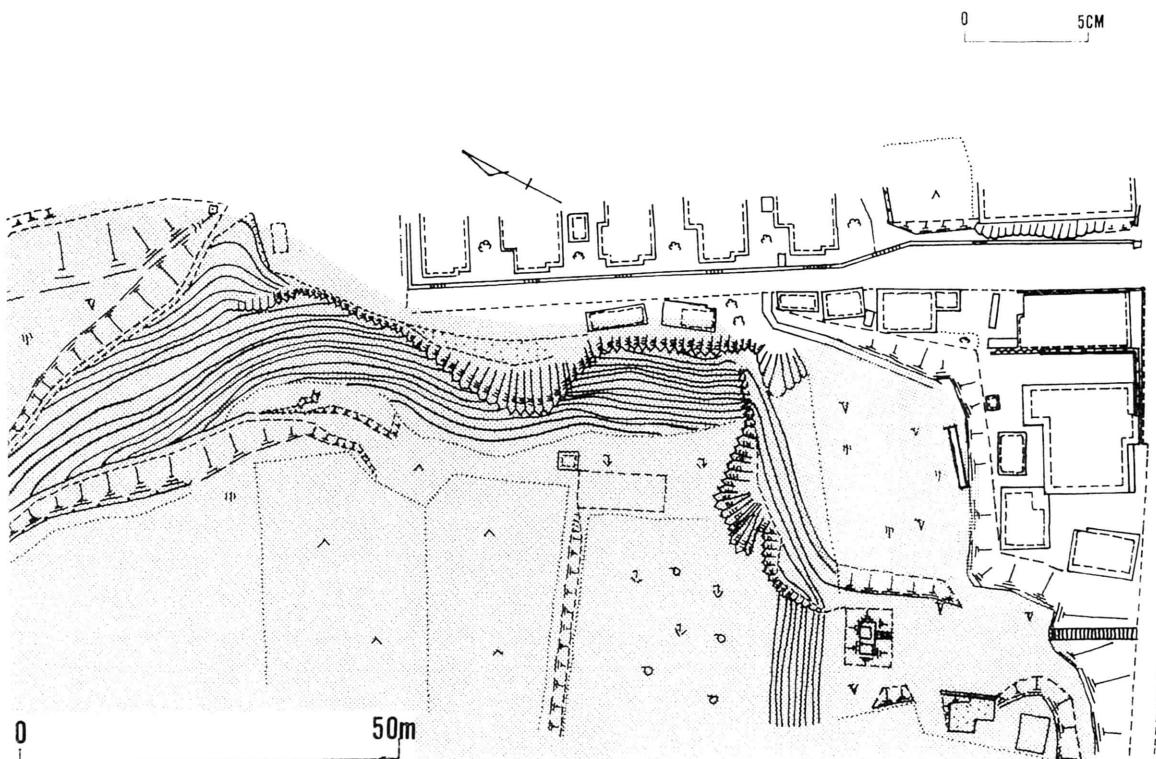
今回の調査は、八幡館の東南方向に急傾斜事業として擁壁工事が行われ、その上端の一部が館跡にかかるこ

から工事範囲内の館の内容確認・記録保存を目的として実施したものである。

幅約2m、長さ約15mの工事予定部分の最上部の平坦地にトレンチを設定した。表土を除去したところ、トレンチの両端で地山面が確認されたものの、中央部分で出土遺物から近世と考えられる遺構状の土壤が確認された。しかし、急傾斜地であるため、遺構精査等の作業は危険であると判断し、平面土層の略図を作成するにとどめた。なお、町教育委員会において城域全体の内容確認調査が継続実施され、成果があがりつつある。



第42図 浄法寺城跡の位置



第43図 浄法寺城跡調査区位置図・出土遺物

18 主要地方道盛岡環状線野沢地区道路改良事業関連調査

野沢VI遺跡（KE76-1276）

所在地：滝沢村滝沢字野沢地内

事業者：岩手県盛岡地方振興局土木部

調査期日：平成9年9月9日・10月10日（2日間）

本遺跡はJR滝沢駅西側に所在し、岩手山の裾野の火山灰地に立地し、付近は緩やかな起伏を伴う台地状の地形であり、多数の縄文時代の遺跡が立地している。

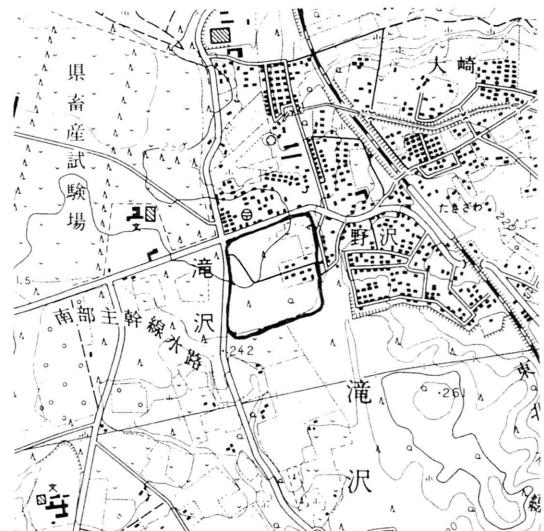
本遺跡は9月4日に文化課が遺跡内での工事の進行に気づき、付近を踏査したところ縄文早期の土器片（第45図）の散布を認め、事業者に確認したところ、遺跡範囲内と気付かず工事施工をしたものであることが判明し、急遽試掘調査を行ったものである。なお、本事業は

滝沢村の下水道工事とも関連しているため滝沢村教育委員会の協力を得て試掘調査を実施した。

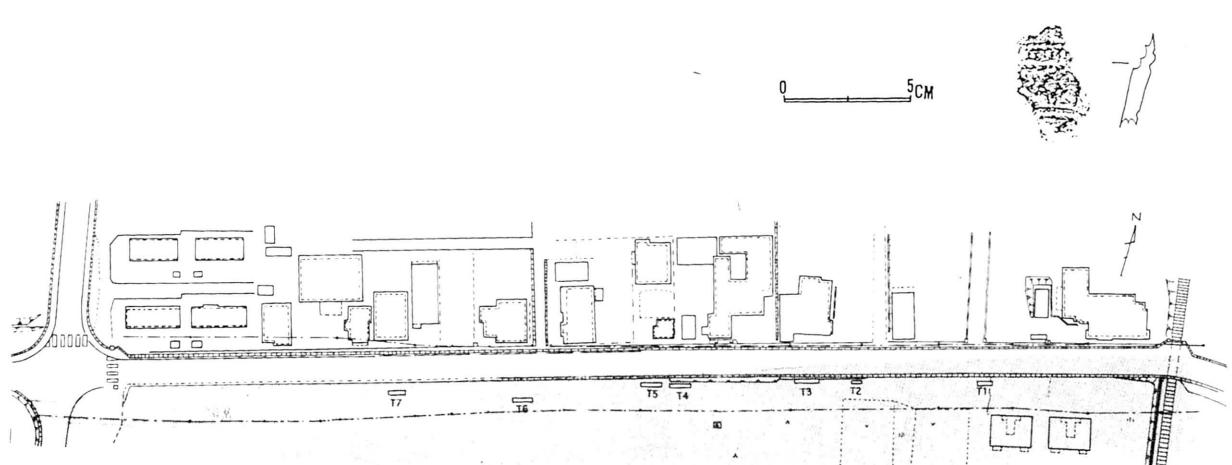
9月の試掘調査では道路拡幅に伴い、掘削が予定される部分に合計7本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。その結果、いずれのトレンチでも拔根時の攪乱が認められたが、残存部分については遺物・遺構とも確認されなかった。基本土層はT1で以下のとおりである。第1層：黒色土25cm、第2層：黒褐色土25cm、第3層：暗褐色土35cm（褐色土粒含む）、第4層：褐色土25cm、第5層：黄褐色土：20cm（橙色礫含む）、第6層：黄褐色粘土質土（地山）。

10月の調査では9月調査範囲の東側に2カ所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。いずれも1m近い盛土層が確認され、その下に排水パイプの敷設がみられるなど、地山層以下まで掘削が及んでいる。もう一方のトレンチでは盛土層の下から自然堆積の土層が確認された。旧耕作土直下で焼土層と炭化材が検出されたが、精査の結果、近現代の遺物が含まれており、保護を必要とする埋蔵文化財の所在は認められなかった。10月調査分の基本土層は以下のとおりである。第1層：盛土層60cm、第2層：黒褐色土（旧耕作土）40cm、第3層：暗褐色土40cm、第4層：褐色土（礫含む）40cm以上。

採取された土器片は、貝がらの腹縁による刺突文が見られ、縄文時代早期に属するものと考えられる。



第44図 野沢VI遺跡の位置



第45図 野沢VI遺跡調査区位置図・出土遺物

19 盛岡広域都市計画公園9・7・1号御所湖広域公園

町場地区オートキャンプ場整備関連調査

町場 I 遺跡 (L E 23-1147)

所在地：零石町西安庭字小矢川地内

事業者：岩手県盛岡地方振興局土木部

調査期日：平成9年8月18日～19日（2日間）

遺跡は御所湖の南岸の矢櫃川の現河口左岸に位置し、湖に半島状に伸びる尾根の崖下に位置する。ダム湖出現前は段丘上と考えられる地形に位置する。

今回の試掘調査では遺跡範囲のうち、開発にかかる部分に任意にトレンチを設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。土層は以下の通りであり、いずれの箇所でも厚い盛土が確認された。第1層：盛土140cm、第2層：盛土の

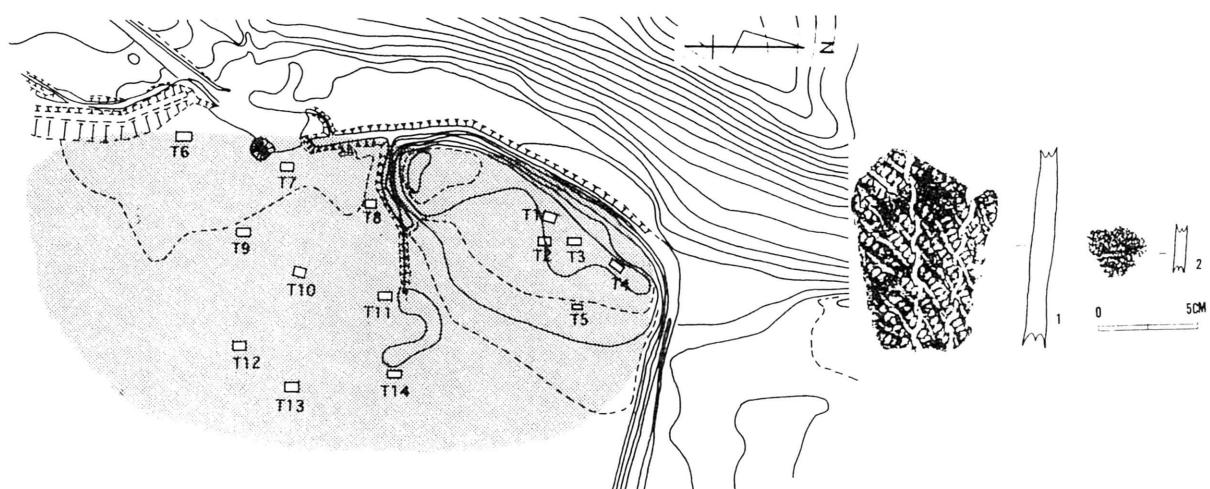
グライ化層：80cm、第3層：黒色泥質層（遺物包含）100cm、第4層：褐色砂礫層。

調査の結果、T 1～T 5 の第3層は遺物を包含する層であることが判明した。遺物は T 1 で縄文時代前期に属すると思われる土器片（第47図1）と剝片が、T 2 では縄文土器（第47図2）が検出された。T 6～T 14 の範囲では盛土層はやや薄くなるが、旧来は湿地であったものと判断された。T 1～T 5 を含め、遺構は確認されなかった。

工事は公園の造成であり、現況地盤をほぼそのまま緑地として利用するものであり、遺物包含層には影響及ばないものであるため、現行の設計で埋蔵文化財保護が可能である。なお、同時期に町場 IV 遺跡、町場 III 遺跡の試掘調査も行ったが、遺構・遺物とも確認されなかった。



第46図 町場 I 遺跡の位置



第47図 町場 I 遺跡調査区位置図・出土遺物

20 県営畜産経営環境整備事業奥羽北部地区関連調査

安栖野遺跡（LE02-2113）

所在地：零石町橋場地内

事業者：岩手県盛岡地方振興局農政部

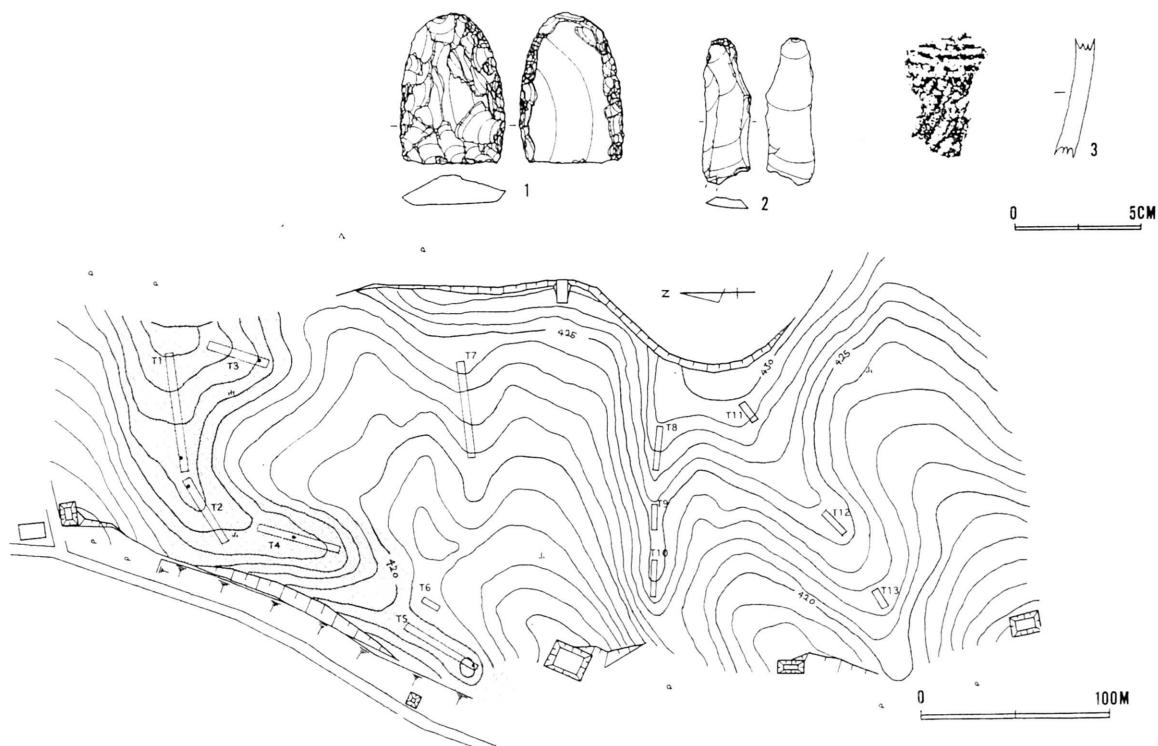
調査期日：平成9年11月4日

遺跡は零石川支流の安栖川最上流部の南西向きの緩やかな尾根上に立地する。標高が400m～450mほどの高地であり、平成9年度の分布調査で新規に発見された遺跡である。過去二回にわたって牧草地造成工事を受けており地形はかなり改変されている。試掘トレンチは四本の尾根を中心に合計13本を設定した。遺構・遺物が確認されたのはT1～T6の区間の尾根のみであり、遺跡範囲もこの尾根に限定されると判断された。

調査の結果、T1、T2、T3、T4、T5で各1基づつ直径90cm～110cmのほぼ円形のプランを示す土坑が検出された。いずれも造成により上部はかなり削平されているものと予想される。T1では焼土粒や炭化材も検出され、付近には住居跡の所在も予想される。遺物はT4で石籠（第49図1）、T5で縄文土器（第49図3）、同じく石器（第49図2）が検出された他、多数の剝片が検出された。遺跡内の尾根の部分は掘削が予定されており、遺跡の滅失が避けられないため、記録保存を目的とした発掘調査が必要となった。（平成10年度本調査予定）



第48図 安栖野遺跡の位置



第49図 安栖野遺跡調査区位置図・出土遺物

21 低コスト化大区画は場整備事業長岡地区関連調査

西長岡長谷田遺跡（L E 57-1360）

草刈中屋敷遺跡（L E 57-2295）

所在地：紫波町西長岡字長谷田地内

事業者：岩手県盛岡地方振興局盛岡南部土地改良事業所

調査期日：平成9年10月20～23日、11月21日（5日間）

西長岡長谷田遺跡は北上川東岸の微高地上にあり、標高は97～99m程度である。今回の試掘調査は県営ほ場整備に伴うもので10月と11月の2回にわたって調査している。調査区は南側と北側の2箇所に分かれ、第51図の左側が北側、右が南側になっている。この中間部分は次年度に事業が行われる予定になっている。今回はこの2箇所の調査区に69箇所の試掘トレンチを設定している。層

序は1層が水田耕作土、2層が暗褐色土（0～15cm）、3層が褐色土で遺構検出面となっている。

調査の結果、微高地の西側の縁を中心に奈良～平安時代の堅穴住居跡などが検出されている。古代の堅穴住居跡は北側のT28・33・34・42・46・50、南側のT15などから15棟検出され、ほかに溝跡が北側のT17、南側のT1から2条、南側から時期不明の焼土遺構4基などが確認されている。遺構や遺物は西側の縁で多く



第50図 西長岡長谷田・草刈中屋敷遺跡の位置



第51図 西長岡長谷田遺跡調査区位置図

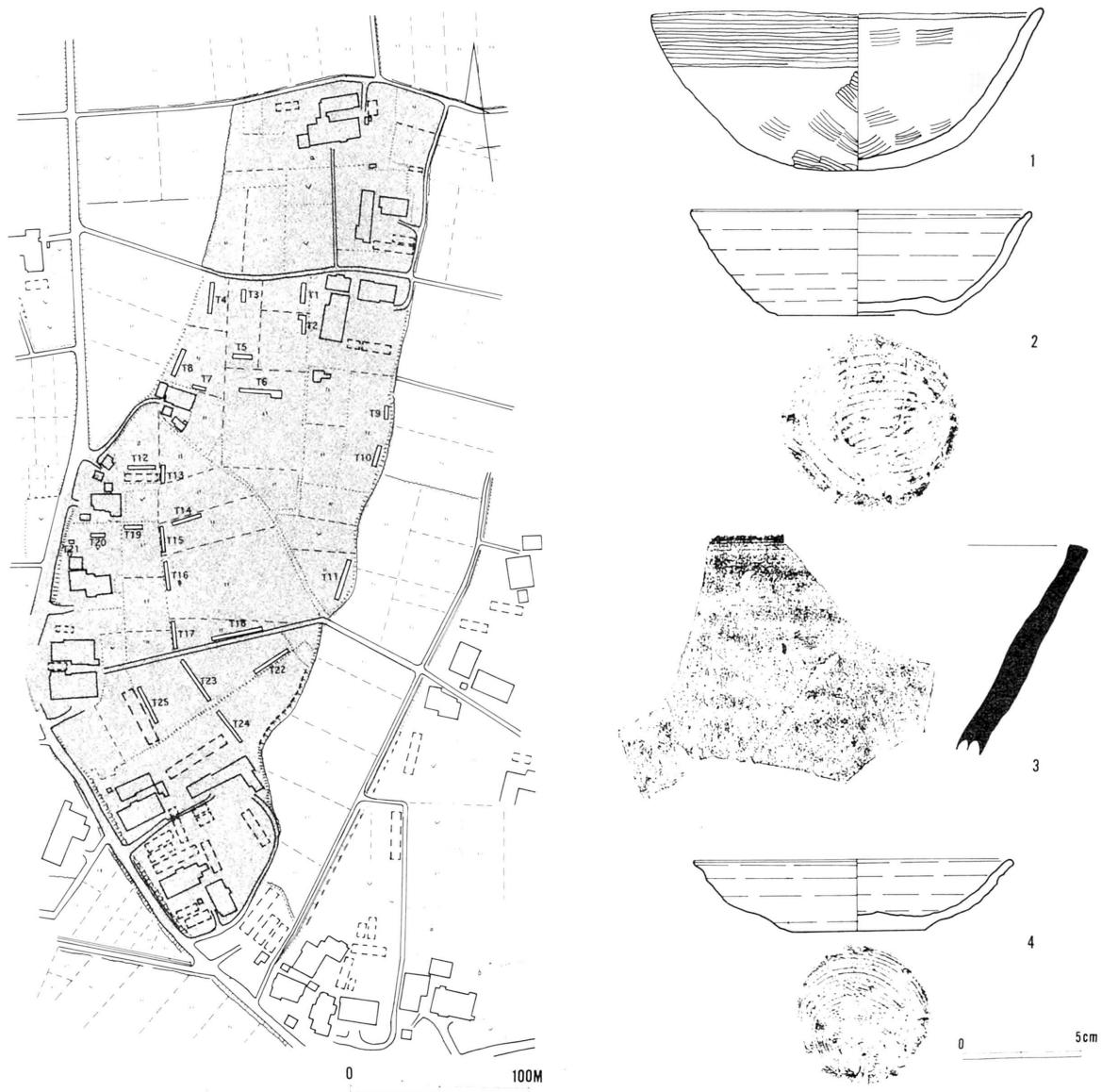
確認され、東に向かうにつれて少なくなり、現在の民家の分布とやや似たような傾向が認められる。宅地部分の方が水田部分よりむしろ遺構の密度が高いと思われる。遺跡としての面積も広いが全体としてみるとかなりの数の住居跡が存在する大規模な奈良～平安時代の集落跡と考えられる。

西長岡長谷田遺跡については一部の水路については平成10年度に本調査が行われるほか、田面については盛土によって遺構面が保護される予定になっている。

草刈中屋敷遺跡は西長岡長谷田遺跡の南に隣接しており、大きくみれば同遺跡から続く微高地上に立地している。昨年度にも一部試掘調査が行われており、縄文土器と焼土遺構が検出されている。

今回の調査では、25箇所の試掘トレンチを設定している。その結果、T 2・6 から古代の竪穴住居跡が3棟、他にピット類・溝跡などが検出されている。層序については西長岡長谷田遺跡とほぼ同様である。遺構等は主に北半に分布し、南半は表土の下が河川堆積の砂礫層を形成している部分が多く、土坑等がT 22で確認された程度である。

草刈中屋敷遺跡については、盛土によって遺構面が保護される予定である。



第52図 草刈中屋敷遺跡調査区位置図・西長岡長谷田・草刈中屋敷出土遺物

22 低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳田第一地区関連調査

岡村遺跡（LE57-0181）

所在地：紫波郡矢巾町徳田地内

事業者：岩手県盛岡地方振興局盛岡南部土地改良事業所

調査期日：平成9年10月27日

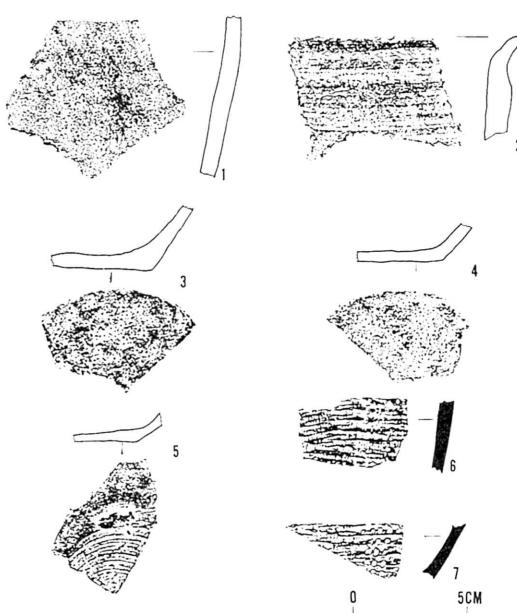
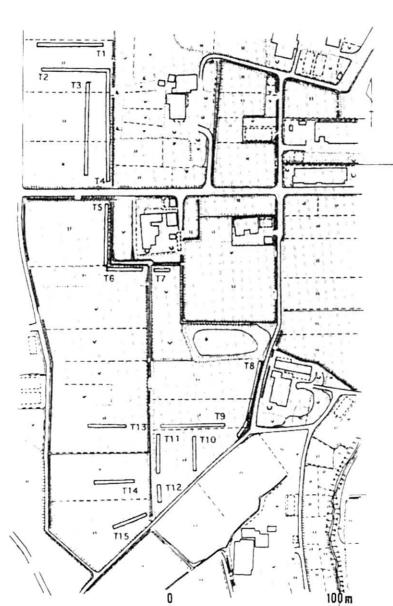
遺跡は北上川と岩崎川に挟まれた低位の河岸段丘上に立地している。標高105m。遺跡範囲は南北に走る国道4号の両側に広がり、道路拡幅に伴うものなど小規模な調査が度々行われている。

今回の調査はほ場整備事業に伴うもので、遺跡西側の岩崎川に近い部分を対象としている。この付近は中区画の水田が広がり、ところどころ宅地として利用されてい

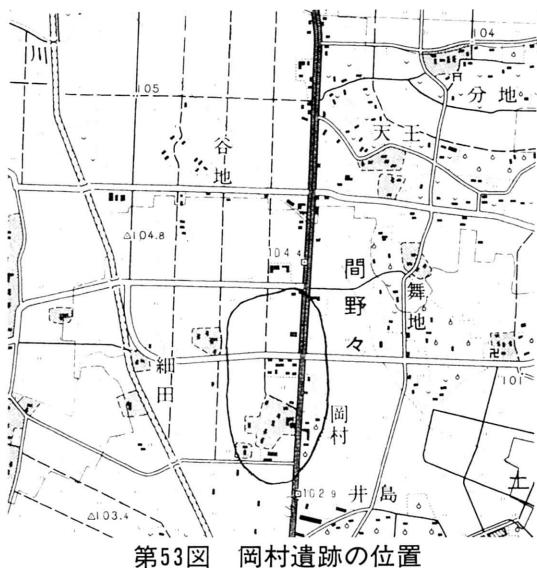
る。また、周囲よりわずかに高くなる部分では、果樹園となっている場合もある。

T1～15のトレーナーを、主として水路部分や、面工事に際し大きく切土が予定されている部分を中心に設定した。調査の結果、T1～4では、以前の農地造成等により、この付近で本来基本層序として存在すべき暗褐色の土層がすでに失われ、その下位に位置する灰黄褐色の粘土質の土壤が表土直下で検出され、その直上で焼土や小柱穴などが検出されている。T5以南では、ほぼまんべんなく古代の土坑や焼土・竪穴住居跡などの遺構が確認されている。特にT8～14では、基本層序が良好に残存し、土師器・須恵器等の遺物も比較的多く出土するなど、史跡徳丹城跡と関連する9世紀代の集落として、貴重な内容を有する遺跡と考えられた。

そのため、埋蔵文化財保護にかかる協議を事業者と十分に行い、新区画の水田面部分については盛土工法による工事を実施することでその保護を図った。しかし、水路部分については工法変更が困難であったことから、平成10年度に記録保存を目的とした発掘調査を実施することとした。



第54図 岡村遺跡調査区位置図・出土遺物



23 伊手川河川改修事業関連及び扱い手育成基盤整備事業原体地区関連調査

下醍醐遺跡 (N E 08—2047)

高野前遺跡 (N E 08—2027)

内館下遺跡 (N E 08—1146)

所在地：江刺市田原原体地内

事業者：岩手県水沢地方振興局江刺農林事務所

岩手県水沢地方振興局土木部

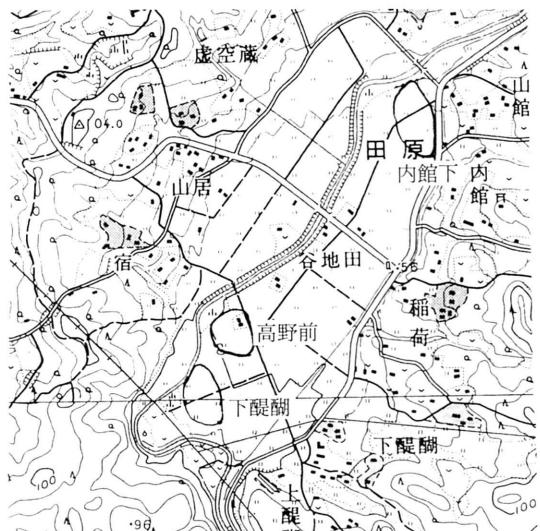
調査期日：平成9年10月23日～12月2日（5日間）

遺跡は伊手川左岸の自然堤防もしくは河岸段丘上に立地する。伊手川はこの付近で大きく蛇行し、比較的広い平坦部を造りだしている。この平坦部東側辺沿いに県道玉里水沢線が走り、さらに上位の段丘面には縄文時代の遺跡などが形成されている。付近の標高は50m。

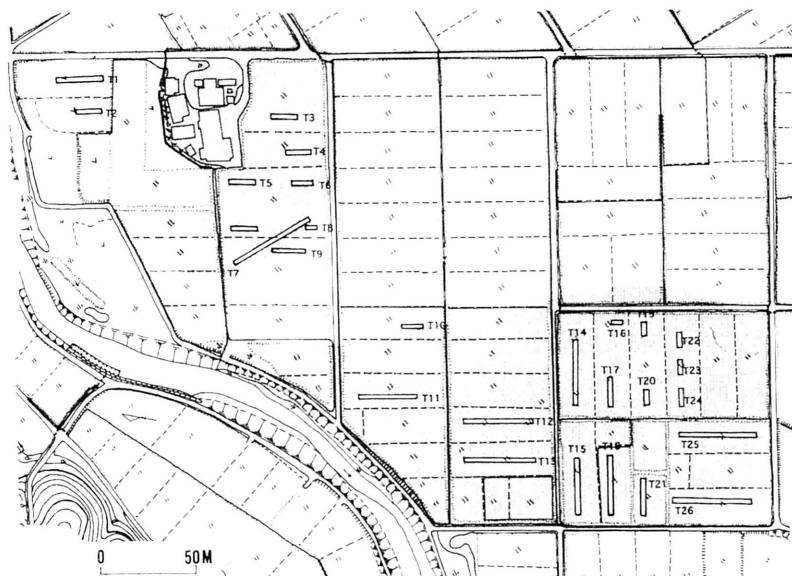
今回の調査は、ほ場整備と河川工事が一体化して行われる部分（下醍醐遺跡）と、ほ場整備が単独で行われる部分があることによる。下醍醐遺跡については、17ヵ所の試掘トレンチを設定した。T14、16、17、19、20では表土下に暗褐色の土壤が確認され、その層中から縄文中期の土器片が出土している。また、T11～13では、河川作用により堆積したと考えられる砂質の土壤中に、部分的にグライ化した粘土質の土壤が含まれ、平安時代の土師器及び弥生土器片などが出土している。さらにT15、18、21などでは、旧河道の埋没が遺物を伴って確認されるなど、複雑な遺跡の形成が予想された。

高野前遺跡では、遺跡東側のT8、9において縄文土器片が若干出土しているが、西側のトレンチでは砂層が厚く堆積しているなど、河川作用によりすでに遺跡内容は失われているものと判断した。

内館下遺跡では、耕作土直下に土師器片・須恵器片が多量に含まれる層が確認されたが、二次堆積を受けた層であることが明らかで、以前の農地造成により遺跡がほぼ破壊されていると考えられた。

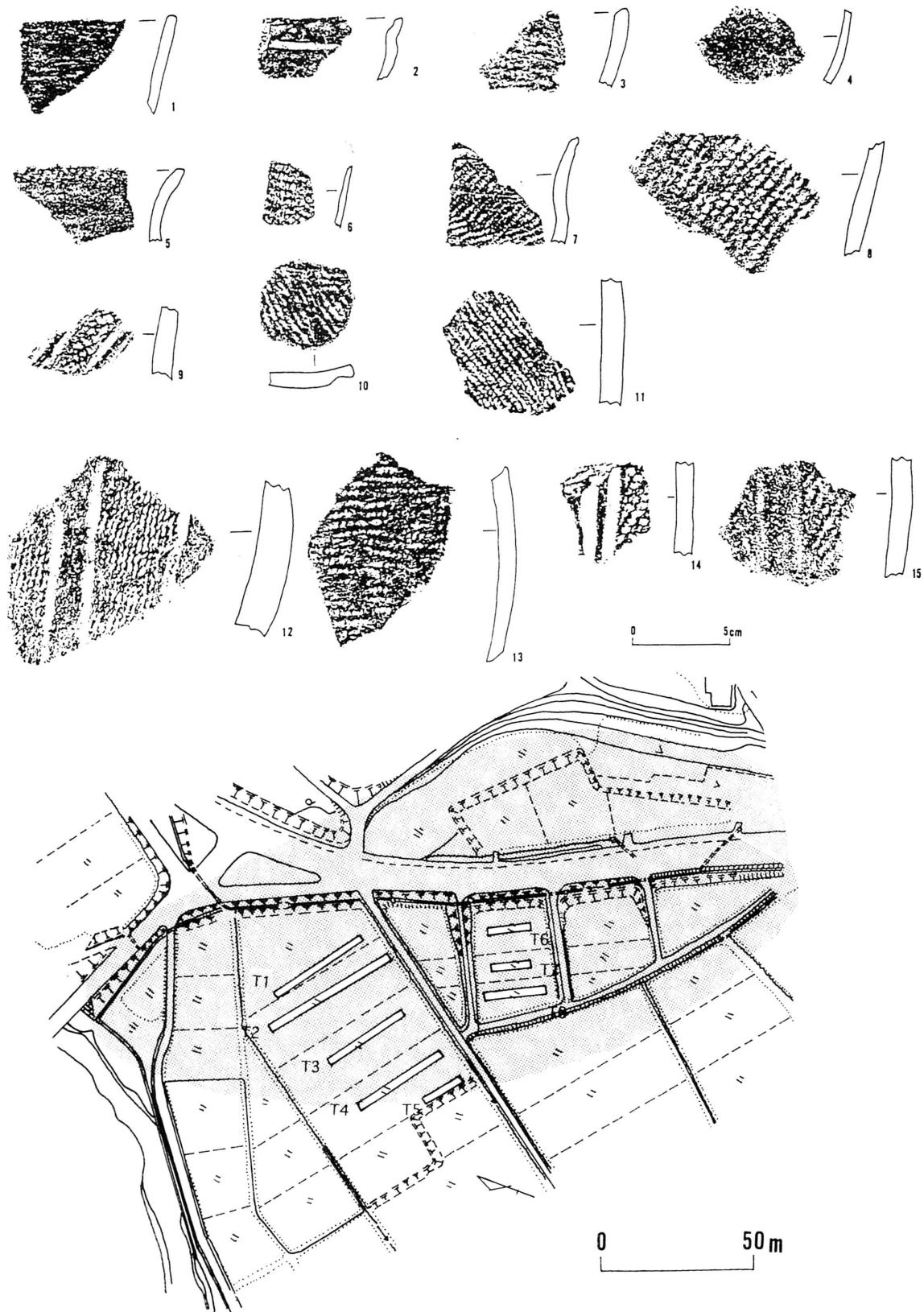


第55図 下醍醐遺跡ほかの位置



第56図 下醍醐遺跡・高野前遺跡調査区位置図

以上の結果、河川予定地を中心とする下醍醐遺跡の一部については記録保存を目的とした発掘調査を実施することとし、水田面として予定されている部分については、高野前遺跡を含め、盛土工法により埋蔵文化財の保護を図ることとした。(平成10年度本調査予定)



第57図 下醍醐遺跡出土遺物(上)・内館下遺跡調査区位置図(下)

24 県営ほ場整備事業人首川東部地区関連調査

西前田遺跡 (N E 17-0320)

後田II遺跡 (N E 07-2382)

岩谷堂橋本I遺跡 (N E 07-1393)

後田I遺跡 (N E 07-2323)

所在地：江刺市岩谷堂地内

事業者：岩手県水沢地方振興局江刺農林事務所

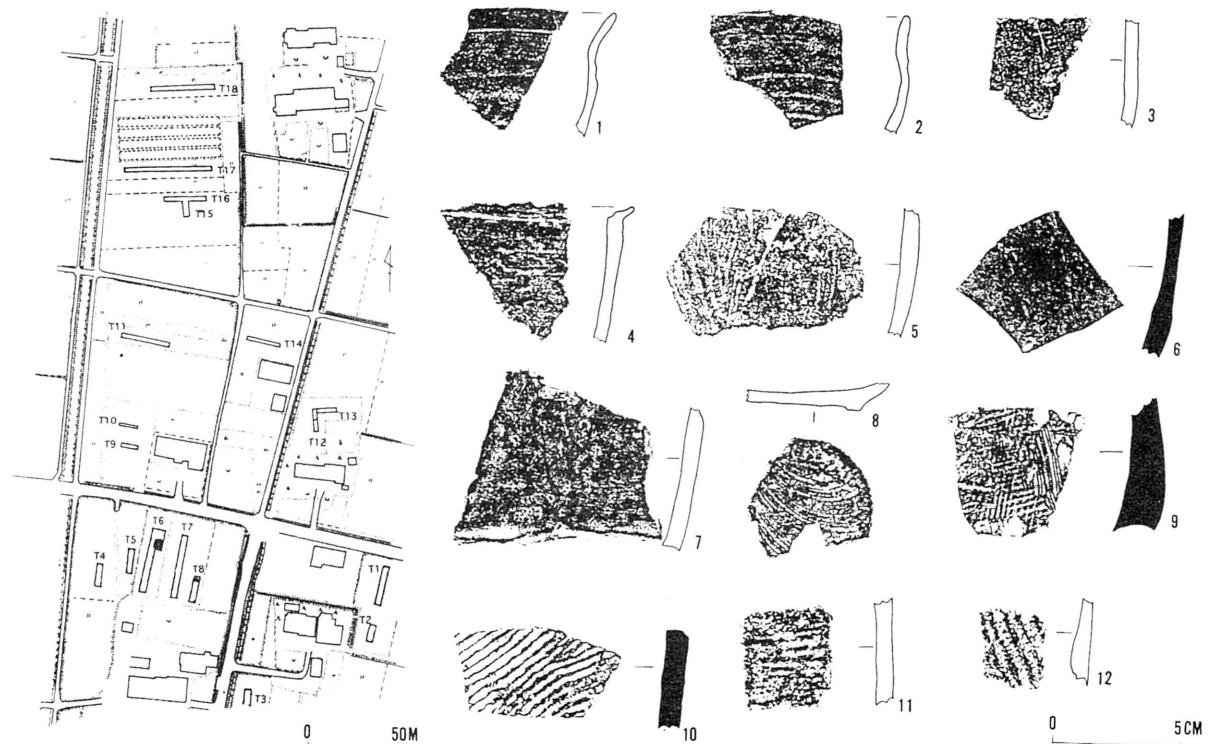
調査期日：平成9年4月15日～11月10日（6日間）

遺跡は北上川との合流点に近い人首川左岸に広がる沖積平野中に点在する自然堤防上に立地する。標高は37～38m。この地区については、ほ場整備事業の関連で試掘調査及び部分的発掘調査が行われてきている。今回の調査では、主として事業域の南西側を対象としている。

西前田遺跡は、その北側辺を東西に県道が走っている。自然堤防に沿って宅地が延びるため、水田部分はその間の低地に形成されている。T 1～4の部分はこうした低地に相当し、表土下にグライ化した粘土質の土壤または砂礫層が認められ、遺物等の出土はなかった。T 5～8では、土師器・須恵器の出土とともに、竪穴住居跡及び焼土等が確認され、平安時代の集落域として認識できた。県道北側のT 9～12では、水田部分についてトレンチを設定しているが、焼土等が複数箇所検出され、また、古代のほか縄文晩期の土器片も出土している。東側T 12、13では、遺構等は確認されていない。



第58図 後田III遺跡ほかの位置



第59図 西前田遺跡、後田III遺跡調査区遺構・出土遺物

後田II遺跡では、T15～17で古代の土器片及び焼土が検出されている。さらにその北側T18では、砂層が地山となることから、遺跡の形成は認められないものと判断した。

以上に基づき事業者と協議を進めた結果、水田面部分については盛土工法により埋蔵文化財を保護することとし、水路部分等工法変更が困難な部分については、やむを得ず記録保存を目的とした発掘調査を平成10年度に実施することとした。

岩谷堂橋本I遺跡は人首川によって形成された沖積地中の微高地上に立地している。遺跡の標高は37～38mである。

今回の調査は県営ほ場整備に伴うもので、田面については盛土によって保存されているが水路に関わる箇所については、工法の変更ができず、やむをえず本調査が行われることになった。

調査の結果、焼土遺構が5基検出されている。いずれも地面を掘り込んで造ったカマド状の遺構であったと考えられる。この内、焼土3については煙道も残存しており本来の形状をよく残していると思われる。他の焼土遺構は煙道は確認されていないが、焼土1は上半部が削平され、その他の焼土遺構は調査区内から遺構の一部分がはみ出しており全体が調査されているわけではない。調査区外に煙道が延びている可能性もある。

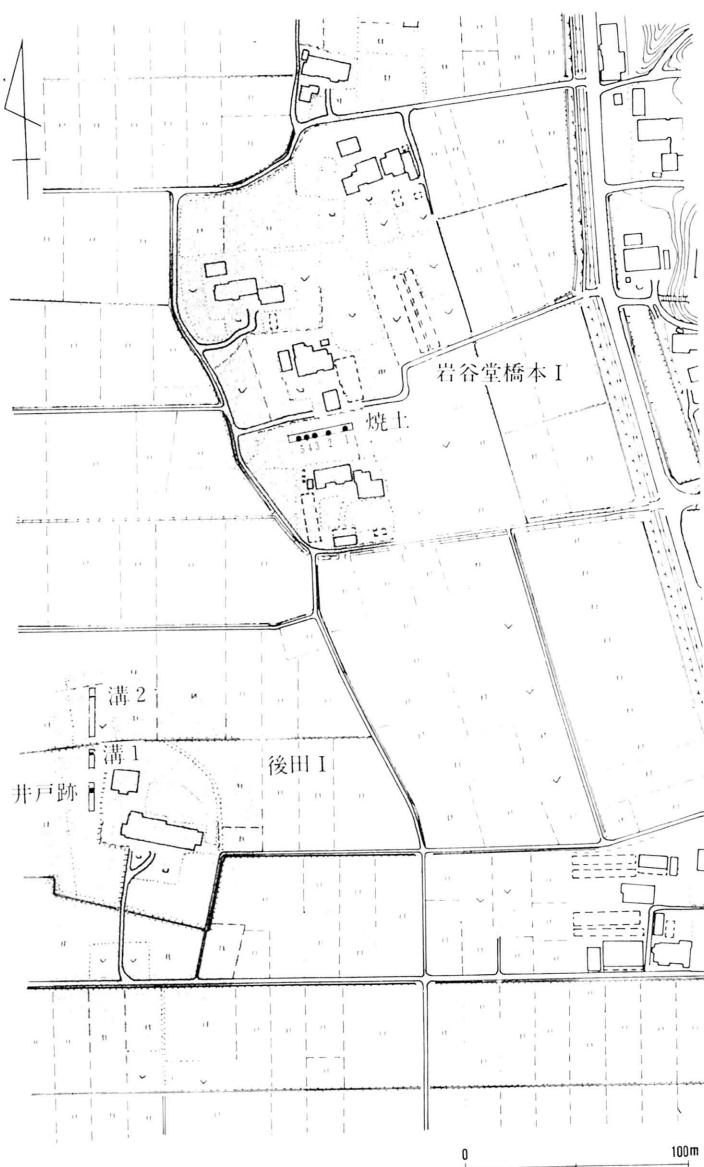
いずれの焼土遺構からも遺物は出土しておらず遺構の時期ははっきりしない。このタイプの時期不明の焼土遺構は比較的よくみられるが時期がはっきりする例はほとんどないようである。本遺跡の場合、検出面や埋土からみて古代よりは後の時代のものと推測される。

後田I遺跡は、岩谷堂橋本I遺跡と同様、人首川によって形成された沖積地中の微高地上に立地しており、標高は36～37mである。

後田I遺跡についても、水路部分について遺構の保存ができず本調査を行うことになったものである。

調査の結果、溝跡2条と井戸跡1基が検出されている。井戸跡については出土遺物から近世～近代、溝跡2条については時期不明だが埋土の状況から概ね井戸跡と重なる時代と推測される。

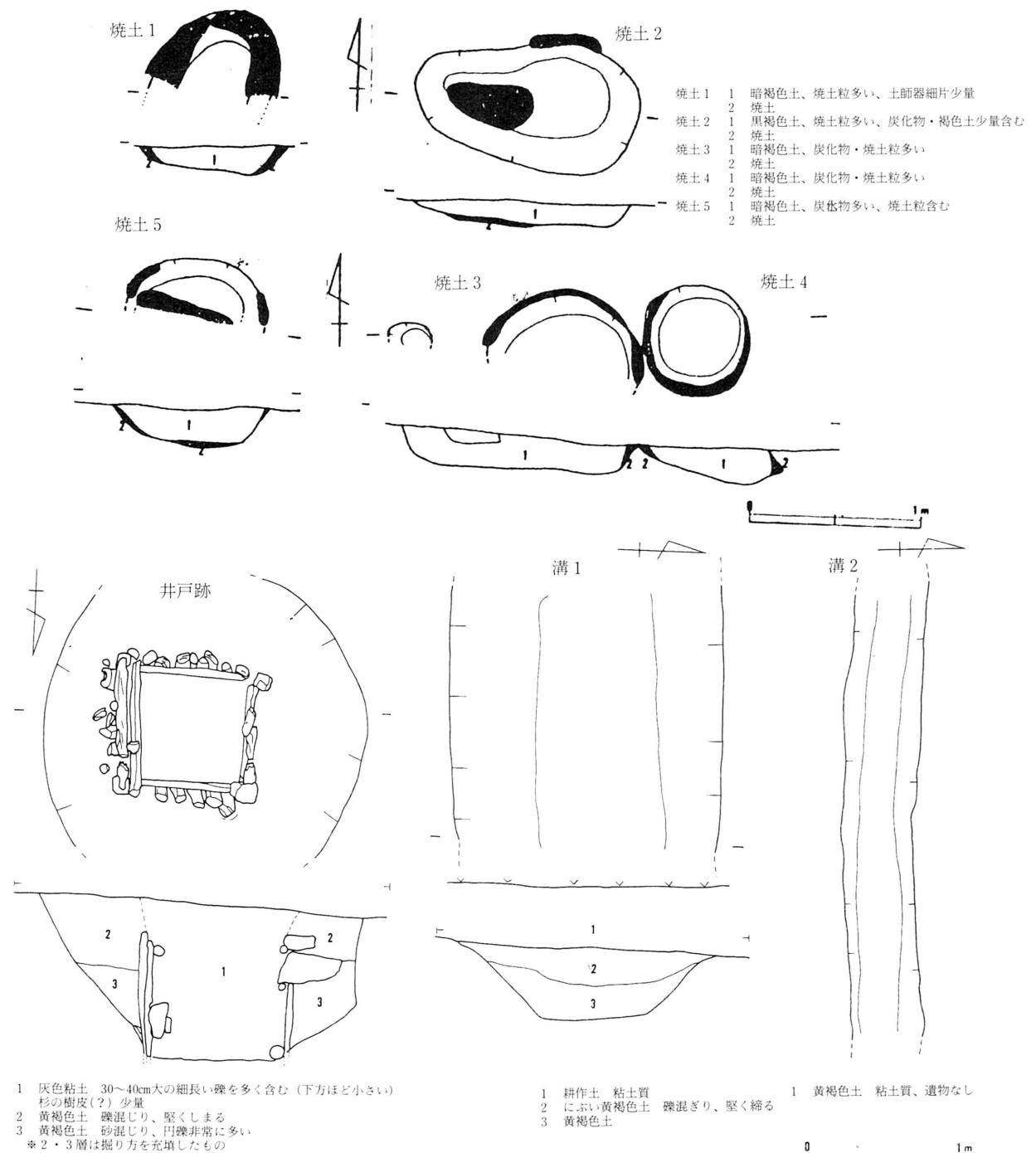
井戸跡は円形の開口部約2m深さ約1mの掘り方を掘った後、1辺80cmの正方形の4隅に杭を打ち込み井戸枠を



第60図 岩谷堂橋本I・後田I遺跡調査区位置図

作り、井戸枠と掘り方の壁の間を礫混じりの粘土で充填している。埋土1層の状況から最後には埋め戻されたものと考えられる。掘り方埋土の2・3層から近世以降の陶磁器が出土している。

溝1については現況の水路と隣接して平行に東西に延びており、現在の土地の区画と概ね一致しているように思われる。溝2はやや離れて位置している。いずれの溝跡からも遺物は出土していない。



第61図 岩谷堂橋本I・後田I遺跡遺構

25 広域農道整備事業胆沢南部地区関連調査

本巻遺跡 (N E 64—1016)

所在地：胆沢郡衣川村本巻地内

事業者：岩手県水沢地方振興局胆江土地改良事業所

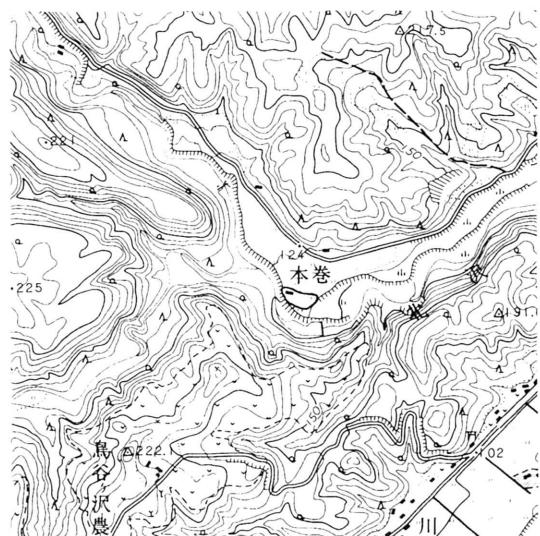
調査期日：平成 9 年 11 月 14 日

遺跡は南股川の支流となる蛭沢左岸の河岸段丘上に立地する。標高115m前後。遺跡周辺はこの部分でわずかに小規模な水田地帯が見られるものの、急峻な山裾が間近に迫っている。

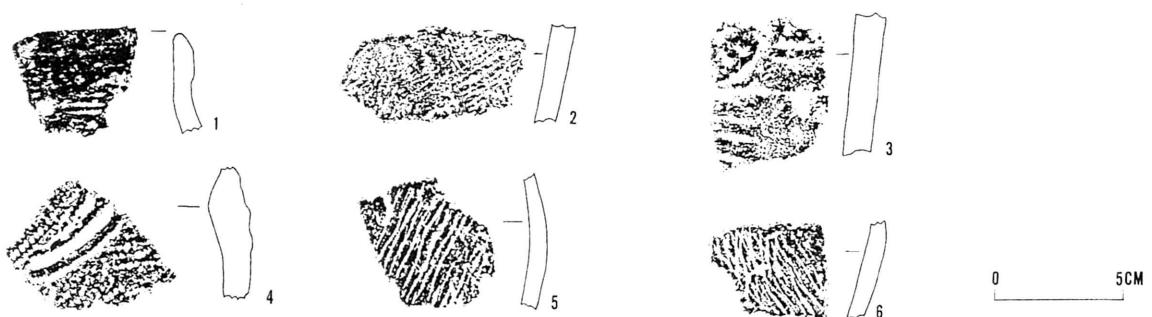
試掘トレンチを、農道予定部分について13ヵ所設定した。その結果、T 1、2 では縄文土器片は出土したもの、過去の水田造成に伴って搅乱を受けた土壤中からのもので、表土直下にも遺物の包含される腐食土層は観察

されず、地山の粘土層が若干削平された状況で確認された。T 3 では、黒色土が厚く堆積し、土中から縄文前期及び中期の土器片が出土した。地山は粘土層の上位に位置する黄褐色の土層で、この面上で遺構が確認できるものと考えられる。さらにその北側の用水路を挟んでT 4～13を設定した。ところが、これらのトレンチでは、段丘崖に近い部分で地山の砂層もしくは砂礫層が確認され、さらに奥のトレンチではグライ化した泥質の土壤が確認されるなど、遺構・遺物とも検出されなかった。

したがって、遺跡は段丘崖に近いごく狭い帶状の細長い範囲に広がるものと考えられる。(平成10年度本調査予定)



第62図 本巻遺跡の位置



第63図 本巻遺跡調査区位置図・出土遺物

26 担い手育成基盤整備事業真城地区関連調査

谷地 遺跡 (N E 36—1352)

土手南遺跡 (N E 36—1318)

高根 I 遺跡 (N E 36—1359)

迎野 I 遺跡 (N E 37—1053)

所在地：水沢市真城地内

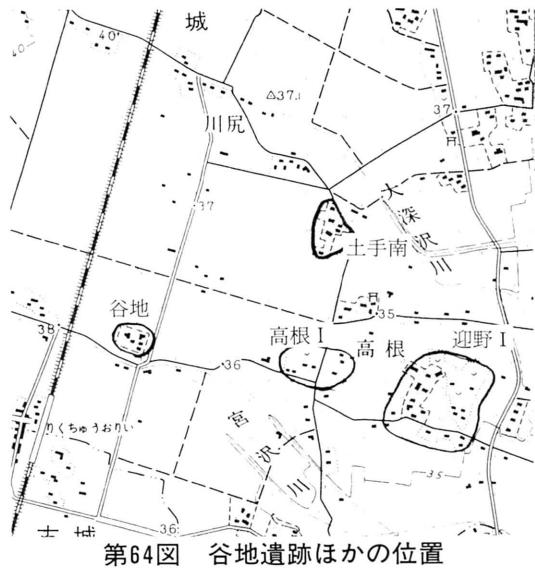
事業者：岩手県水沢地方振興局胆江土地改良事業所

調査期日：平成 9 年 4 月 15 日～17 日（3 日間）

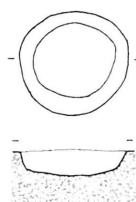
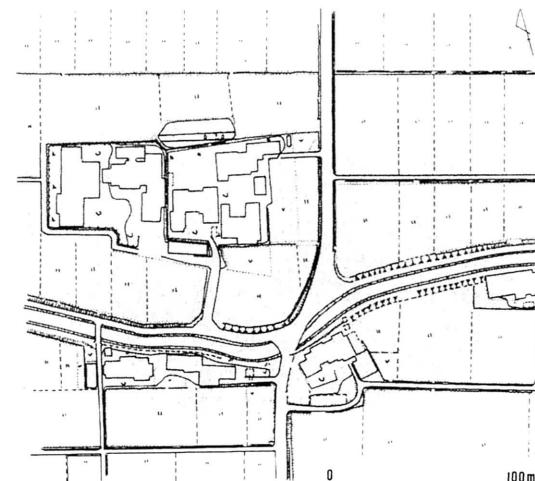
これらの 4 遺跡は胆沢扇状地のほぼ中央の北上川に近い自然堤防上に立地している。JR 線と国道 4 号のさらに西側には、北上川による低位の段丘面が発達し、縄文～古代の遺跡が形成されている。標高は北西側に向かうにつれ多少高くなるが、35～37m 前後である。

この地区についても、ほ場整備に関し小規模な発掘調査が繰り返されてきている。それらのほとんどは平安時代の遺跡で、まれに縄文晩期～弥生期の遺物等が確認されることがある。

平成 9 年 1 月に当該年度のほ場整備事業範囲について試掘調査を実施した結果、その際に確認された埋蔵文化財については事業者の協力によりほとんどを工法等の変更により保護することができた。今回の調査は、やむを得ず記録保存が必要となった水路等の箇所について実施したものである。



第64図 谷地遺跡ほかの位置



3号土坑



2号土坑



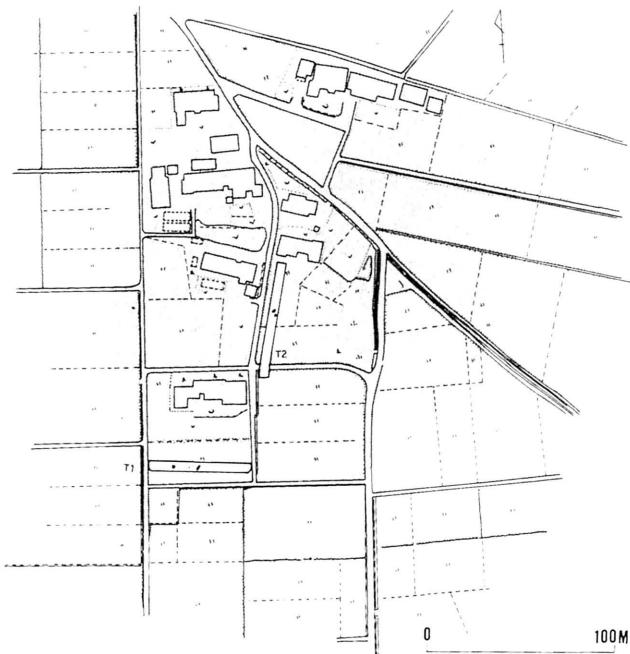
1号土坑

1号土坑 暗褐色土
2号土坑 暗青灰色土
3号土坑 暗青灰色土

(やわらかくバサバサ、下部で炭化物粒と焼土粒が混じる、やや粘性が出てくる)
(粘性なし、ブロック状を呈する、やわらかい、炭化物)
(粘性あり、やわらかい)



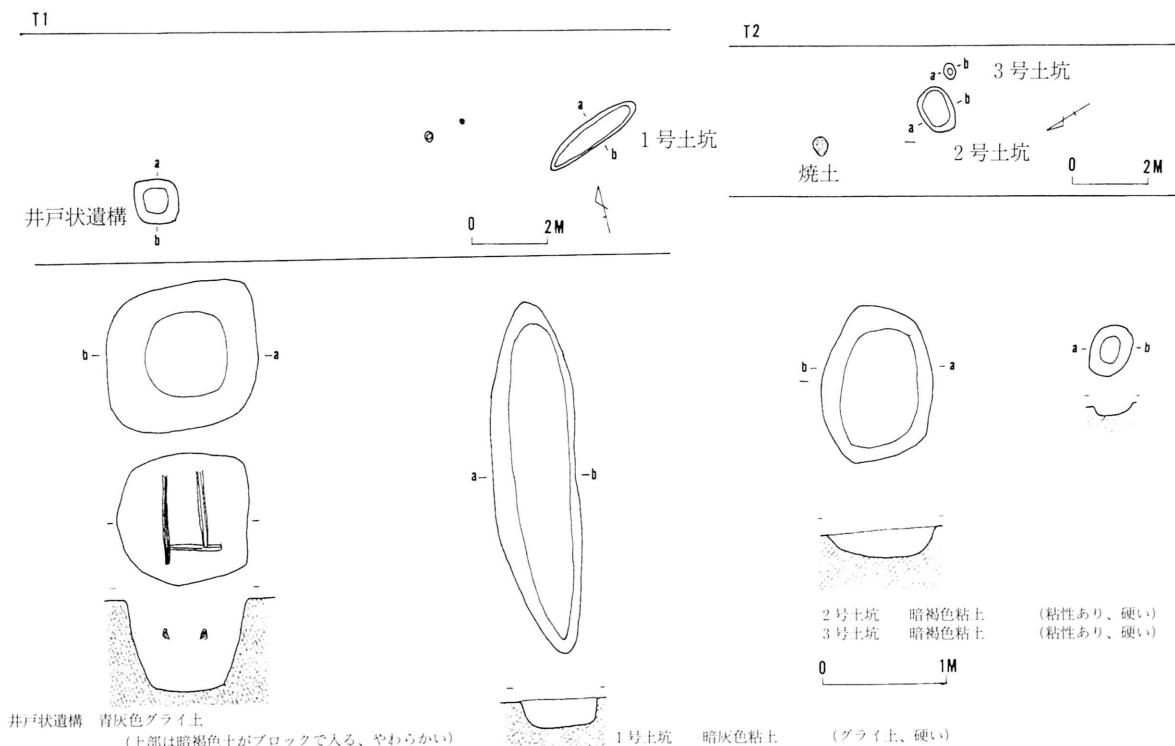
第65図 谷地遺跡調査区位置図・遺構



偏在し、ほぼ等間隔に列をなしている。埋土の状況、出土遺物等から9世紀代のほぼ同時期に機能したものと考えられる。

土手南遺跡は、ほ場整備事業域のほぼ中央に位置する。遺跡内を市道が東西から南北に走るが、この市道に沿うように宅地が形成されている。

調査は遺跡内の東西水路と南北水路部分について実施した。東西水路（T1）は、20m北側の一段高い部



第66図 土手南遺跡の位置・遺構

谷地遺跡は、J R線の東側約200mの付近に広がっている。この付近はわずかに宅地が見られるものの、ほとんどが水田化されていて微地形の観察が極めて困難である。水路予定部分に平行してトレンチを設定した結果、土師器片とともに土坑が3基確認された。

1号土坑は長軸2m程度の小判型の土坑である。埋土は単層である。壁面の立ち上がりは明瞭である。土坑中より土師器片が数点出土した。2号土坑は長楕円の平面形で、掘り込みは浅い。底面にやや起伏が観察される。遺物は出土していない。3号土坑は径1m弱のほぼ円形の土坑である。深さ15cm前後。壁面の立ち上がりは明瞭である。遺物は出土していない。これらの土坑は調査範囲の東側に

分が畠地ないし宅地となり、低い部分に予定されている。トレンチの西側寄りに井戸状の遺構、ほぼ中央部分で溝状落とし穴遺構等を検出したため、精査を行った。遺構はいずれも明褐色のやや粘土質のシルト層上で確認されている。

井戸状遺構は、確認の段階で一辺約90cmの方形の遺構として認識できた。この面でクリーニングしたところ、柱あたり状の土色の違いが認められたため掘立柱建物跡の存在を予想し、調査区を周辺に一部拡張しながら連続する遺構の検出を行った。しかし新たな遺構は確認されなかったことから、単独の遺構として掘り下げを行った。20cmほど下がった段階で埋土の状態がややグライ化し、さらに柱あたり状の土色変化も認識できなくなったことから、半截した。その過程で、方形に配された板状木材の断片が出土したことから、井戸跡であると考えた。さらに精査を進行したが、この材は以下に連続せず、埋土中に浮く状態で存在することが明らかとなった。遺構の掘り込みは底面・側面とも明瞭である。埋土の状態から、平安期に属するものと考えられる。

落とし穴状遺構（1号土坑）は、確認面でやや不整形な平面形としてとらえられた。深さは最深部で20cm前後で、北東隅の底面が漸次浅くなる形態である。埋土は硬い粘土質のやや腐食した土壤で、古代の遺構埋土とは異なっている。出土遺物はないが、縄文時代に属するものと考えられる。

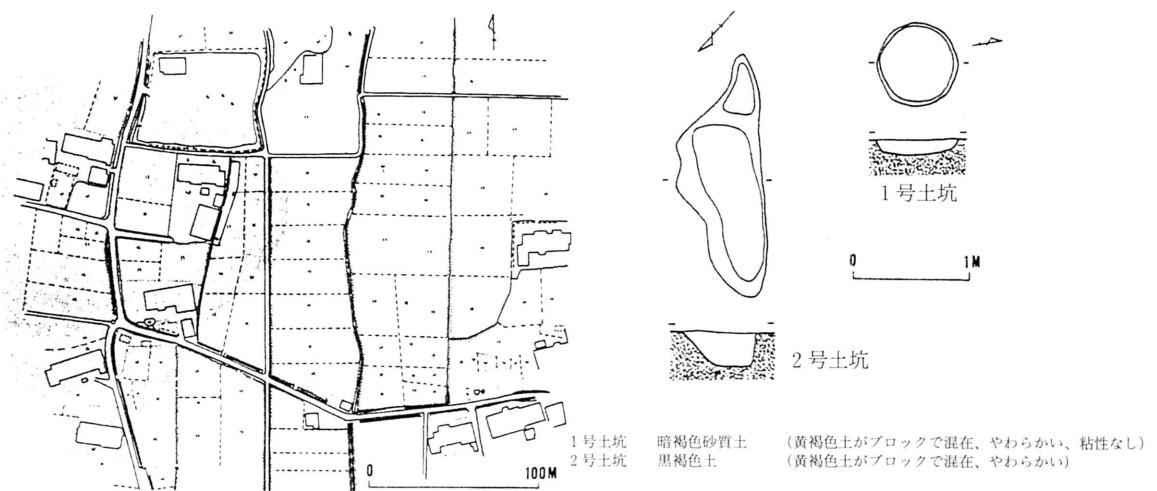
このほか、落とし穴状遺構の西側2～3m付近で小土坑が2基検出された。

T2では、表土直下に灰黄褐色粘土質の土壤が確認され、以前の水田造成で上部が削平されている状況が理解された。このトレンチのさらに東側はグライ化した泥質の土壤となり、元来低い部分であるかもしくは大きく地形改変されている部分であると予想された。

このトレンチでは、土坑が2基、焼土が1基検出された。いずれの遺構も上部が削平された豊穴住居跡に伴うものである可能性を有している。遺構確認面付近で、土師器等が少量出土している。2号土坑は長径120cmの橢円形で、粘土を掘り込んでいる。遺物は出土していない。立ち上がりは明瞭である。

高根I遺跡は、土手南遺跡のほぼ真南400mに位置する。付近には水田・宅地のほか、小工場などが建設されている。今回の調査は市道より東側部分で、西側については平成8年度に調査が終了している。工場脇に予定されているほぼ南北の水路部分についてトレンチを設定し試掘したところ、北側の低地部との比高約1mの高みにある畠地部分とトレンチのほぼ中央付近で土坑を2基検出した。

1号土坑は、径90cmの円形の土坑で、深さ15cm。底面及び壁面の立ち上がりは明瞭である。土坑埋土中よ



り土師器甕の体部下半の破片が出土している。

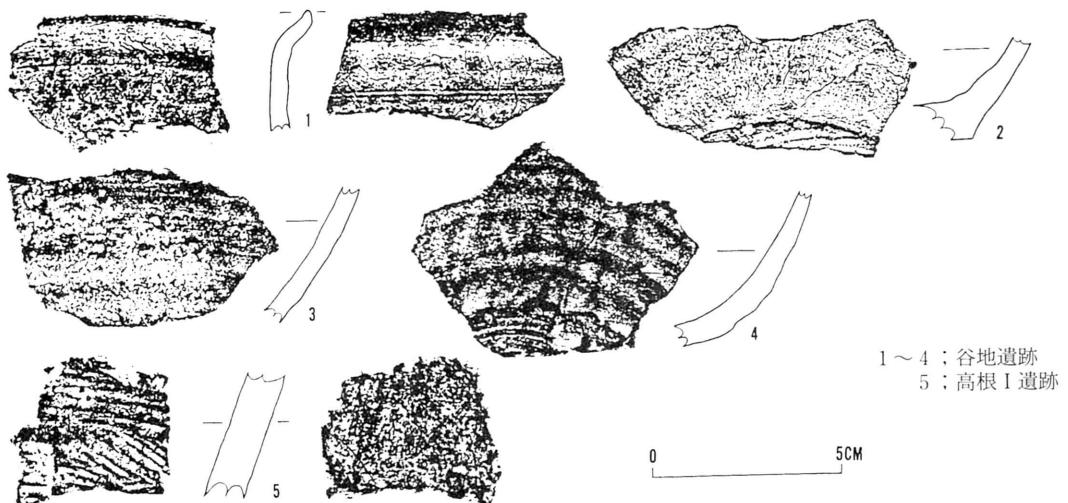
2号土坑は長軸250cmの不整形な土坑である。遺構の確認は、黒褐色土層下の黄褐色のやや砂質土壤面上で行っている。当初、平面形態から溝状の落とし穴状土坑を予想した。しかし、掘り下げの過程で形態が不整形となったことから、性格及び時期等について不明な土坑として報告する。底面、壁面の立ち上がりともやや不明瞭である。南側の立ち上がりには、小さなテラス状の段がつく。遺物は出土していない。

今回の迎野I遺跡の調査区は、高根I遺跡のほぼ真東約500mの地点である。調査区の南東は北向きの緩斜面の畠地で、この部分が遺跡の中心と考えられたが、試掘調査では遺構・遺物とも確認されていない。調査区は北側の水路予定部分である。

真城地区の東側では、地山が粘土質で硬い場合が多い。この遺跡内も同様である。表土を除去したところ、調査区西よりの部分で最大径50cm程度の柱穴列を二方向で確認した。東西方向の柱穴列は、柱間が190cm～200cmで、確認できたのは3間である。深さ約40cmに達するものもあり、径10cm内外の柱あたりも確認されてい



第68図 迎野I遺跡調査区位置図・遺構



第69図 谷地遺跡ほか出土遺物

る。この列が建物跡を構成するものであるなら、北側水田面に柱列が延びることになるが、今回の記録保存の調査対象からは除外している。この列とほぼ直交するように、3間以上の大規模な柱列が確認できた。この列と対応するものがトレンチの東西で検出されなかつたため、単独の柱列として考えておく。間隔も180cmから130cmとやや不規則である。深さ20cm前後。

これらの柱穴列は埋土中より遺物が出土していないことから時代の比定が困難である。類似した柱跡等は、事業域（水田面を含む）の広い範囲で検出されることが多い。その中でも、明らかに近世後半の陶磁器類を出土している場合があり、遺構の時期決定が可能な場合もあるが、この場合に限らず、遺物が出土しない場合の所属時期の判断が困難である。この遺跡の柱列に関しては、埋土の状態からは、中世もしくは近世のものと考えられる。

このほか、面工事が予定されている部分についても試掘調査を実施したが、それらの部分で埋蔵文化財が確認された箇所については、事業者の協力により盛土等の工法で現状保存することが可能であった。

27 担い手育成基盤整備事業真城地区関連調査

栗林遺跡 (N E 36—2315)

水ノ口遺跡 (N E 37—2033)

所在地：水沢市黒石町字八反町地内（栗林遺跡）

胆沢郡前沢町古城地内（水ノ口遺跡）

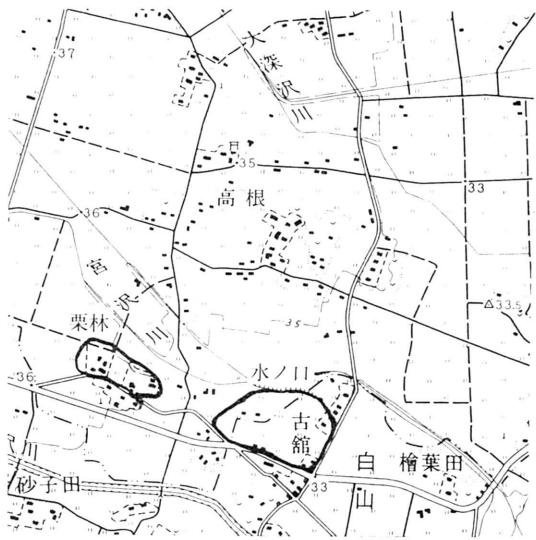
事業者：岩手県水沢地方振興局胆江土地改良事業所

調査期日：平成9年12月1～2日（2日間）

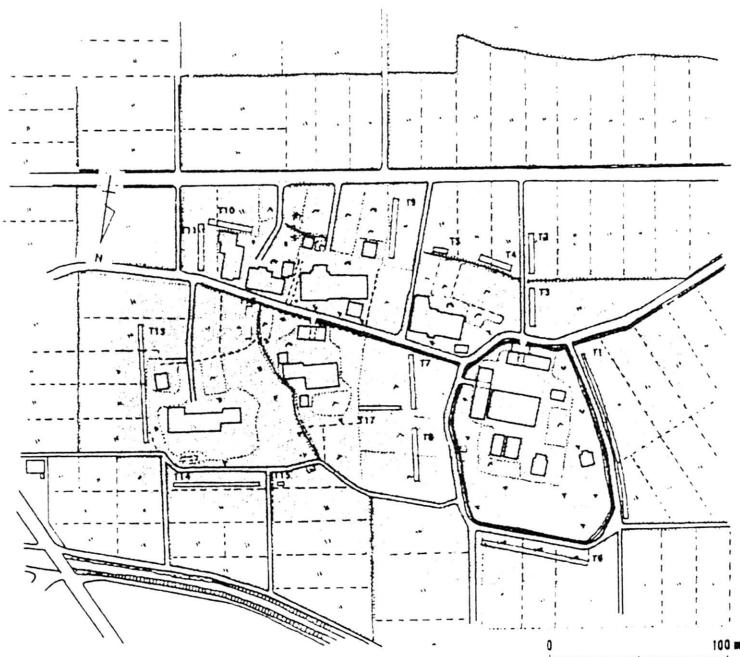
栗林遺跡は水沢市と前沢町境の水沢市側にあり、北上川によって形成された沖積地の微高地上に立地している。東側には水ノ口遺跡が隣接している。現況はほとんど宅地と畑で、その周囲のやや低い部分に水田が広がる。本遺跡の標高は34～35mで、周囲との比高は1m程である。

今回の試掘調査は県営ほ場整備に伴うもので、事業予定地内に16箇所の試掘トレンチを設定している。その結果、平安時代の竪穴住居跡、同時期と考えられる溝跡2条などが検出されている。層序は1層に耕作土があり、その下に現在の水田造成の際のものと思われる2層の盛土（0～20cm）と3層の遺構検出面の褐色～黄褐色土となっている。竪穴住居跡はT7の耕作土の直下で検出され、溝跡も近接したT17で検出されている。この付近は4軒の民家に囲まれた畑で2層の盛土は認められない。標高も水田よりは一段高い民家と同レベルである。周囲の水田部分では遺構・遺物とも確認されていない。遺構の分布する範囲はほぼ現在の民家の宅地の広がりの中で収まっていると考えられる。

本遺跡は田面については盛土によって保存される予定になっているが、遺構の検出されている水路部分については発掘調査が必要である。（平成10年度本調査予定）



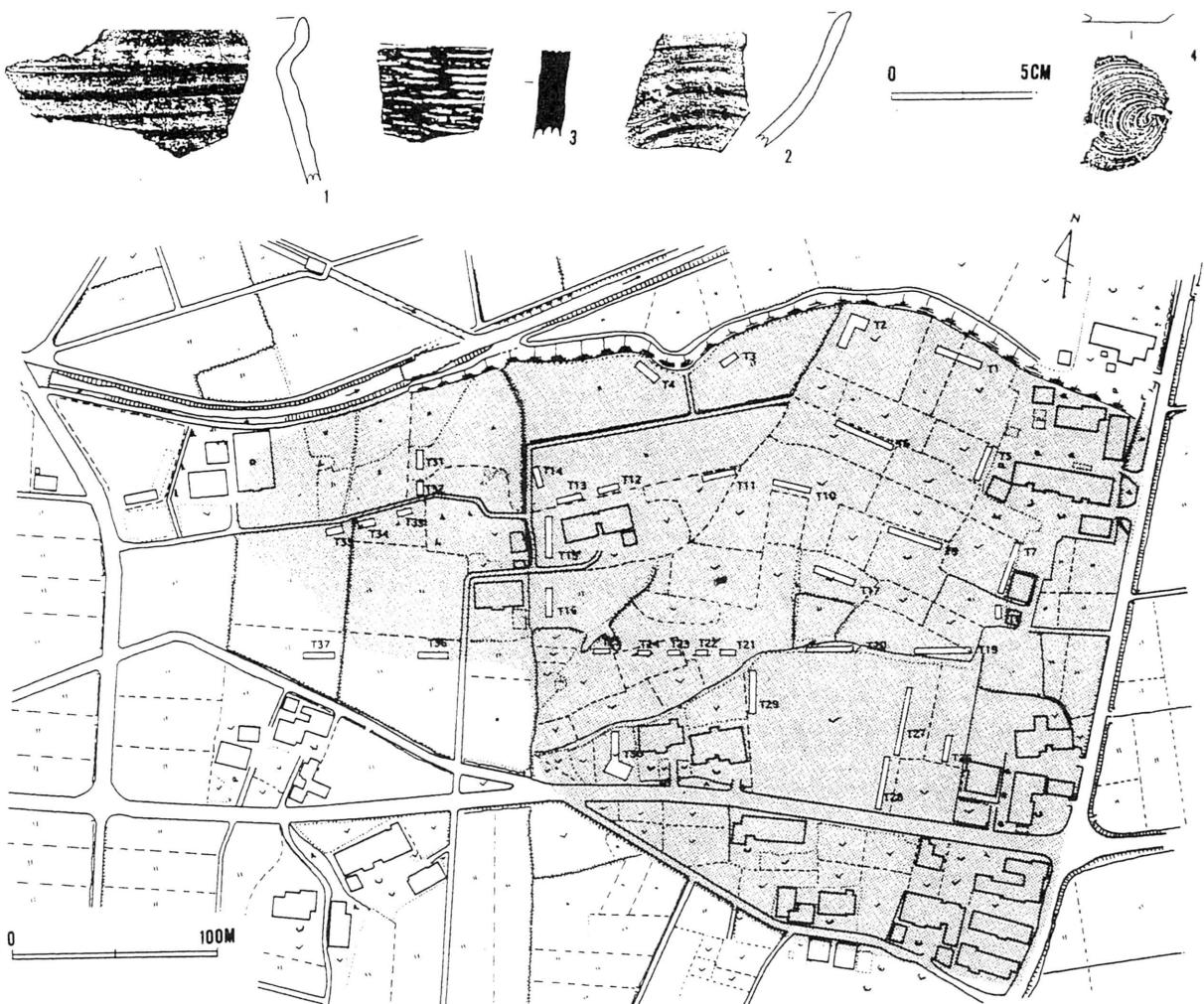
第70図 栗林遺跡・水ノ口遺跡の位置



第71図 栗林遺跡調査区位置図

水ノ口遺跡は北上川の沖積地の微高地に立地する。遺跡東側は段丘崖を形成し、北側は東流する小河川によって区切られるが、南側および西側は緩傾斜地となっており遺跡範囲はやや不明瞭である。今回の試掘調査では、水路予定部分および水田予定部分に合計37本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の所在を確認した。

遺構・遺物は遺跡南側および東側に集中する傾向が確認された。南側は遺跡内の最高位地点であり、T27およびT30でそれぞれ住居跡1棟づつが検出された。いずれも土師器・須恵器を伴う隅丸方形のものであり、付近ではそれに伴う土坑や柱穴状遺構も検出されている。遺跡東側のT19、T7、T5は水路予定部分であるが、これらのトレンチでは平安時代の遺物を伴い、焼土遺構、土坑、柱穴状遺構が多数検出された。また、縄文土器や剝片等も微量ながら検出され、縄文時代の遺構の所在も予想される。遺跡北側T1～T2ではそれぞれ時期不明の溝跡1条と、土師器を伴う小判形の土坑が検出された。東側・南側と比べ密度は粗である。遺跡中央部分のT9～T11およびT17でも平安時代の遺物を伴う溝跡や柱穴状遺構が検出されているが、密度は低い。遺跡内西側の民家付近から西側のトレンチでは遺構・遺物とも検出されなかった。遺跡東側の水路予定地は遺構・遺物が確認されているため、記録保存を目的とした発掘調査が必要となったが、埋蔵文化財が確認された水田部分については、盛土によりその保護をはかることになった。(平成10年度本調査予定)



第72図 水ノ口遺跡調査区位置図・出土遺物

28 担い手育成基盤整備事業徳岡地区関連調査

休場遺跡（N E 45—1144）

所在地：胆沢郡胆沢町小山徳岡地内

事業者：岩手県水沢地方振興局胆江土地改良事業所

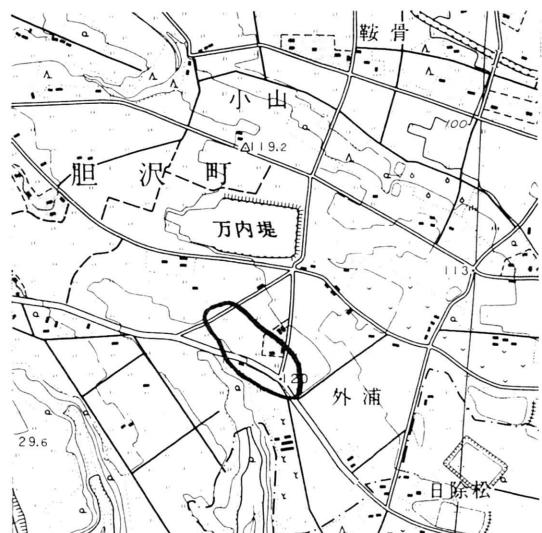
調査期日：平成9年11月12日～14日（3日間）

遺跡は胆沢扇状地の南西部に位置する。標高120m。遺跡付近は北西方向より流出する小河川が幾条にも延び、開析が進んでいる。南側は、それらの河川等により段丘地形が形成され、旧石器時代や縄文時代を中心とする遺跡が立地している。

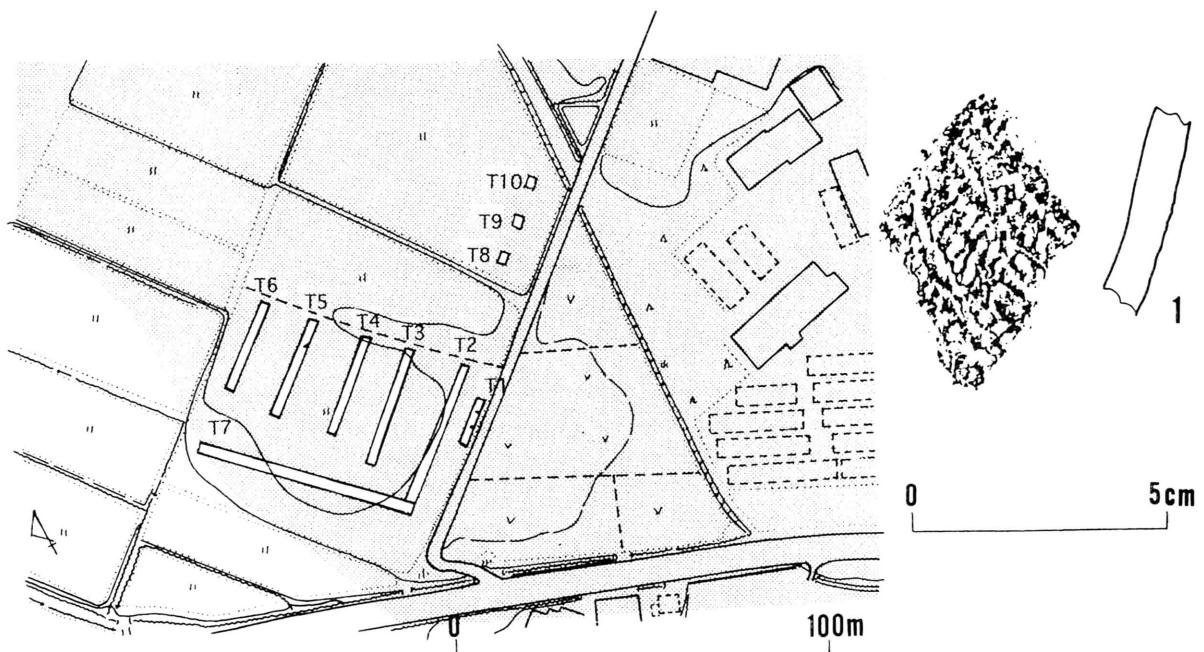
休場遺跡は、北側及び西側に小河川が流れている。遺跡付近は段丘地形により微高地状を呈するため水利が悪く、水田のほか畑地として利用されている。調査は、西側張り出し先端の畑地部分を中心にトレンチを設定して実施した。

その結果、現道脇の水路予定地部分に設定したT1においては、表土直下にわずかに腐食の進んだ暗黄褐色の土壌が確認され、この層と、さらに下位のやや硬い黄褐色ローム質層の境界付近で、縄文前期の土器片及び石器を検出した。土器片は胎土に植物纖維を多量に含んでいる。土器の出土量は少量で、しかも遺存状態は良くない。石器は比較的豊富に出土し、剥片の一縁に細部調整を加えた削器も見られる。特にT1南端に遺物が多く、炭化物粒が集中することから遺構の存在が予想される。T5では、溝状落とし穴が検出された。埋土は黒褐色で、土器等の時期とは異なるものと考えられる。T8～10では、表土下でグライ化した土壌が確認された。

以上より、T1～7の範囲について事業者と現状保存を前提に保護協議を進めたが、地権者等の意向から工法の再検討が困難であったため、記録保存の調査を実施することとした。（平成10年度本調査予定）



第73図 休場遺跡の位置



第74図 休場遺跡調査区位置図・出土遺物

29 担い手育成基盤整備事業東田地区関連調査

中半入遺跡 (N E 15-0282)

蝦夷塚古墳 (N E 15-0178)

所在地：水沢市佐倉河半入地内

胆沢郡胆沢町東田地内

事業者：岩手県水沢地方振興局胆江土地改良事業所

調査期日：平成10年1月12日～2月10日（6日間）

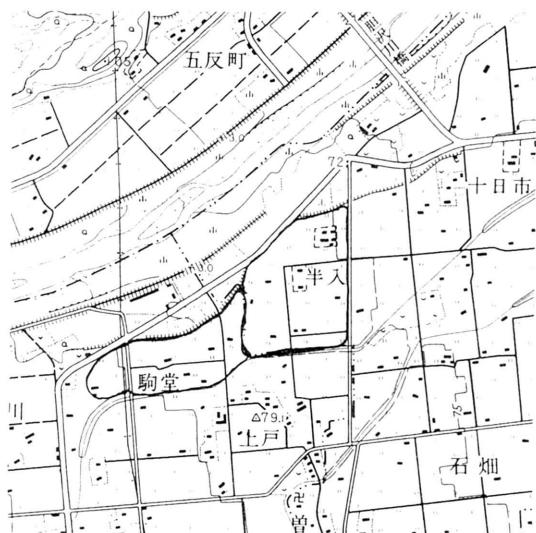
遺跡は胆沢扇状地の北端部、胆沢川の右岸の沖積平野部に位置する。この付近は古い時期から開田が進められ、その都度区画整理が行われてきたようである。そのため、現在の水沢市と胆沢町の境界も、地形的には全く連続する中に設定されている。また、この中半入遺跡と蝦夷塚古墳は一体の遺跡と考えられるが、便宜的に東側水沢市

域について中半入遺跡、西側胆沢町域を蝦夷塚古墳と呼んでおく。標高は75m前後。

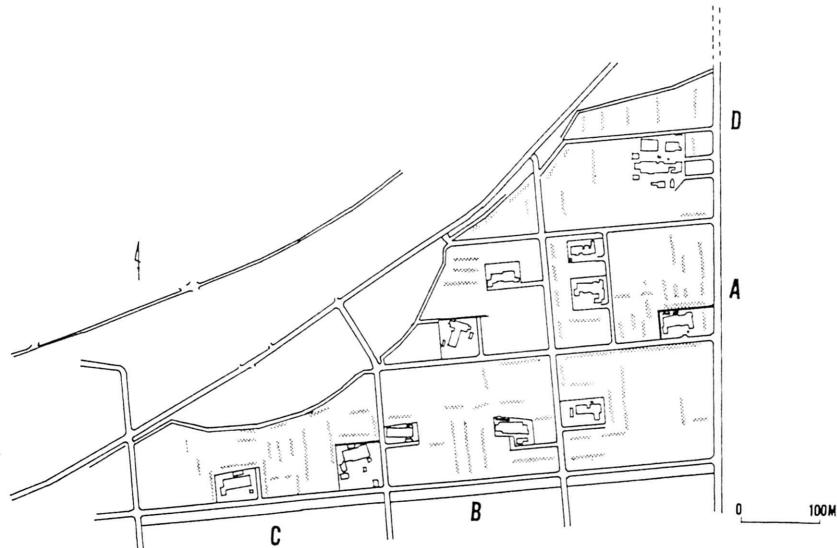
この地域は起伏の乏しい平坦地が広がっていることなどから、一部を除き埋蔵文化財包蔵地として周知されている範囲は極めて限られていた。その中で、仙台藩安永風土記に記載される10基の小円墳は、ここいう蝦夷塚古墳と同一のものとして考えることができ、現状で水田中に川原石が積まれた石室状の露出が認められる。ただし、胆沢川が度々氾濫することから、その一部はすでに流出して存在しないものと推定されてきた。

わずかに周囲の水田より高くなる範囲については、宅地もしくは畠地として利用されている。この部分では、試掘調査においてB区とした部分の畠地で黒曜石製の剝片等が多量に採集されることなどから、縄文時代以降の遺跡の可能性が考えられてきた。また、南側約2km地点には5世紀後半代の前方後円墳角塚古墳が位置し、その東側周辺では、奈良時代の集落跡などが広い範囲で確認されていた。

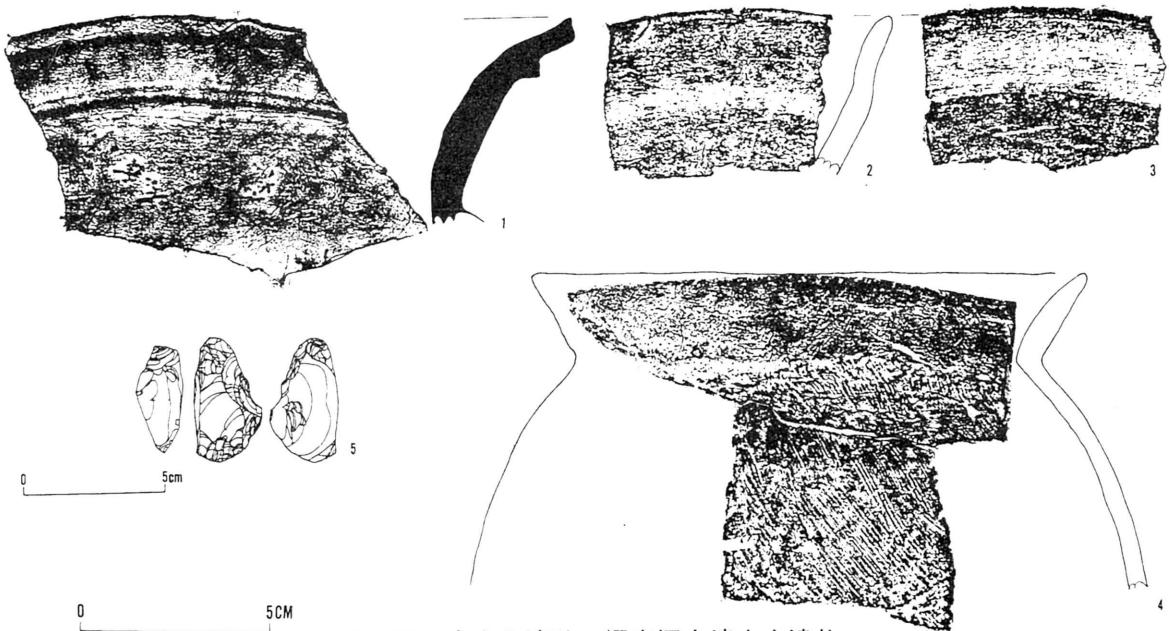
今回の試掘は、平成7年度に実施した表面調査に基づきトレンチを設定して調査を進めた。まず、A区において表土直下に比較的近年の（近世末以降か）水田耕作土及び床土が検出された。さらにその層の下位には、灰白色の火山灰層が広い範囲で確認された。この上面では古代の遺物等は確認できなかった。火山灰層



第75図 中半入遺跡・蝦夷塚古墳の位置



第76図 中半入遺跡・蝦夷塚古墳調査区位置図



第77図 中半入遺跡・蝦夷塚古墳出土遺物

の直下では暗褐色～黒褐色を呈するややグライ化した土壤が確認され、この土壤中には平安時代～古墳時代の土器片等が多量に含まれていた。この遺物包含層は、厚い部分で50cm以上に達したことから、遺構の存在が予想できた。さらにこの層の下位には、灰黄褐色のシルト質の土壤が見られ、この層の上面で、切り込んでいる遺構が確認できる。

火山灰層は攪乱を受けないプライマリーな堆積状況を示し、10世紀前半の十和田起源のものと考えられる。このことから、平安時代の水田跡が広がっている可能性を予測し、この上面で畦畔状遺構の検出を行った。その結果、複数箇所で小区画水田の畦畔状遺構が確認された。この段階で、従来県内においては水田跡調査例が少なかったため、事業者の理解を求めながら、水田面部分における内容確認調査の実施と水路等掘削部分における本発掘調査の実施について協議を進めた。

さらに、遺跡の範囲と内容を事前に把握する必要があることから、周知されていた範囲にとどまらず、この付近ほぼ全域について試掘調査を継続した。B区では、微高地（畑地）部分において古墳時代の竪穴住居跡を複数存在することが確認できた。また、低い部分で古墳時代の水田跡が所在することも確実となった。さらにその南側の縁部分では、包含層？中から古墳時代（5世紀後半）の土器とともに馬の歯が出土した。この付近では埋土中に多くの黒曜石片や搔器などが出土した。この黒曜石は、内部に乳白色の縞状の不純物を含むことから、宮城県湯之倉方面で産出されるものと考えることができる。

C区では、表土下に人頭大の河原石等が多量に含まれる地点などがあったが、そのほとんどは自然堆積として考えられた。また、概して遺物量は稀薄であった。ただし、火山灰層が流れ込んだ状態の、部分的に低く落ち込む地形が確認された地点もあった。

出土遺物は、5世紀後半代の土師器を中心とし、ほかに7世紀代の土器・平安時代の土器等がある。少量ではあるが、弥生土器も出土する。

以上の結果、胆沢川右岸の沖積地に断片的に確認されていた古墳時代中期の集落は、主要な生産基盤である水田跡を伴いながらかなり広範囲に広がるものであることが確実となった。(平成10年度～11年度本調査予定)

30 広域農道整備事業二戸地区及び
中山間総合整備事業御浄地区関連調査
大向上平遺跡（J E 18-0199）

所在地：二戸市似鳥加沢地内

事業者：岩手県二戸地方振興局二戸土地改良事業所

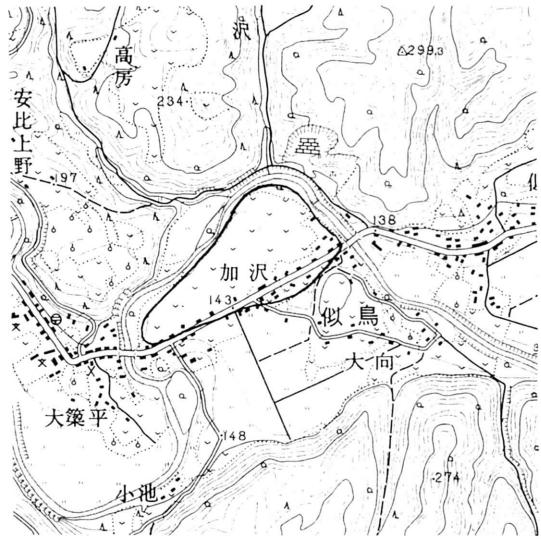
調査期日：平成9年3月24日～9月5日（2日間）

遺跡は安比川右岸の舌状の張り出しに立地している。安比川はこの付近で大きく蛇行しながら北東方向に流れ、ところどころに段丘状の地形を形成する。そのような部分は縄文時代または古代の遺跡が形成されていることが多いが、現河床との比高が小さい部分では低湿地となっている。遺跡付近の標高は140m。

今回の調査は、遺跡の立地する張り出しを農道が横断することによるものである。さらに、農道の両側において畑地の土地改良区画整理が予定されることから、主に切土による掘削が及ぶ範囲について試掘を実施した。

その結果、T3、T5で古代の住居跡が確認されたほか、T1～6の表土中などで土師器及び縄文土器片などが出土した。竪穴住居跡埋土中には灰白色の火山灰を含むことから、平安時代のものと考えることができる。全般に表土は浅く、遺構確認面として黄褐色砂質の中せり浮石層を含む層が表土直下で認められる場合があった。また、その上層に黒褐色土が存在する場合にも、畑地耕作による搅乱が及んでいることがある。表面で採集できる遺物量に比して、遺構等が少ない遺跡と予想される。T17、18では遺物・遺構とも確認されず、遺跡の範囲外と考えられた。（平成9～10年度本調査予定）

畑地造成予定部分について埋蔵文化財が確認されたトレンチにおいては、事業者の協力を得ながら設計等について検討を加え現状保存を図ることとした。



第78図 大向上平遺跡の位置



第79図 大向上平遺跡調査区位置図

31 一般農道整備事業太田地区関連調査

長袖 I 遺跡 (J E 35—1389)

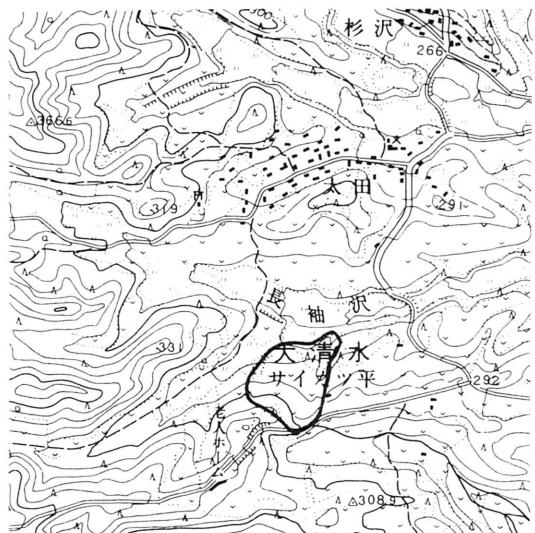
所在地：浄法寺町浄法寺字長袖

事業者：岩手県二戸地方振興局二戸土地改良事業所

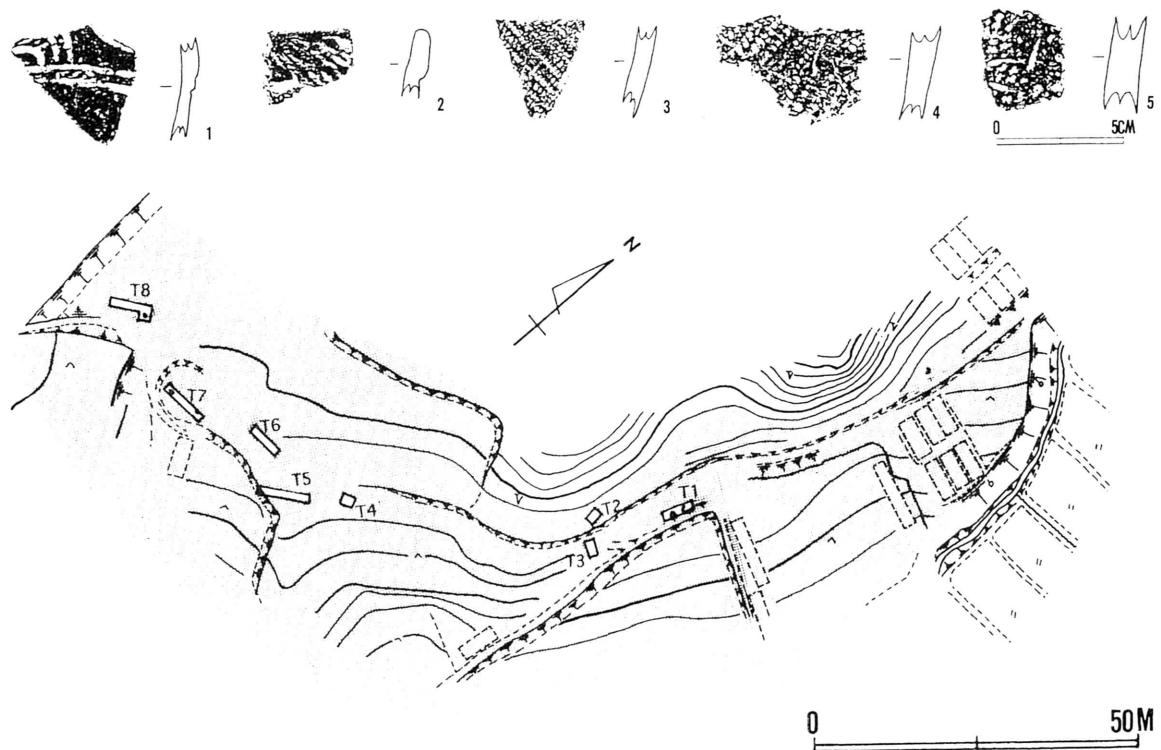
調査期日：平成9年11月26日

遺跡は安比川に流入する長袖川の上流部に所在し、河岸段丘とそれから続く山地の緩斜面に立地する。遺物の散布は広範囲および、特に、段丘辺縁部分において顕著である。今回の試掘調査は山際の現道沿いで、この付近までが遺跡の範囲と考えられる。基本土層は以下の通りである。第1層：耕作土20cm、第2層：黒褐色土40cm、第3層：灰白色火山灰層5cm、第4層：暗褐色土20cm、第5層：火山灰層。

試掘調査の結果、T1で陥穴状遺構1基と土坑2基が検出された。うち1基は埋土に第3層の火山灰を含むものであり、平安時代以降のものと考えられる。T7、T8では第4層から土坑および縄文土器が検出された。この付近は遺構の保存状況も良好であり、遺物の散布状況も遺跡北側より密度が高く、本遺跡の中心部分はこの付近から南側に伸びる張出部分であると予想される。踏査では縄文時代前期～後期の土器片、剝片のほか、土師器と考えられる土器片を1片確認した。事業予定地内にも複数の時期の遺構の所在が予想される。(平成10年度以降本調査予定)



第80図 長袖 I 遺跡の位置



第81図 長袖 I 遺跡調査区位置図・出土遺物

32 中山間総合整備事業御淨地区関連調査

袖ノ沢V遺跡（J E 35—2356）

所在地：二戸郡淨法寺町淨法寺上杉沢地内

事業者：岩手県二戸地方振興局二戸土地改良事業所

調査期日：平成9年9月4日～5日（2日間）

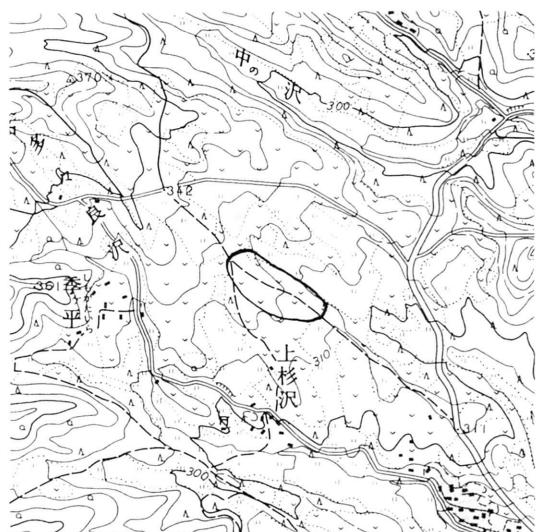
遺跡は稲庭岳に端を発し南東に流れる中小の河川によって開析され形成された丘陵尾根の頂部に立地する。この付近は同様の張り出しが複数見られ、縄文時代を中心とした遺跡として利用されることが多い。標高325m。

今回の調査は中山間整備事業の一環である農道工事に伴うものである。現道の改良が主な内容で、左右両側に拡幅が予定されている。

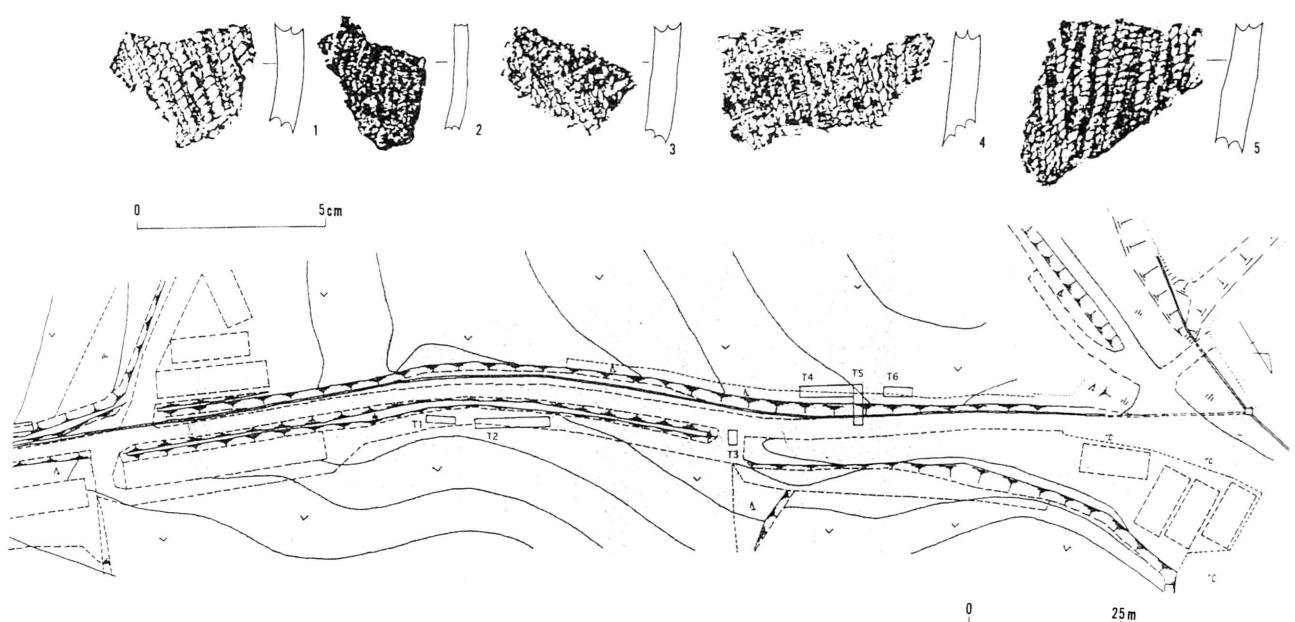
拡幅部分を中心に、T 1～6 を設定した。T 1、2 は現道より低い東側に向かって緩やかに傾斜する畠地内に設定した。この付近では、畠地造成が行われた際に大きく切土されている状態が、現道との境界の残地を観察することで容易に伺うことができた。薄い表土の下には硬い粘土質の地山が確認できた。遺物等は出土していない。

T 3～6 は、現道西側の高い畠地に設定した。T 4において灰白色火山灰を含む層が確認されたことから、道路側にトレンチを延長し遺構の広がりを把握することに努めたが、明確な平面形をとらえることはできなかった。この付近で、弥生後期の土器片が数片出土した。外面は不整な撚糸文が縦方向に施文され、内面は横方向にナデられている。胎土には大きめの砂粒が含まれる。器壁は比較的厚い。

淨法寺町内は大規模な畠地造成が行われているため、現況の地形と旧地形の関係が把握できないことが多い。この遺跡の場合も、表面で採集される範囲と遺構等の所在する範囲が異なる可能性が高い。（平成10年度本調査予定）



第82図 袖ノ沢V遺跡の位置



第83図 袖ノ沢V遺跡調査区位置図・出土遺物

33 畑地帯総合土地改良事業九戸地区関連調査

南田 I 遺跡 (J F 22-0147)

所在地：九戸村伊保内第26地割

事業者：岩手県二戸地方振興局二戸土地改良事業所

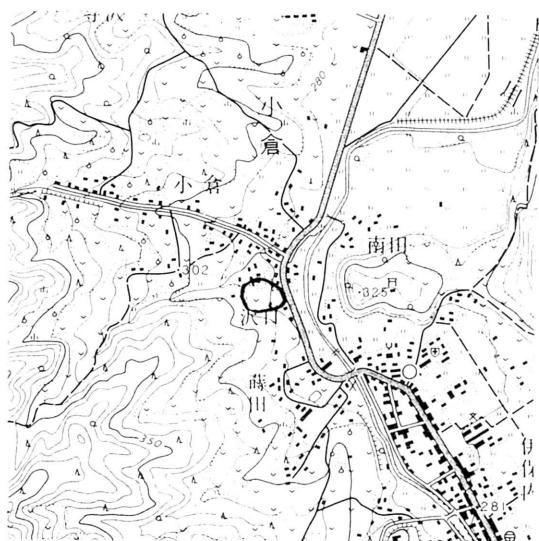
調査期日：平成 9 年 9 月 17 日

遺跡は瀬月内川西岸の舌状の張出に位置し、南側と北側に沢が東流する。本遺跡の南側、北側ともに同様の地形条件を備えており、多数の遺跡が連続して立地している区域である。調査区域北側の民家付近の畠地では大量の遺物の散布が認められる。試掘調査では道路予定部分に沿ってトレンチを設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。基本的な土層は以下のとおりである。第 1 層：耕作土 30cm、第 2 層：暗褐色土 20cm、第 3 層：黒褐色土 20cm、第 4 層：褐色土。

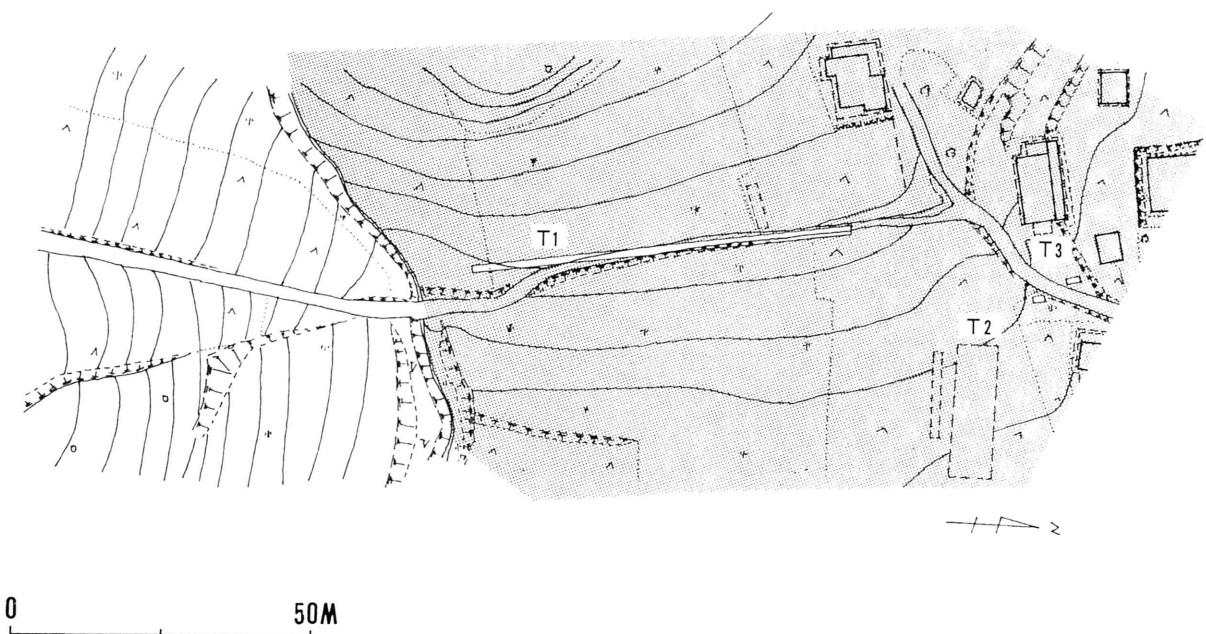
T 1 では第 4 層を掘り込んだ多数の柱穴状遺構や土坑、溝跡等が検出されたが、遺構に伴う遺物は確認されなかった。T 1 中央部分から北側では南側の遺構とは埋土の状況を異にする土坑類が検出されている。第 86 図 1、第 86 図 2 も T 1 北端で検出された土坑に伴うものである。第 86 図 3～12 の土器は表面から採取したものが中心であるが、いずれも縄文時代晚期前半～中葉の時期に属するものと考えられる。

T 2 では耕作土直下が第 4 層となっており、また T 3 では厚い盛土層が確認され、地形の改変が進んでいる。T 2 以降の区域は埋蔵文化財の所在は確認されなかった。また、同日に行った南田 II 遺跡および J F 22-0126 の試掘調査でも事業用地内では埋蔵文化財の所在は確認されなかった。

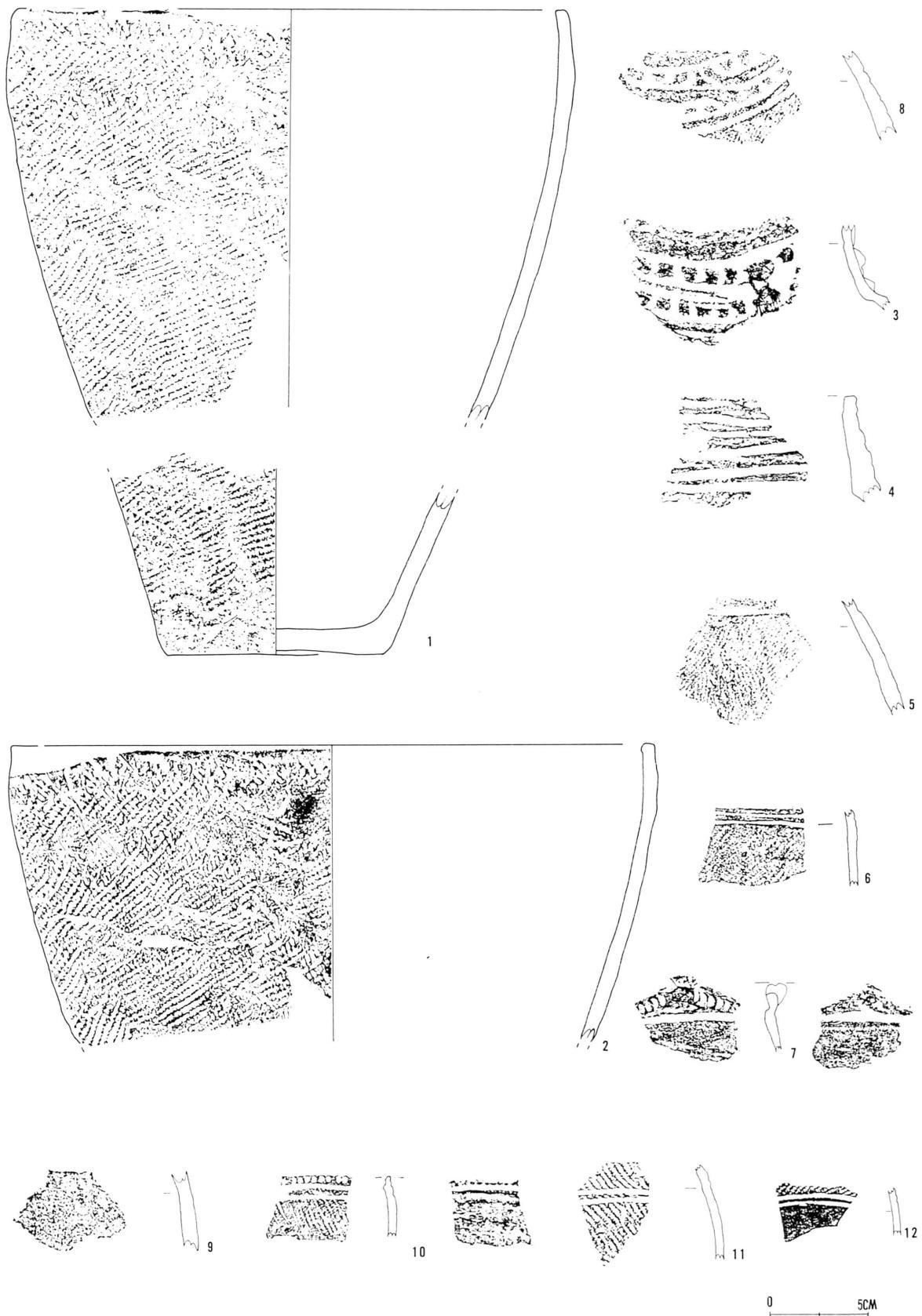
(南田 I 遺跡については平成 10 年度本調査予定)



第 84 図 南田 I 遺跡の位置



第 85 図 南田 I 遺跡調査区位置図



第86図 南田I遺跡出土遺物

34 主要地方道二戸安代線緊急地方道整備事業関連調査

大向II遺跡（JE18-1224）

所在地：二戸市似鳥字向田地内

事業者：岩手県二戸地方振興局土木部

調査期日：平成9年12月15日

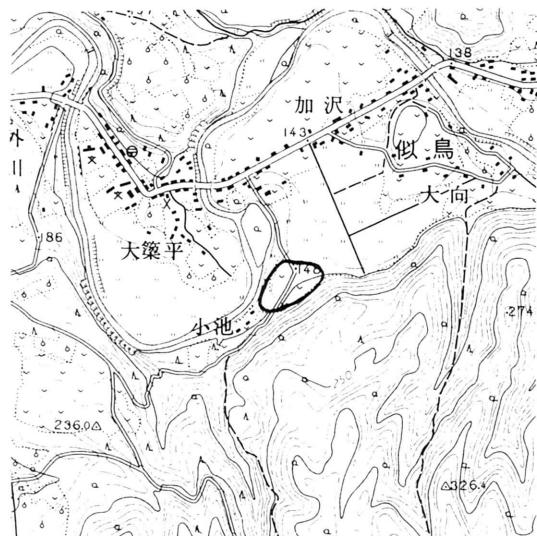
遺跡は安比川蛇行地点右岸の段丘面および山地から延びる緩やかな張出に立地する。

試掘調査では道路予定部分に沿って任意に7本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の所在の有無を確認した。

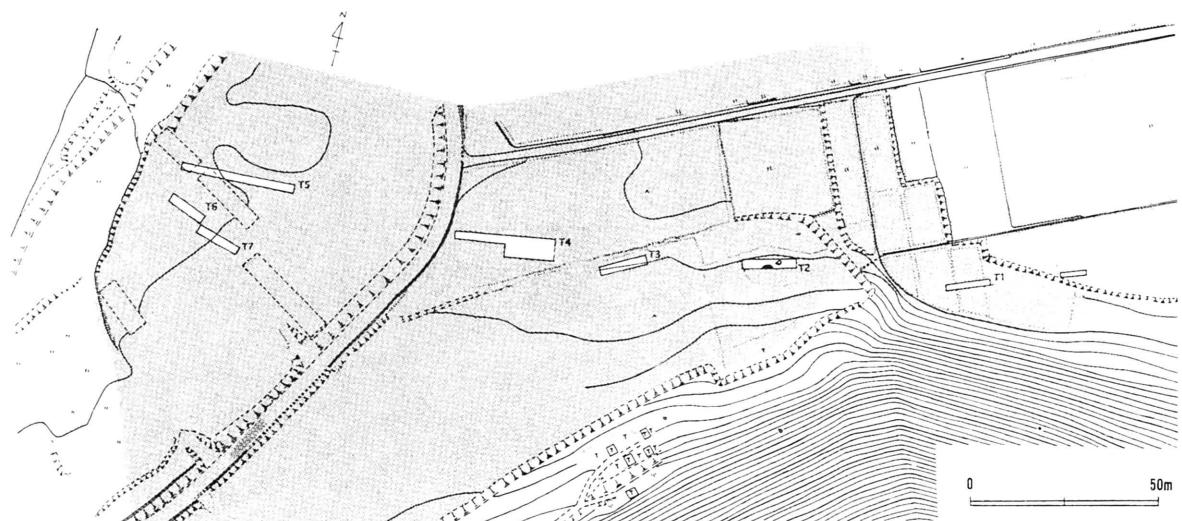
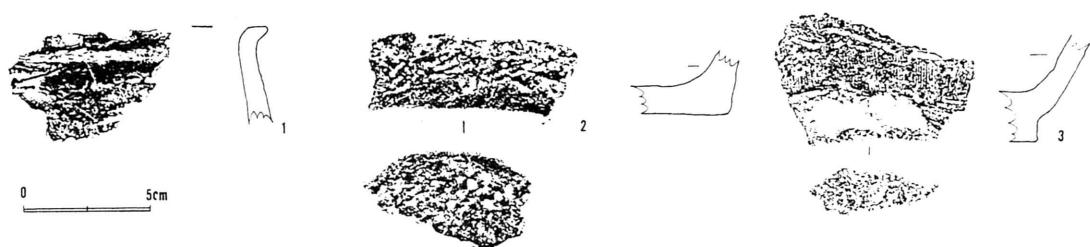
T5～T7は低位段丘面であるが、T7で灰白色火山灰層直下から焼土遺構が検出された他、柱穴状遺構も4基確認された。

高位段丘面のT4では灰白色火山灰を埋土とする、1

辺約510cmの堅穴住居跡が検出され、埋土からは土師器（第88図3）も検出されている。同様にT2では直径60cm程のほぼ円形の土坑2基が検出された。埋土に灰白色火山灰を含み、土師器（第88図2）を伴うことからこれらの遺構は平安時代のものと考えられ、灰白色火山灰は十和田a火山灰と考えられる。なお、T1では底部に網代痕のある縄文時代中期に属すると思われる土器（第88図2）も検出されており、縄文時代の遺構の所在も予想される遺跡である。（平成10年度以降本調査予定）



第87図 大向II遺跡の位置



第88図 大向II遺跡調査区位置図・出土遺物

35 広域農道整備事業東磐井地区関連調査

中長者 I 遺跡（O F01-0385）

所在地：東磐井郡千厩町小梨字中長者地内

事業者：岩手県千厩地方振興局両磐土地改良事業所

調査期日：平成 9 年 6 月 3 日

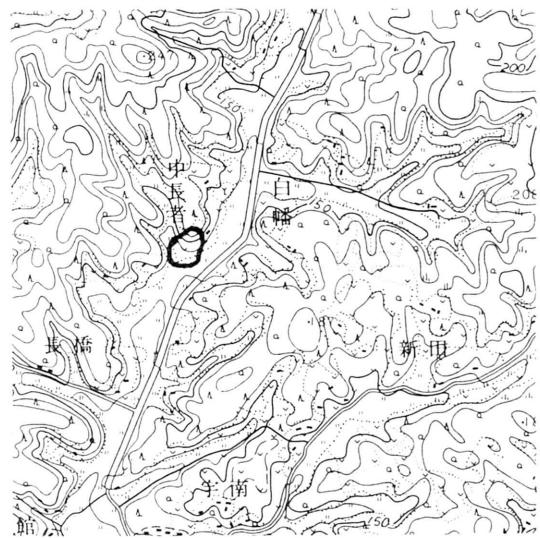
遺跡は千厩町のほぼ中央部、町の中心部から東へ 4 km ほどの丘陵斜面に位置している。付近は小規模な沢によって各方向から開析が進み、ごく狭い平坦地が形成されている。標高 130m。

今回の調査は農道予定地部分の約 300m²を対象としている。道路中央に沿ってトレンチを設定した。その結果、トレンチのほぼ中央で地山の灰黄褐色の花崗岩風化土を掘り込むように黒褐色の土層が確認され、この部分で縄文土器片が出土した。そのため、この部分について別途本調査が必要であると判断された。

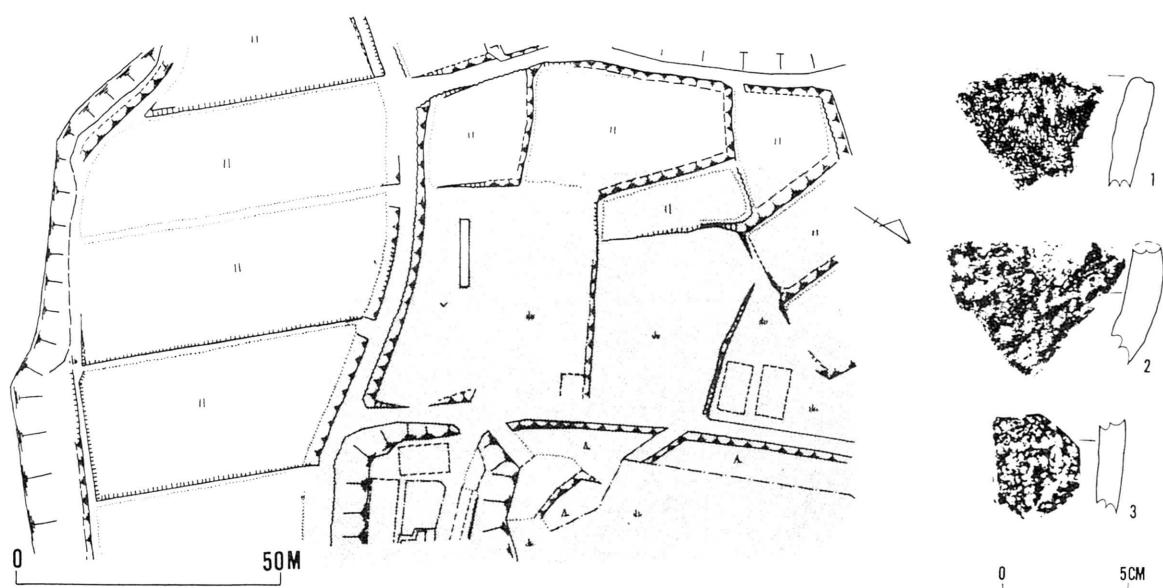
出土した遺物は縄文土器片のほか、それに伴うと予想される石器（剝片）である。出土量は多くないが、1～3 はいずれも胎土に植物纖維を含み、器内外面に縄文が施文される土器群で、この地方ではほとんど類例のないものであった。

当課では事業者と協議を進め、平成 10 年度発掘調査の方向で検討を加えたが、すでに直近まで工事が進められていたことなどから、本年度中に調査を実施することも視野に入れた。その結果、事業内容が地元に受益性の高い事業であることなどから、千厩町教育委員会において調査を実施することで調整を行った。

これを受け、事業者は町教育委員会と調査の委託契約を締結し、この遺跡についての野外調査及び室内整理・報告書作成を完了させる予定。（中長者 I 遺跡発掘調査報告書）。なお、発掘調査においては縄文早期の微隆起線を伴う条痕文系土器群も出土し、類例の少ない貴重な資料となった。



第89図 中長者 I 遺跡の位置



第90図 中長者 I 遺跡調査区位置図・出土遺物

36 担い手育成基盤整備事業奥玉地区関連調査

宿下遺跡（N F81-2334）

所在地：千厩町奥玉字宿下 地内

事業者：岩手県千厩地方振興局両磐土地改良事業所

調査期日：平成9年4月9日～11日（3日間）

遺跡は山間地から奥玉の沖積地に延びる緩傾斜地に立地する、縄文時代の集落跡である。今回の調査では工事施工により既に表土が除去された状況であり、遺物包含層の残状況および残存遺構の分布状況を確認し、その保護をはかることとなったものである。調査の結果、T 5～T 12の東西トレーニチでは遺物包含層の残存が確認され、盛土による保存を行うこととなった。同じく、T 1～T 4から北側のT 7までの区間でも遺物包含層の残存が確認されたため、盛土による保存を行うこととなった。

T 9は農道予定部分であるが、遺物の散布が著しく、削平によって破壊がすんでいるものの、住居跡と考えられる遺構や溝状遺構、柱穴状遺構が検出された。T 7東端でも土坑、柱穴状遺構が確認されたほか鉄滓の出土も見られた。同じくT 7中央部分でも土坑や溝跡が検出されたほか、鉄滓も検出された。この農道予定部分についても、盛土による保存を行うこととした。またT 4西側の法面では土坑断面が数基確認されたため、断面図として記録保存することとなった。

遺物は遺跡のほぼ全域からコンテナ1箱ほど検出された。主に、縄文時代前期～縄文時代中期初頭に属するものと考えられる。また、鉄滓については埋土の状況から近世以降のものと考えられる。



第91図 宿下遺跡の位置



第92図 宿下遺跡調査区位置図・出土遺物

37 扱い手育成基盤整備事業真城地区関連調査

畠中 I 遺跡 (N F52-2391)

畠中 II 遺跡 (N F62-0300)

畠中 III 遺跡 (N F62-0227)

所在地：大東町大原字畠中地内

事業者：岩手県千厩地方振興局両磐土地改良事業所

調査期日：平成 9 年 4 月 15～17 日（3 日間）

畠中 III 遺跡は、砂鉄川北岸の微高地上に立地する。

標高は 160m 前後である。遺跡の北側はまた低い地形になっており、砂鉄川の旧河道と考えられる。

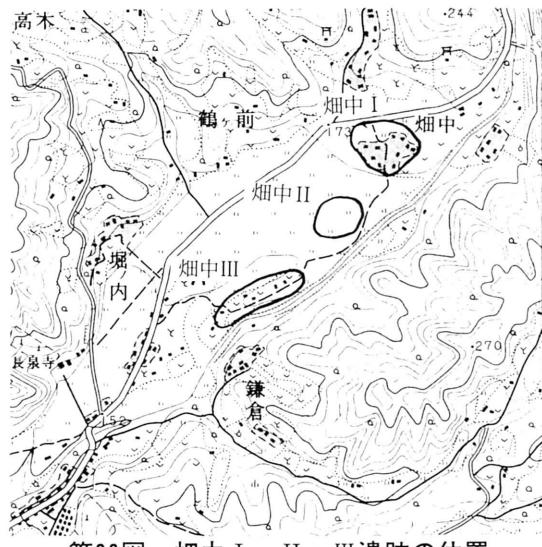
今回の調査では、事業予定地内に任意に 6 箇所の試掘トレンチを設定し、埋蔵文化財の有無等について確認しているが、既に一部については表土が移動されていたた

め、かなりの部分について十分な確認ができなかった。表土が一部残っていた部分でも遺構・遺物とも検出されていない。遺跡範囲の主たる部分は民家の敷地とその周囲の畠であると考えられる。

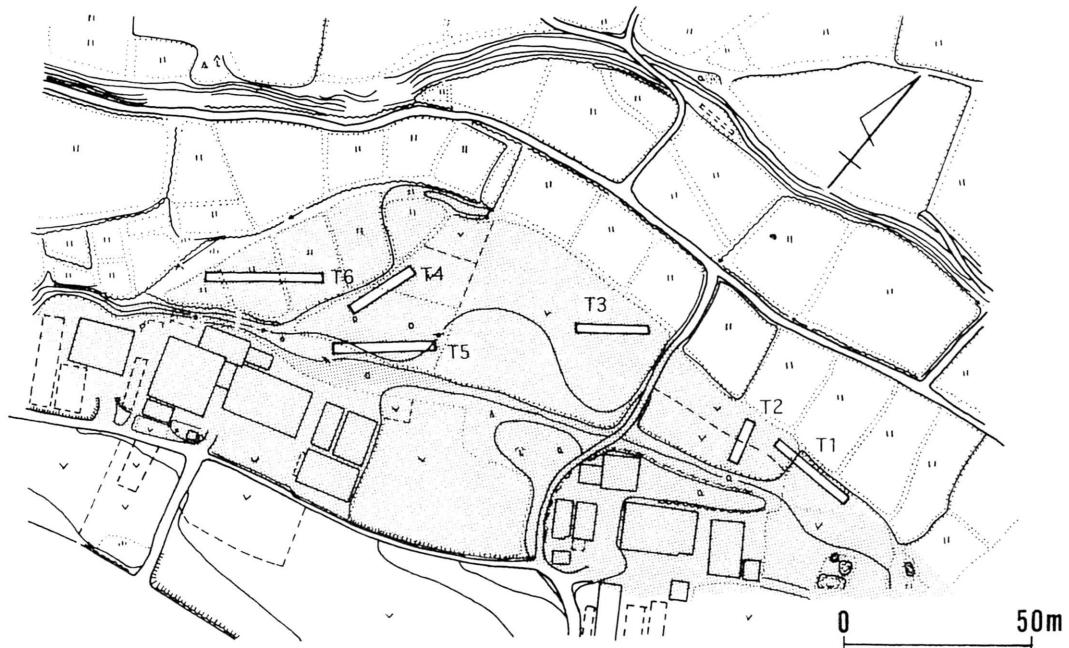
畠中 II 遺跡は畠中 III 遺跡の北側の段丘上に立地する。遺跡の標高は 170m 前後である。

今回の試掘調査では、試掘トレンチを 5 箇所設定して埋蔵文化財の状況について確認している。既に表土が移動されていた部分もあったが、南西部の T 5 で縄文時代後・晚期？の遺物包含層が確認された。段丘の縁を中心とした遺跡範囲が考えられる。

畠中 I 遺跡は畠中 II 遺跡の北側に位置しており、砂鉄川によって形成された沖積地の北辺に位置している。遺跡の標高は 172～175m である。

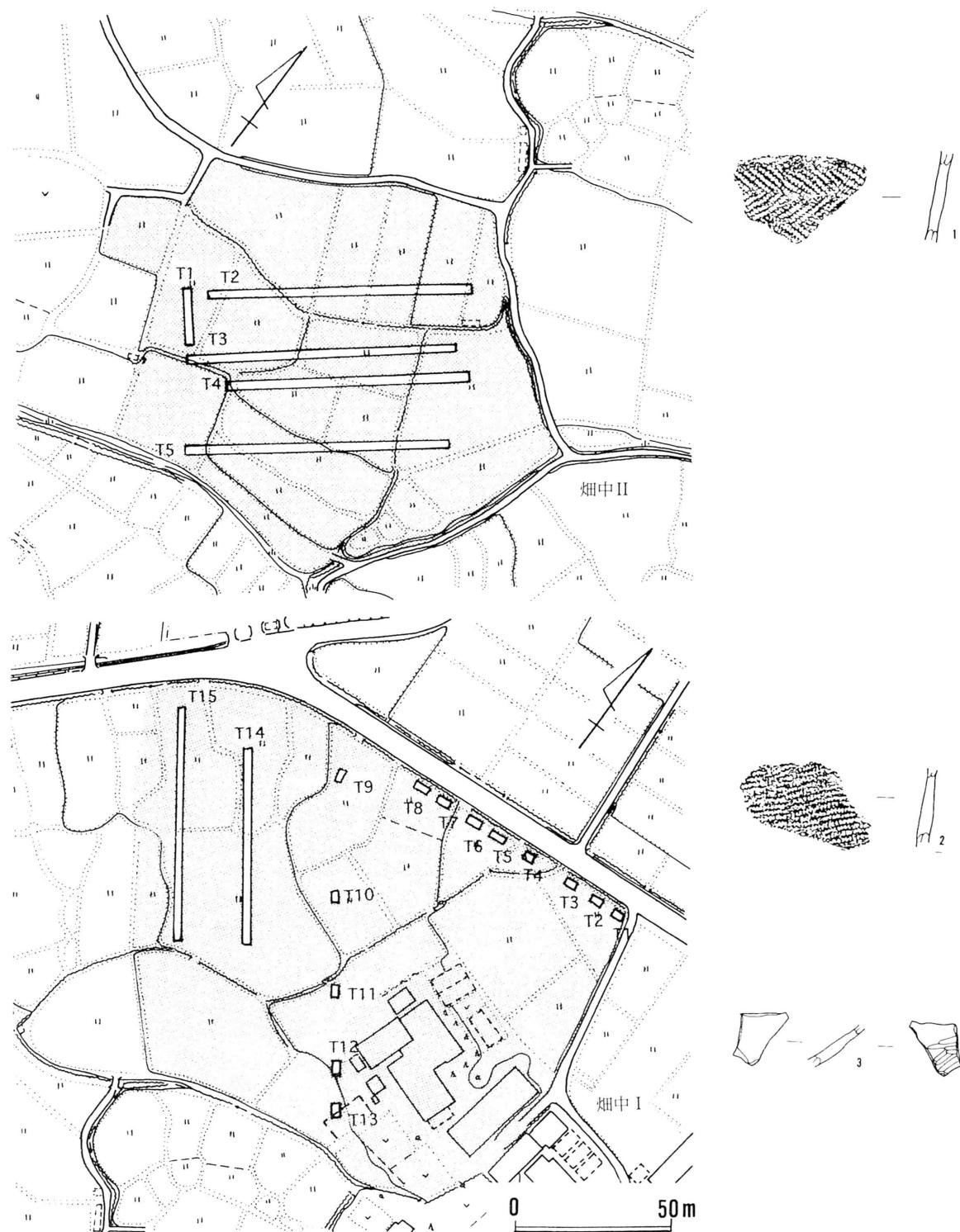


第93図 畠中 I・II・III 遺跡の位置



第94図 畠中 III 遺跡調査区位置図

今回の試掘調査では、事業予定地内に15箇所の試掘トレンチを設定して埋蔵文化財を確認している。ここも一部については表土が既に移動されており、必ずしも十分な確認ができたわけではない。確認できた範囲では北東部のT 1～3付近で縄文時代晚期の遺物包含層が若干確認することができた。他の部分では埋蔵文化財は確認することができなかった。



第95図 畠中II・畠中I遺跡調査区遺構・出土遺物

38 担い手育成基盤整備事業宮守川上流地区関連調査

須崎遺跡（MF32-2050）

所在地：宮守村上官守字小沢地内

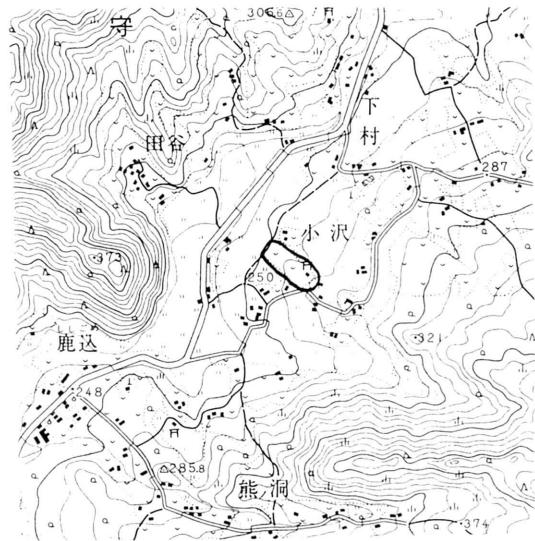
事業者：岩手県遠野地方振興局遠野土地改良事業所

調査期日：平成9年3月27日～28日（2日間）

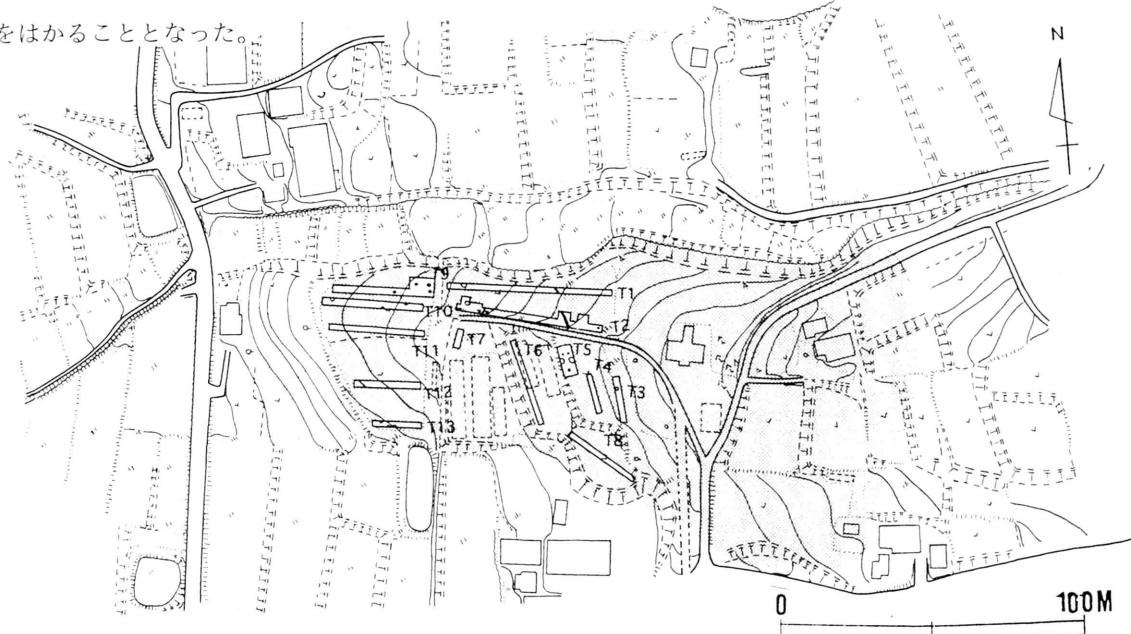
遺跡は宮守川上流部に位置し、宮守川に流入する2本の小河川に挟まれた緩傾斜の尾根に立地する。調査区域のはば全域が耕地・草地として造成されており、原地形は北側の斜面に若干残るのみである。今回の試掘調査では遺跡範囲のうち場整備該当区域のはば全域にトレーナーを設定し、遺構等の所在を確認した。T3で焼土および土坑が確認されたが、出土遺物および埋土の状況から近現代のものと考えられる。T5では直径110cmの土坑2

基が表土下20cmで検出された。さらにその北斜面にあたるT1～T2からは表土下35cmで溝跡、柱穴が検出され、溝跡からは縄文時代後期の土器片が2片出土した。さらにその西側のT9～T10でも複数の土坑、柱穴、溝跡が表土下35cmで確認された。遺物は確認されなかつたが、埋土の状況は縄文土器の検出されたT1～T2と同様のものである。遺跡範囲西端の中央部分は削平が進行しており、耕作土直下が褐色土地山層となっており、遺構は検出されなかつた。遺跡西側のトレーナーで遺構が検出されたのはT12の西端とT13の西端であり、それぞれ溝跡1条と柱穴状遺構3基が検出された。削平されているものの、この付近のみ遺構が残存しているものと見られる。埋土は二種類が観察され、T1と同様のものとやや新しい印象を受けるものがあり、複数の時期の遺構が所在するものと考えられる。遺構に対して遺物は相対的に少なく、前述の縄文時代前期と考えられる土器も微小なものである。

遺跡中央部分の神社より東側では調査範囲外であるが相当量の遺物の散布が確認され、遺跡の中心部分は調査区域の東側であるものと予想される。なお、調査区域については、設計の変更により盛土で遺構の保存をはかることとなった。



第96図 須崎遺跡の位置



第97図 須崎遺跡調査区位置図・出土遺物

39 低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業綾織地区

関連調査

砂子沢 I 遺跡 (MF43-1335)

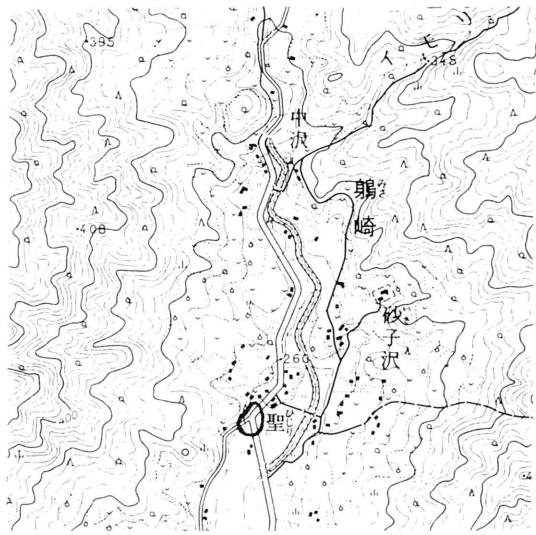
所在地：遠野市綾織町字砂子沢古堂

事業者：岩手県遠野地方振興局遠野土地改良事業所

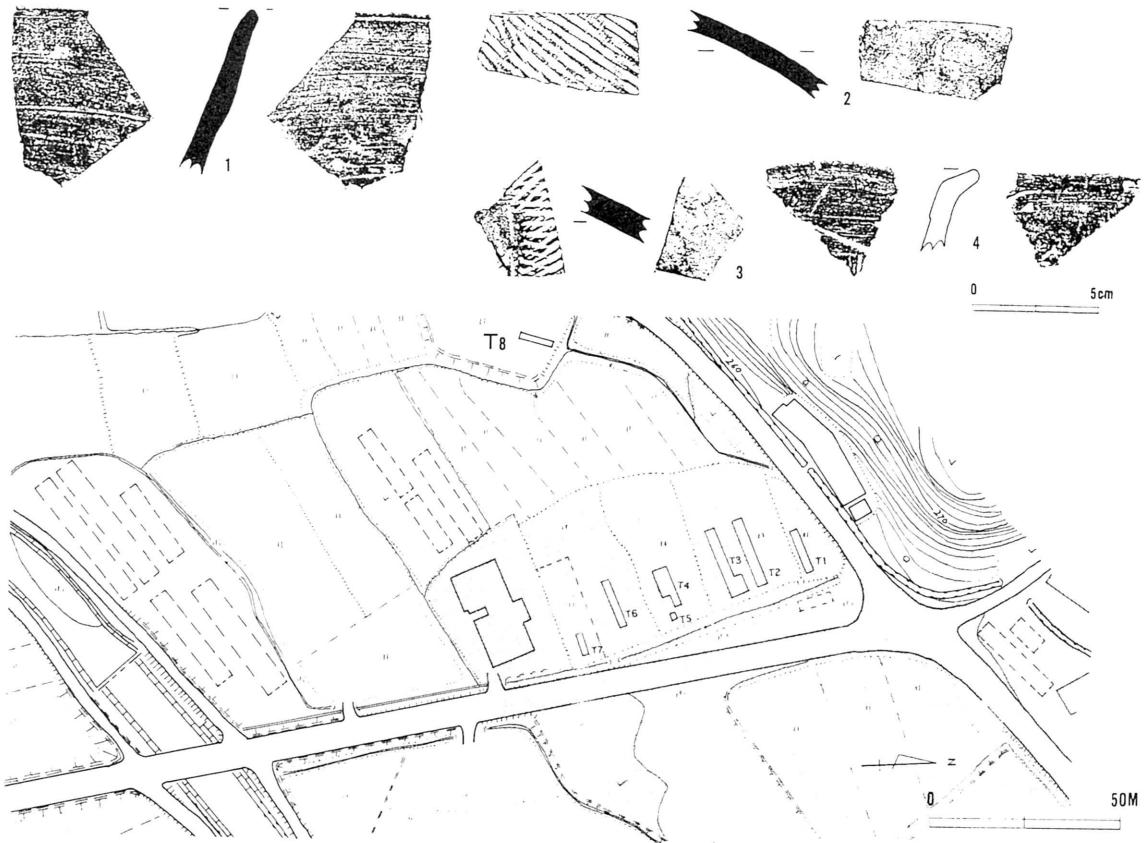
調査期日：平成9年9月20日～21日（2日間）

遺跡は猿ヶ石川の支流、砂子沢川の沖積地に臨む、尾根状の張出部分に位置する。本来は事業地北側の尾根上の平場が遺跡範囲と考えられていたが、試掘調査に先立ち平場下の畑地でも土師器の散布が認められたため、遺跡範囲の拡大と認められ、試掘調査が必要となった。調査範囲は段差のある水田になっており地形の改変が進んでいる。

試掘調査ではほ場整備事業予定地内で掘削が想定される部分にトレンチを設定し内容の確認を行った。遺構が集中したのはT1～T3にかけての高位部分で、T2では竪穴住居跡2棟、T3では同じく1棟が検出された。遺物は土師器・須恵器のほか鉄滓も検出されている。ほとんどの遺構が花崗岩風化層を掘り込んだ形で検出されたが、各水田の山側の段差付近では耕作土直下に花崗岩風化層が検出されており、遺構は一部破壊された状態で所在しているものと予想される。なお、やや距離をおいた西側の張出にもトレンチを設定したが、埋蔵文化財の所在は確認されていない。検出された埋蔵文化財については盛土による保存をはかることとなった。



第98図 砂子沢 I 遺跡の位置



第99図 砂子沢 I 遺跡調査区位置図・出土遺物

40 担い手育成基盤整備事業宮野目地区関連調査

庫理遺跡 (ME17-1075)

所在地：花巻市宮野目庫理地内

事業者：岩手県花巻地方振興局花巻土地改良事業所

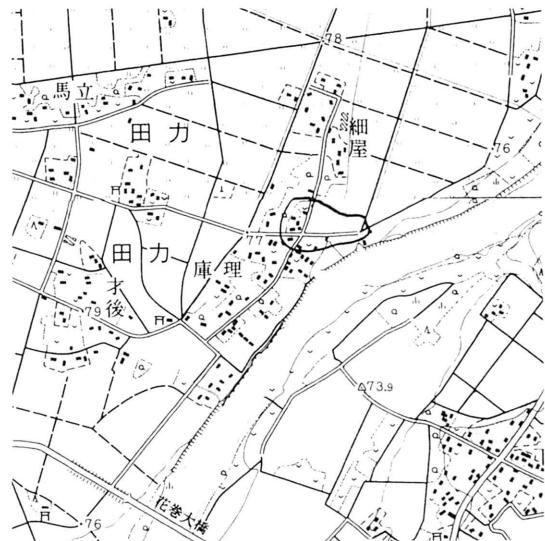
調査期日：平成9年6月19日

庫理遺跡は北上川西岸に形成された沖積地中の微高地にあり、遺跡の標高は77m前後である。遺跡のすぐ南東の隣を北上川が南に向かって流れている。今回の調査区の北側の隣接地では、財文化振興事業団埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われており、平安時代の堅穴住居跡・水鳥の描かれた土師器などが検出されている。

今回の試掘調査は県営のほ場整備に関連するパイプラインの敷設に伴うもので、その用地内に溝状に試掘トレーナーを設定している。調査区の現況は転作田で畑として利用されている。層序は上から1層の耕作土、2層の黒褐色土(80~100cm)、3層の褐色土となっている。

遺構・遺物については、遺構は検出されておらず、遺物は耕作土中から摩耗した土師器の小片や近・現代の陶磁器片が数点出土している。土師器片は調査区内に本来的にあったものではなく周囲から入り込んだものと考えられる。

パイプラインの予定地では遺構・遺物とも確認されなかったが、北側では埋文センターの本調査が行なわれ遺構が検出され、西側の畑でも土師器片が表面採集できるため、今回の調査区の東西にも遺構等が分布するものと考えられる。



第100図 庫理遺跡の位置



第101図 庫理遺跡調査区位置図

41 中山間地域総合整備事業大野地区関連調査

内沢環状列石 (MD 28-1268)

所在地：沢内村大字大野内ノ沢地内

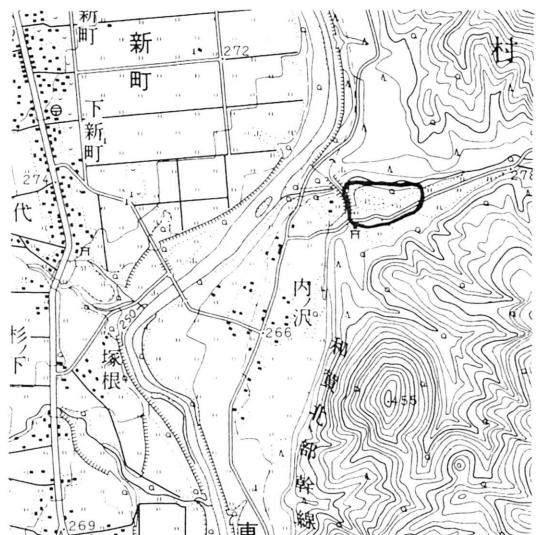
事業者：岩手県花巻地方振興局花巻土地改良事業所

調査期日：平成9年10月28日～30日（3日間）

本遺跡は和賀川左岸に位置し、沢に挟まれた舌状の台地に立地する。台地先端部分には環状列石が露出しており、旧来から周知されている遺跡である。

今回の調査ではほ場整備予定地域のほぼ全域にトレンチを設定し、埋蔵文化財の所在の確認をおこなった。環状列石付近のT 9では保存状況の良好な住居跡1棟とそれに付随する柱穴が検出された。出土遺物は、縄文時代中期～後期の土器が中心である。

T 7付近は縄文土器・剥片などの散布が認められたが、1mほどの削平を受けており、地山層が露出しており、遺構などの残存も確認されなかった。T 1～T 5のトレンチでは柱穴状遺構が確認された。いずれも微量ながら縄文土器片を伴うものである。T 6では直径100cmほどの土坑が剥片、土器片を伴い検出された。この部分は遺構の保存状況は良好であった。遺跡中央部分の道路南側は耕作土の下は礫層が卓越しており、T 15で陷穴状遺構が確認されたにとどまった。遺跡の中心は環状列石の所在する西端部分であると考えられ、距離とともに遺構の密度は薄くなっている。遺構の確認されたT 9～T 12付近および、T 1～5、T 15付近は盛土による遺構の保存、T 6は事業用地外として埋蔵文化財の保存をはかることとなった。



第102図 内沢環状列石の位置



第103図 内沢環状列石調査区位置図・出土遺物

42 中山間地域総合整備事業大野地区関連調査

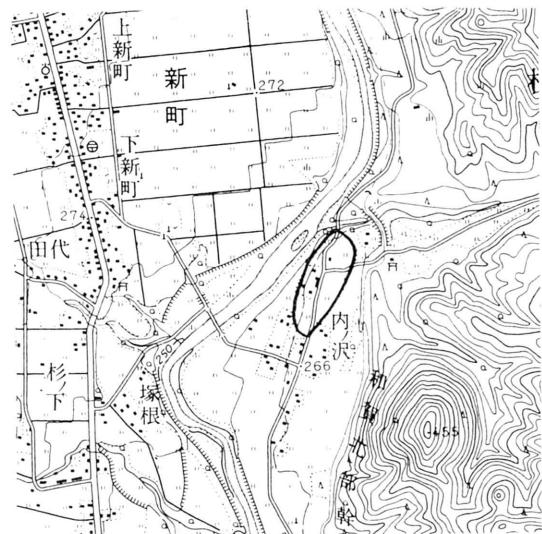
内沢遺跡 (MD 28—1274)

所在地：沢内村大野字内ノ沢地内

事業者：岩手県花巻地方振興局花巻土地改良事業所

調査期日：平成9年10月28日～30日（3日間）

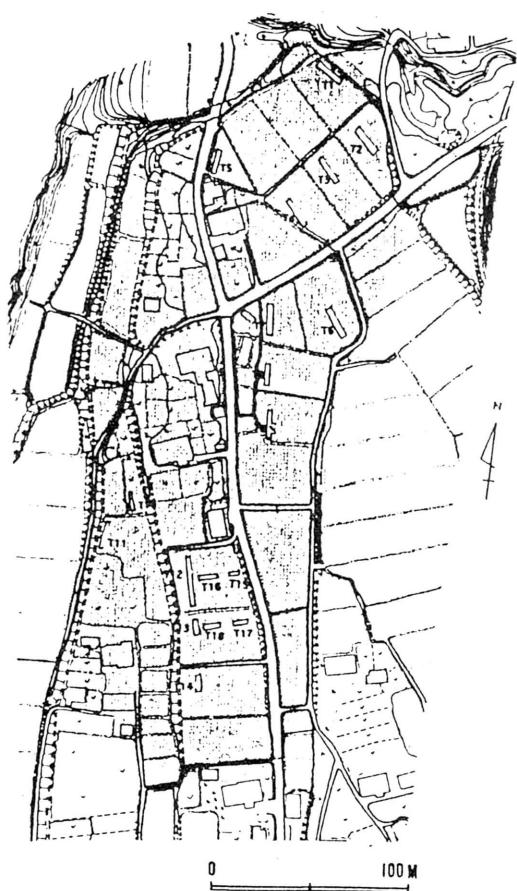
遺跡は和賀川の左岸に発達した河岸段丘上に所在する。段丘は4段認められるが、うち、遺跡は第3、第4段の段丘面に立地している。現況は開田により平坦面となっているが、聞き取りおよび今回の試掘調査で大幅に地形が改変されていることが判明した。試掘調査ではほぼ場整備予定地のうち遺構の残存が予想される水田西側を中心とトレーニチを設定した。その結果、段丘辺縁部分に遺構・遺物が集中し、さらに遺物や検出高から複数の時期にわたる遺跡であることが判明した。



第104図 内沢 I 遺跡の位置

T7およびT9ではそれぞれ陥穴状遺構が検出されたが、そのほかに遺構・遺物の検出は見られず、この付近は縄文時代の狩場であったものと考えられる。T12～T17では東側の道路付近では大きく削平を受けているものの、段丘辺縁部分では土坑・柱穴・溝跡等の遺構が検出された。埋土の状況や遺物から縄文時代のものと、近世の民家跡と考えられる。

下位段丘のT10、T11では縄文土器を伴う柱穴状遺構多数と焼土遺構1基、土坑1基が検出された。遺物はいずれも縄文時代中期に属すると考えられるものである。なお、事業予定地範囲外であるが遺跡北西端の畠地では多数の石鏃・剝片類の散布が確認された。今回の調査区域のうち遺構が検出された水田部分は盛土によりその保護をはかることとなった。また、T11付近を中心とした水路予定分については、一部は設計変更による現状保存となつたが、水路掘削によって埋蔵文化財の滅失がさけられない一部区間については、本調査により、記録保存を行うこととなつた。（平成10年度本調査予定）



第105図 内沢 I 遺跡調査区位置図・出土遺物

43 中山間地域総合整備事業大野地区関連調査

内沢II遺跡 (MD28-1274)

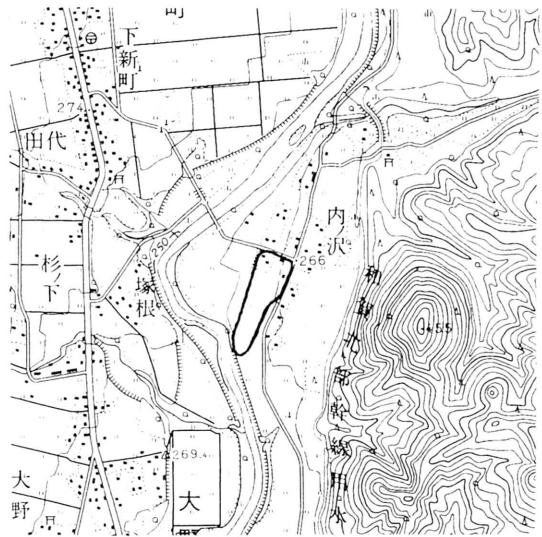
所在地：沢内村大野字内ノ沢地内

事業者：岩手県花巻地方振興局花巻土地改良事業所

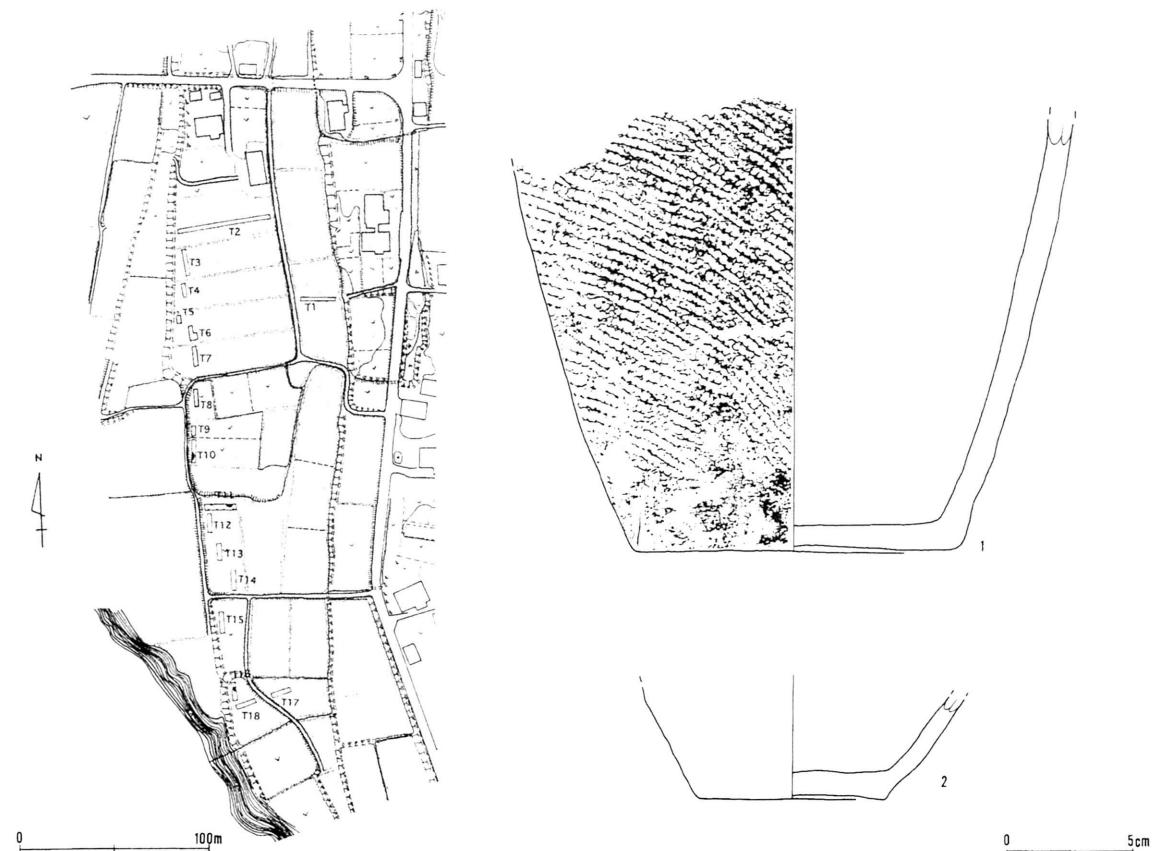
調査期日：平成9年10月28日～30日（3日間）

調査遺跡は和賀川左岸の段丘上に立地し、内沢I遺跡の南側に位置し、同様の立地条件を備える。遺跡南端で和賀川は大きく蛇行しており、段丘も終了する。ほ場整備予定区域は第三段丘面に相当するが、開田により大幅に地形の改変が進んでいる。調査の結果、段丘面東側は旧沢地と判明し、段丘辺縁部分を中心に試掘トレンチを設定した。T2では土坑1基と柱穴列が検出されたが、遺物から近世の民家跡と判明した。削平は段丘辺縁部分

にまで及んでおり、耕作土直下は褐色土地山層となった。T3では上部が失なわれた土器（第107図1）が直立に埋設されており、内部には焼土が充填されている。付近で他に遺構・遺物は確認されず、削平により失われたものと考えられる。また、T10付近は竪穴住居と考えられる遺構が比較的良好な保存状況で検出された。その他にはT11～T18でも部分的に柱穴状遺構が多数と焼土遺構が検出されている。旧来はこの段丘の辺縁部分に住居等が集中していたものと考えられるが、開田による造成でその一部が残存する遺跡であると判明した。遺構の確認された水田は盛土によりその保護をはかることとなった。



第106図 内沢II遺跡の位置



第107図 内沢II遺跡調査区位置図・出土遺物

44 矢巾試験地植栽事業関連調査

鳶ヶ平遺跡（L E 45-0242）

所在地：紫波郡矢巾町煙山字鳶ヶ平地内

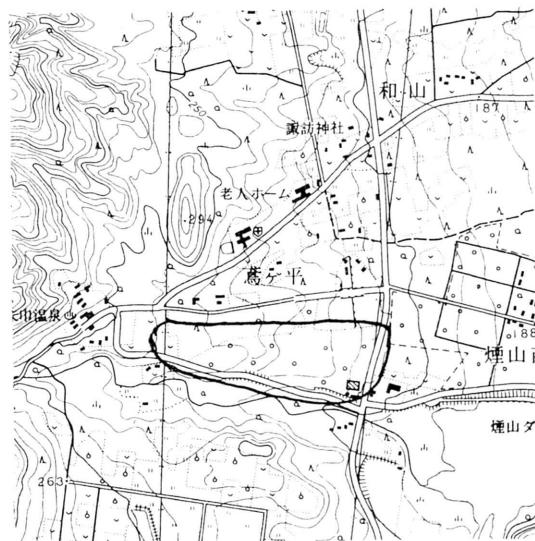
事業者：岩手県林業技術センター

調査期日：平成9年4月16日～18日、5月1日

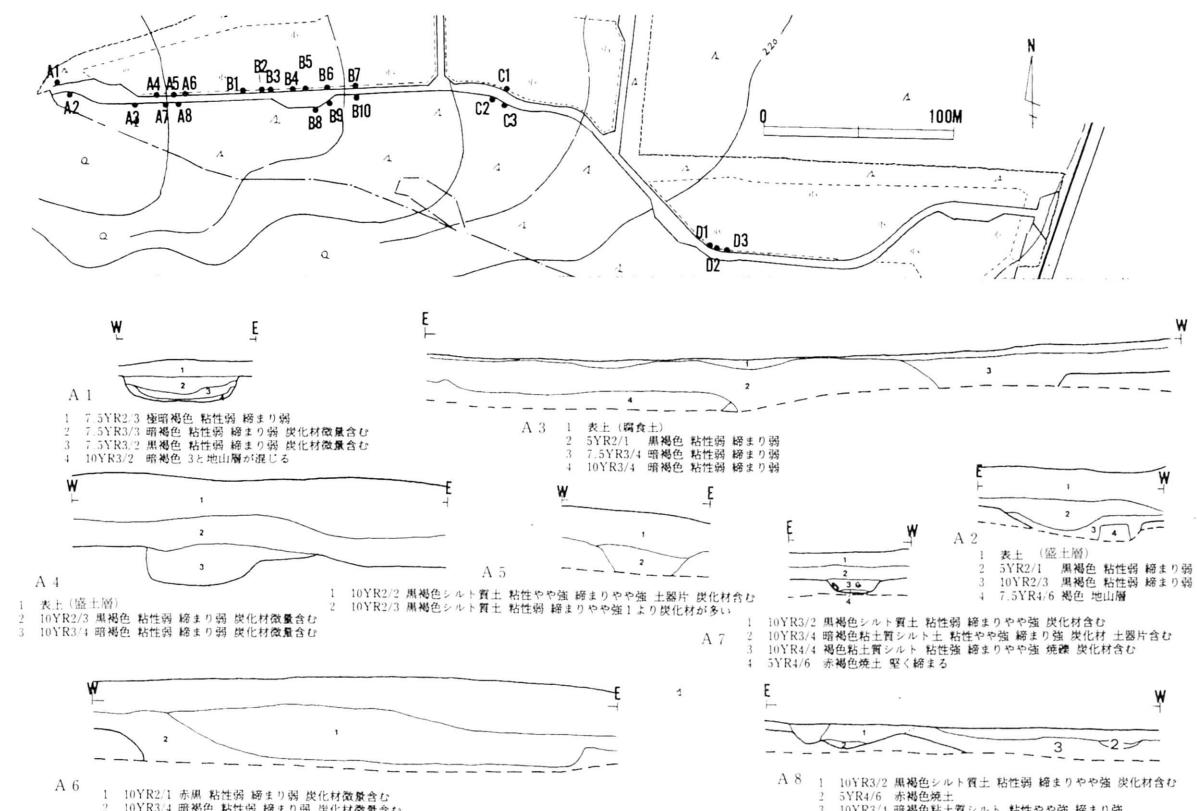
(4日間)

鳶ヶ平遺跡は岩崎川によって形成された小規模な扇状地上に立地し、南縁は河川の浸食によって急崖を形成している。事業用地のほぼ全面が遺跡範囲に相当するが、岩手県遺跡台帳上では遺跡範囲に若干のずれがあったため、調査は作業用道路施工後となった。

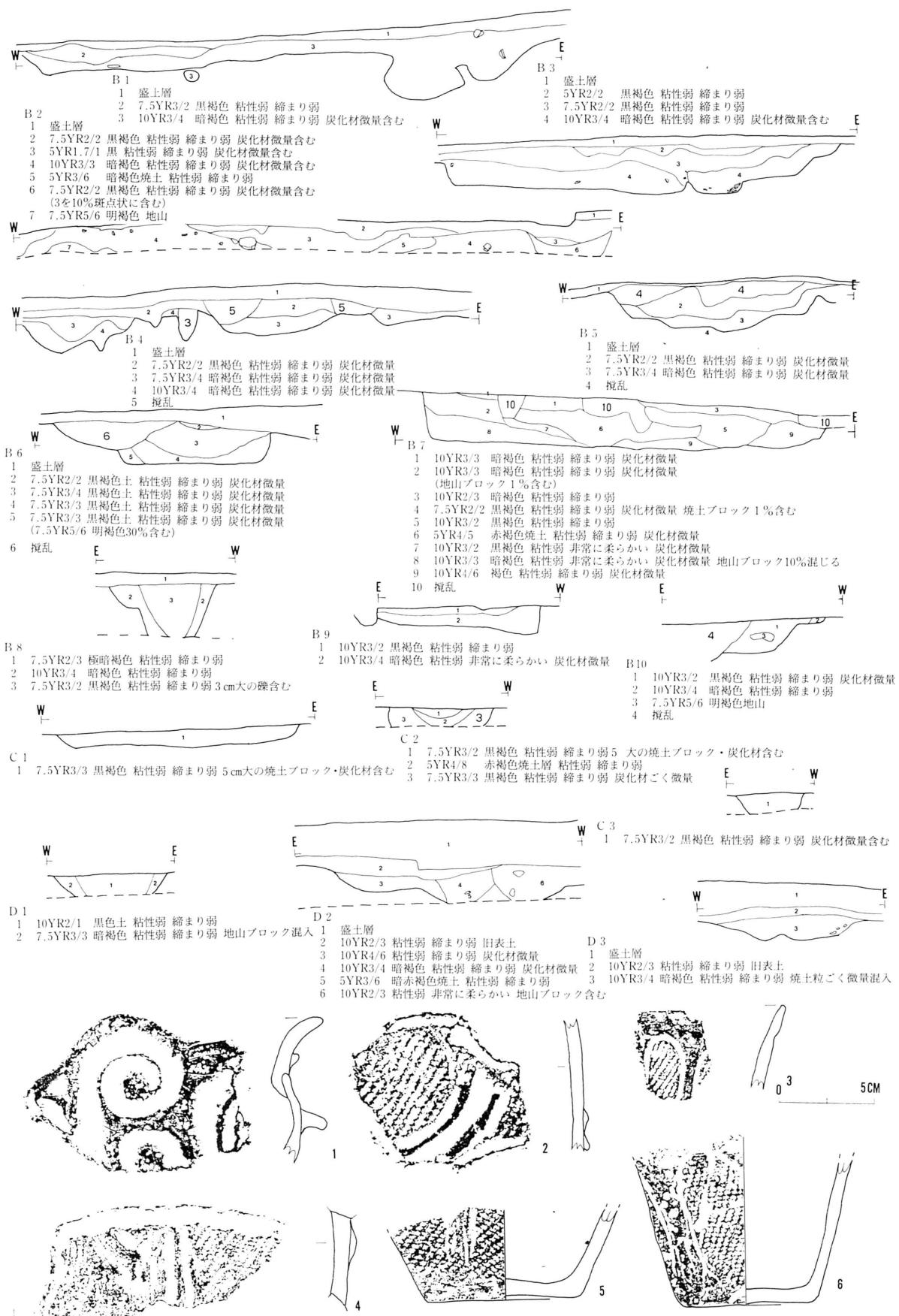
遺跡は緩やかな起伏を伴い、うち4箇所(A～D地区)の切り通しがあり、そのいずれにも法面に遺構が観察された。住居跡と考えられる遺構は、B3であり、第4層に土器片を含む。B7は大量の投込性の焼土を伴う大型の土坑であるものと考えられる。いずれの遺構も法面での観察であるため、やや不整形なプランを示す。事業用地の表土は造成のため移動されており、大量の遺物の散布がみられた。土器は縄文中期～後期初頭のものが占める。遺構に伴う遺物は、B3で第110図の5、B7では同じく6が検出された。そのほかの遺物は表面採集によるものである。第110図の1～4は大木式8b、第111図の1～8は同じく9、9～20は10、21～26は後期初頭のものと考えられる。27、28は円盤形土製品。縮尺は1/3で示している。29は石製品で縮尺は1/2で示している。



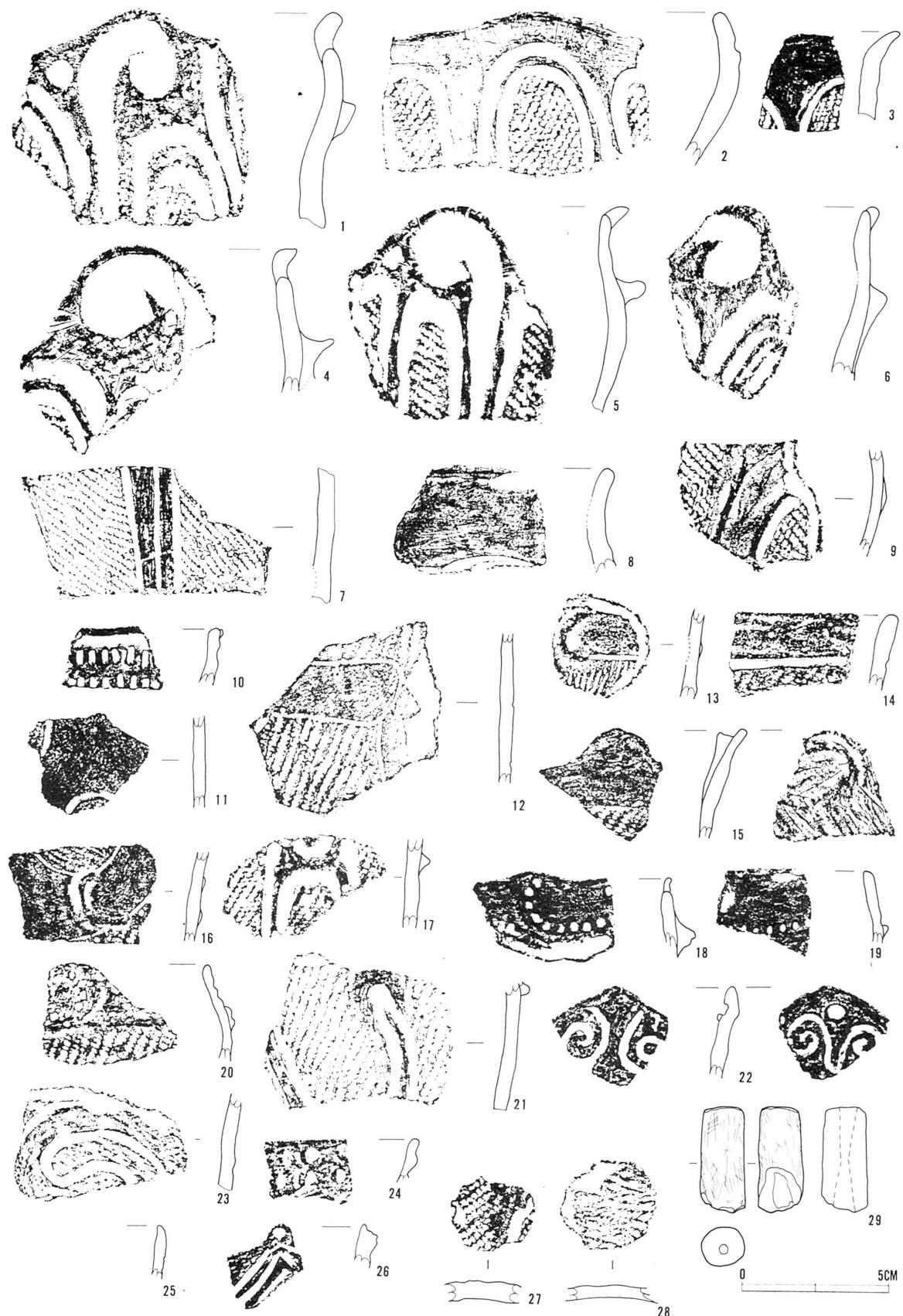
第108図 鳶ヶ平遺跡の位置



第109図 鳶ヶ平遺跡調査区位置図・遺構



第110図 薦ヶ平遺跡遺構・出土遺物



第111図 烏ヶ平遺跡出土遺物

45 県南青少年の家グランド整備関連調査

柏山館跡 (N E 05—1263)

所在地：胆沢郡金ヶ崎町館山地内

事業者：岩手県教育委員会事務局社会教育課

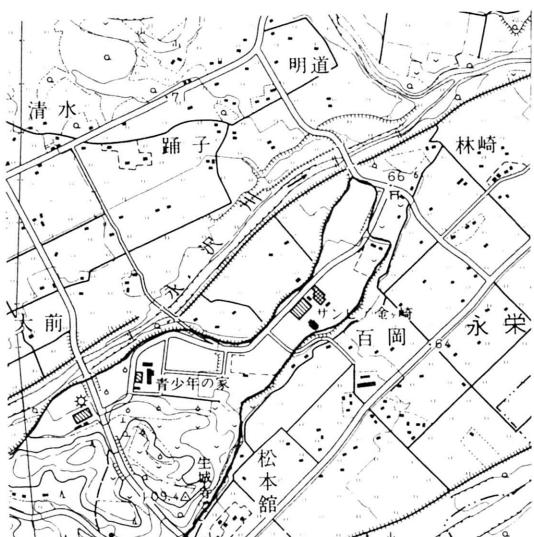
調査期日：平成9年8月21日

遺跡は、胆沢川と永栄川によって挟まれて東西に延びる永栄丘陵の東端部に位置する。今回の調査地点の標高は80m。

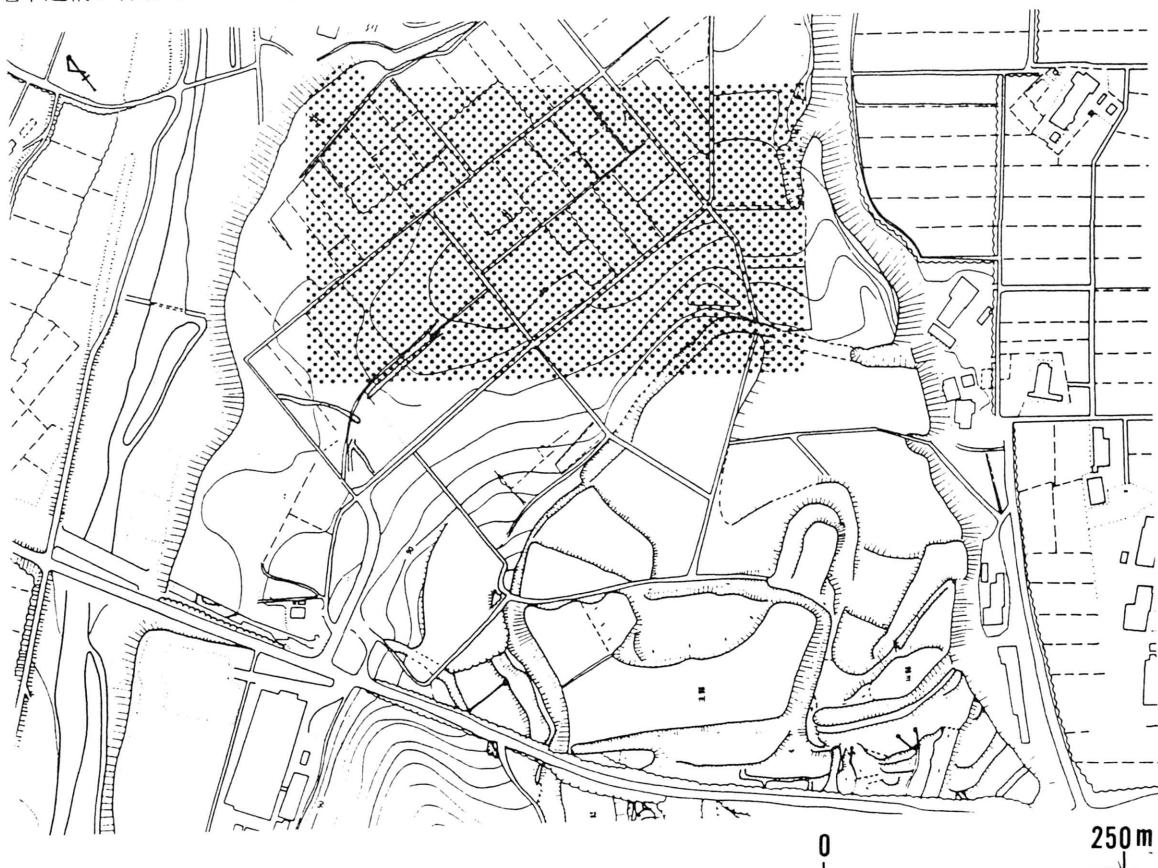
柏山館跡は中世柏山氏の居城である大林城の一部を構成する。大林城は東西1.3km、南北500m、面積が11haに及ぶ広大な範囲に広がる。一般に、本丸部分を柏山館、二の丸部分を松本館、三の丸部分を生城寺館と呼んでいる。

16世紀末の廃城後はさまざまな土地利用の変遷が見られるが、近年では東側端にサンピア金ヶ崎、ほぼ中央部に県南青少年の家、西側を南北に縦断する形で県道永沢水沢線が、それぞれ新設・改良され、その都度記録保存を目的とした発掘調査等が行われてきている。

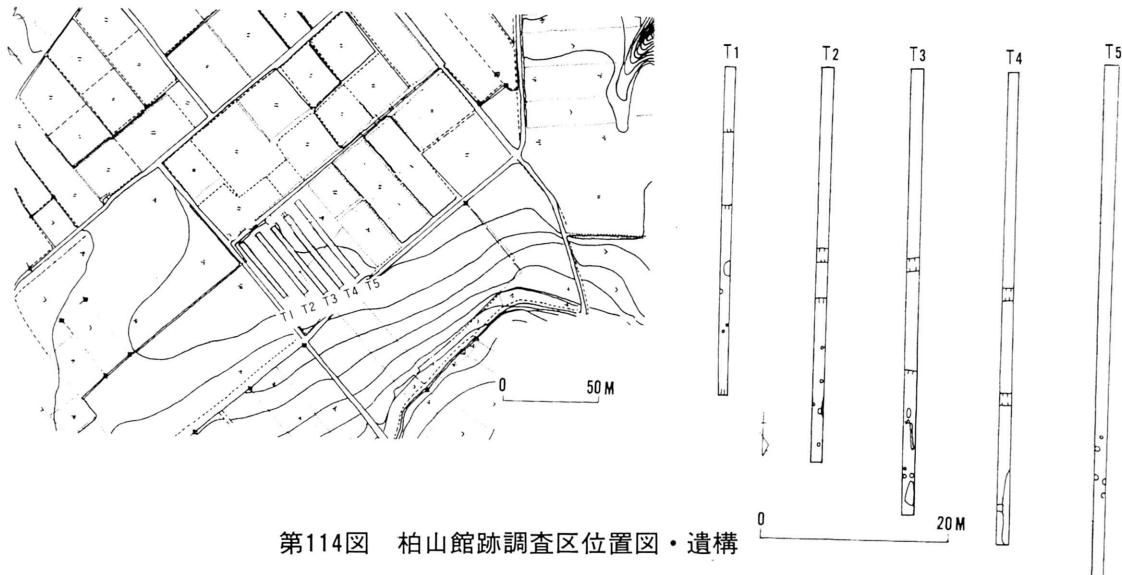
今回の調査は、主郭北側の平坦部に造成された県南青少年の家グランドについて、暗渠排水を設置する計画があることから実施したものである。県南青少年の家は昭和55年に造成工事が行われているが、その際に発掘調査を実施したのは建物部分及び駐車場部分で、その東側にあたるグランド部分については盛土により地下遺構が保存されていた。そのためグランドの排水状況が悪く、今回の事業が計画された。



第112図 柏山館跡の位置



第113図 柏山館跡周辺地形図



第114図 柏山館跡調査区位置図・遺構

調査は暗渠排水が予定されている部分についてトレンチを設定し、遺構面までの深さ及び遺構の存在状況を確認する方法で実施した。現在は造成により平坦な地形となっているが、従前この部分は主郭から延びる緩斜面が最も低くなる箇所で、西側からの沢地形となっていた。前回の調査ではこの沢に平行して小規模な堀跡が検出されている。さらに、グランドの東側及び北側はながらかに低く傾斜し、水田として利用されていた。したがって、T 1～5 部分にも、この堀跡の延長や、駐車場部分で多く検出されている柱穴跡が確認される可能性を想定した。

調査の結果、T 1～5 のいずれの地点でも、南側よりでは現在のグランド表土直下が粘土質の地山となり、遺構検出面が造成により若干削平された状況が観察された。北側に向かうにしたがって盛土が厚くなり、土壤は一部グライ化している。

T 1 では、南側表土直下で柱穴跡が複数検出された。北側に向かって地山が少しづつ低く傾斜し、南端から18m付近で円形のグライ化した土壤を埋土に持つ遺構が確認されたことから、井戸跡と考えられる。さらに北側は低くなり、現地表から100cmほどに下がる。

T 2 では、T 1 同様にトレンチ南側で柱穴跡などが検出された。トレンチ中央部分では15cmの段を持って立ち上がる部分があり、その北側に小溝跡が確認できた。

T 3 では、トレンチ南端部で方形の竪穴状の落ち込みが認められた。埋土の状況等から、駐車場部分で確認されている古代の住居跡とは性格を異にすると考えられる。T 2 の溝状遺構の延長は、このトレンチ中央でも確認され、さらにT 4 に延びている。

T 4 では、T 2、3 で認められた段を持つ立ち上がりが、溝状の遺構として現れている。その北側の溝跡とはほぼ平行に延びている。

T 5 では、トレンチ南端から15m付近で柱穴跡が集中して確認される部分がある。

以上の調査結果に基づき、事業者と埋蔵文化財の保護について工法の変更等の協議を進めた。その結果、事業者側の協力により、これらの範囲のうち、地表から暗渠予定位置までの深さが一定程度確保できない南側の部分において施工を見合わせることで、埋蔵文化財の保護を図ることとした。なお、T 5 よりさらに東側においては、旧地形及び現地形との対比から、現地表から遺構確認面までは80cm以上の深さがあると判断されたため、盛土の範囲内で工事を施工することとした。

46 県立胆沢病院合同公舎新築工事関連調査

龍ヶ馬場遺跡 (N E 26-1254)

所在地：水沢市龍ヶ馬場

事業者：岩手県医療局

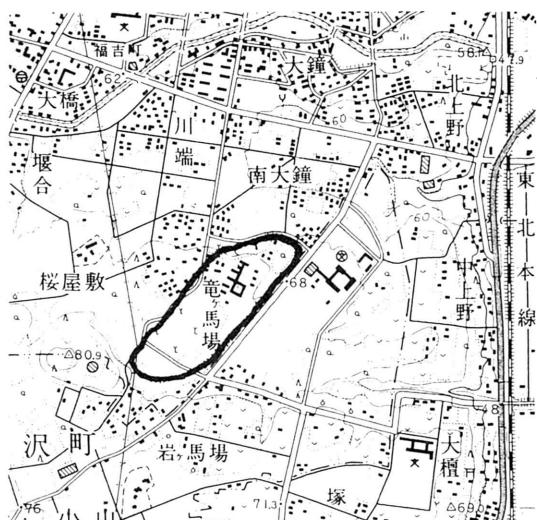
調査期日：平成9年12月10日

遺跡は胆沢扇状地末端部分の微高地に立地する遺跡であり、分布調査では縄文土器・土師器の散布が報告されている。今回の試掘調査では、公舎新築にかかるものであり、調査区域については、構築物の建設はなく、主に緑地化する予定の区域である。

調査では一部建物等があったため、トレンチ設定箇所は限定されたが、5カ所に試掘トレンチを設定し、遺構・遺物の所在を確認した。

いずれのトレンチも造成痕が著しく、T 5 は褐色地山層が露出しており、遺構の残存も確認されなかった。T 3 では16cmの厚さの黒褐色表土の直下に地山層が確認され、削平・搅乱が認められたが、直径27cmの柱穴状遺構が1基検出された。T 2 では整地層が40cm、黒褐色土が30cm観察され、第3層の黒色土から縄文土器が10数点検出された。さらに第4層の褐色土に掘り込みの及ぶ、40cm×50cmの楕円形の平面プランをもつ土坑が1基検出された。T 1 、 T 4 では遺構・遺物とも検出されなかったが、T 2 と同じ土層が観察された。調査区域のうち、西側は地形の改変が著しいが、遺跡東端の沢沿い部分に関しては土層の保存状況も良好であり、今回トレンチを設定できなかった範囲にも埋蔵文化財の所在する可能性がある。出土遺物は1、3は縄文時代後期の特徴をもち、2については縄文時代中期末から後期のものであると考えられる。

なお、今回の調査では埋蔵文化財の所在が確認されたが、設計通りの工事でその保存は可能であると認められる。



第115図 龍ヶ馬場遺跡の位置



第116図 龍ヶ馬場遺跡調査区位置図・出土遺物

47 短大地区宅地造成事業関連調査

島田II遺跡（LG43-0338）

所在地：宮古市大字八木沢第4地割、第5地割および
磯鶴第8地割地内

事業者：岩手県住宅供給公社

調査期日：平成9年4月21日～23日、5月12日～
14日（6日間）

遺跡は八木沢川の沖積地に延びる山地の尾根に立地する。平成8年度の分布調査において遺跡である可能性が指摘された区域であり、今回の試掘調査でその内容と範囲を確認するものとなった。事業予定地内の地勢は山地から数本の尾根が北東側に伸びており、尾根はきわめて急峻であり、尾根上も狭隘である。標高は事業地最高位

部分が80mほどで、沖積地からの比高も20m～70mときわめて特異な立地条件を備える。

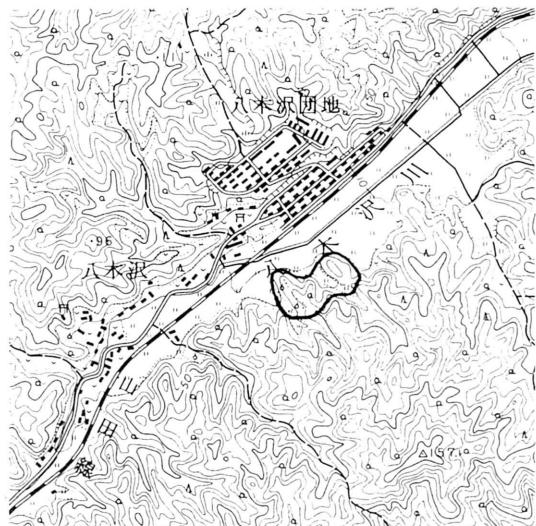
試掘調査は宮古市教育委員会の助言をもとに、主に尾根部分上部を中心にトレンチを設定した。

T1の尾根およびT2の低地では埋蔵文化財の所在は認められなかったが、T5では林道法面に炭窯跡と考えられる掘り込みが観察された。T8では人工的な平場および窪地が観察され、トレンチ調査の結果、住居跡2棟とそれに伴う焼土遺構・須恵器片が検出された。同様にT9でも住居跡と考えられる遺構が検出された。T10の尾根でも人工的な平場が観察され、T10で花崗岩風化層を掘り込んだ方形隅丸型の住居跡が土師器・砥石を伴って検出された。さらに付近から分岐する尾根のT11では焼土遺構と多量の炭化材も検出されている。さらに同尾根の上部のT12、T13でも土師器を伴う土坑3基検出された。同尾根で立木等のためトレンチを設定できなかった部分でも人為的な平場が認められるため、さらに多くの遺構の所在が予想される。

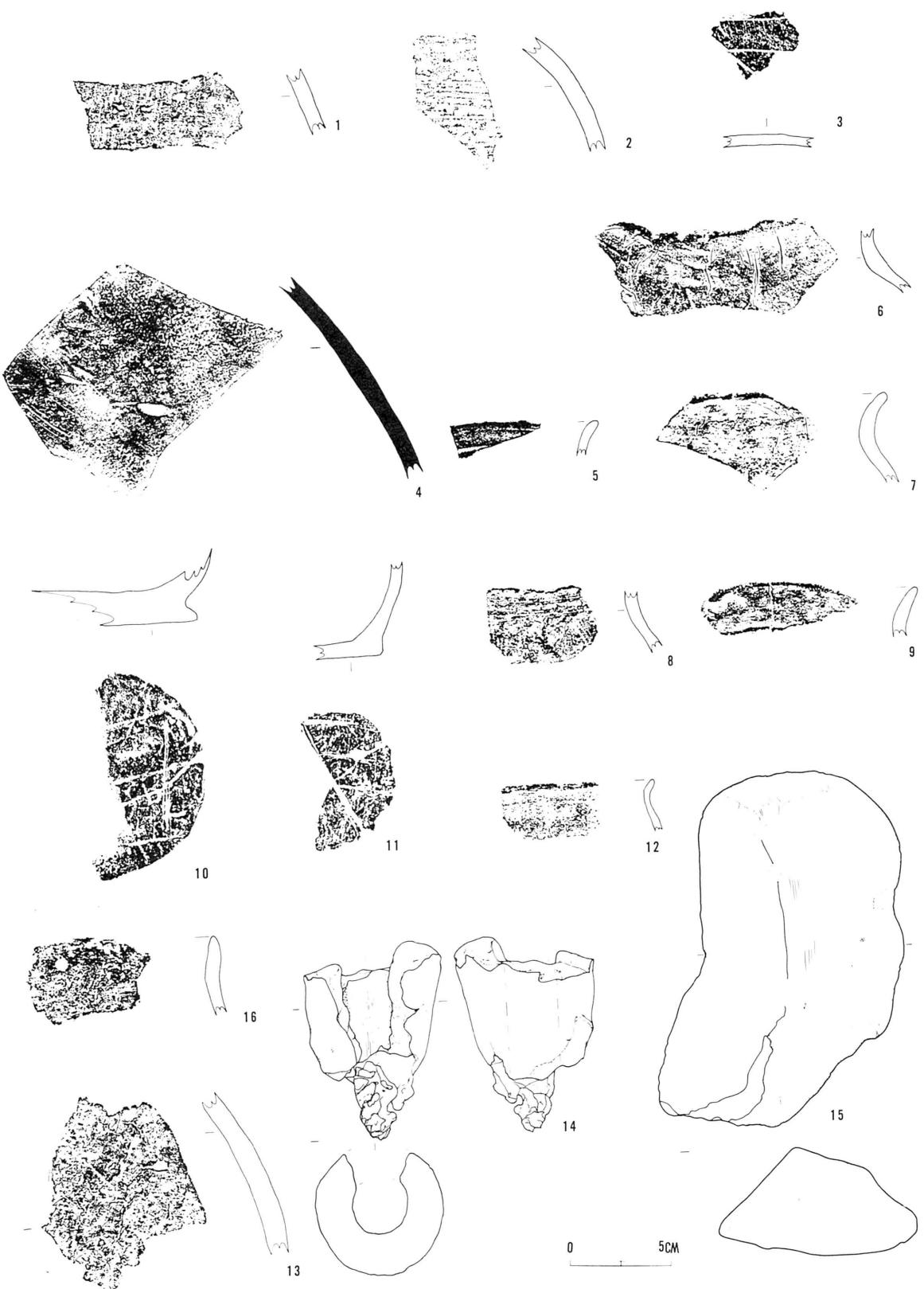
南側の尾根でも同様の立地を持つ遺構が多数検出されている。林道法面であるT36では土坑の断面が観察され、土師器や焼土遺構も確認された。また、鉄滓の出土も認められ、製鉄関連の遺構の所在も予想される。この尾根でも人工的な平場は多数認められ、T16で大型の土坑と鉄滓、土師器が、同じくT17でも土坑と鉄滓が検出された。T19～T2付近は林道造成のため、地形の改変が進んでいるが、多数の須恵器土師器の散布が確認されたほか、鉄滓、時期不明の陶器の出土も見られた。この尾根から分岐するT26～T32の尾根でもきわめて狭隘な尾根上で人工的な平場が観察された。特にT30では5mほどの幅の鞍部に方形隅丸型の住居跡が検出されている。事業地南端の尾根でも明確な遺構は確認されなかったが、土師器の出土が確認され、住居跡が所在する可能性がきわめて高い。

試掘調査期間の6日間で確認された遺構は堅穴住居跡8棟、土坑類12基、焼土遺構4基であるが、試掘ができなかった部分も含め、放射状に広がる尾根上のほぼ全域に住居跡が高密度で所在するものと考えられる。遺物は土師器を中心に、須恵器、鉄滓、砥石、羽口などが検出されており、総量は大コンテナ約1箱にのぼる。

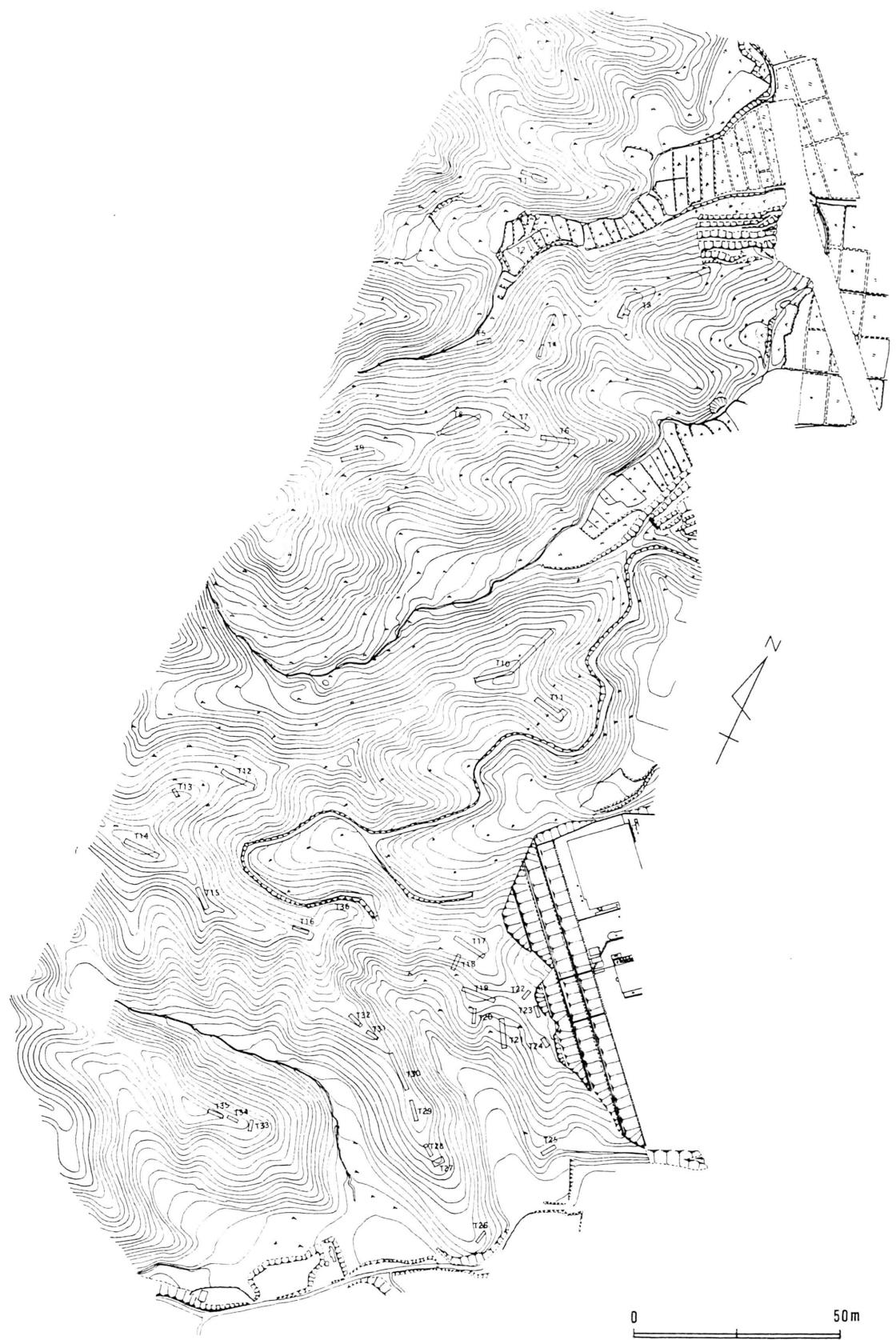
今回の調査の結果、本遺跡は特徴的な立地条件を持つ、平安時代の大規模な集落であることが判明した。また、そのほかにも鉄滓や大量の炭化材も確認されており、製鉄関連遺構の所在や炭窯など生産関連遺跡の可能性を持つものである。（平成10年度以降本調査予定）



第117図 島田II遺跡の位置



第118図 島田II遺跡出土遺物



第119図 島田II遺跡調査区位置図

48 越喜来地区宅地造成事業

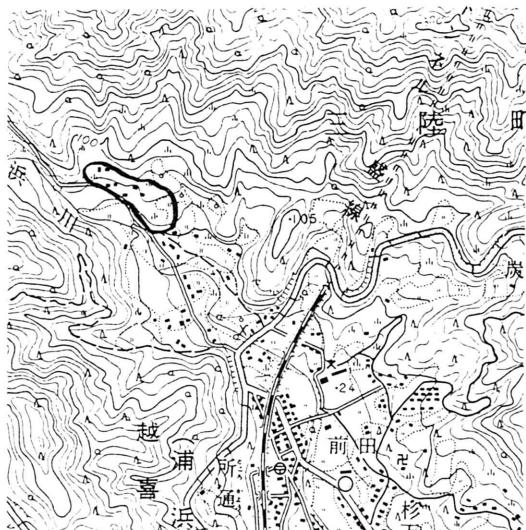
小出 I 遺跡 (NG 21-0052)

所在地：三陸町越喜来字小出地内

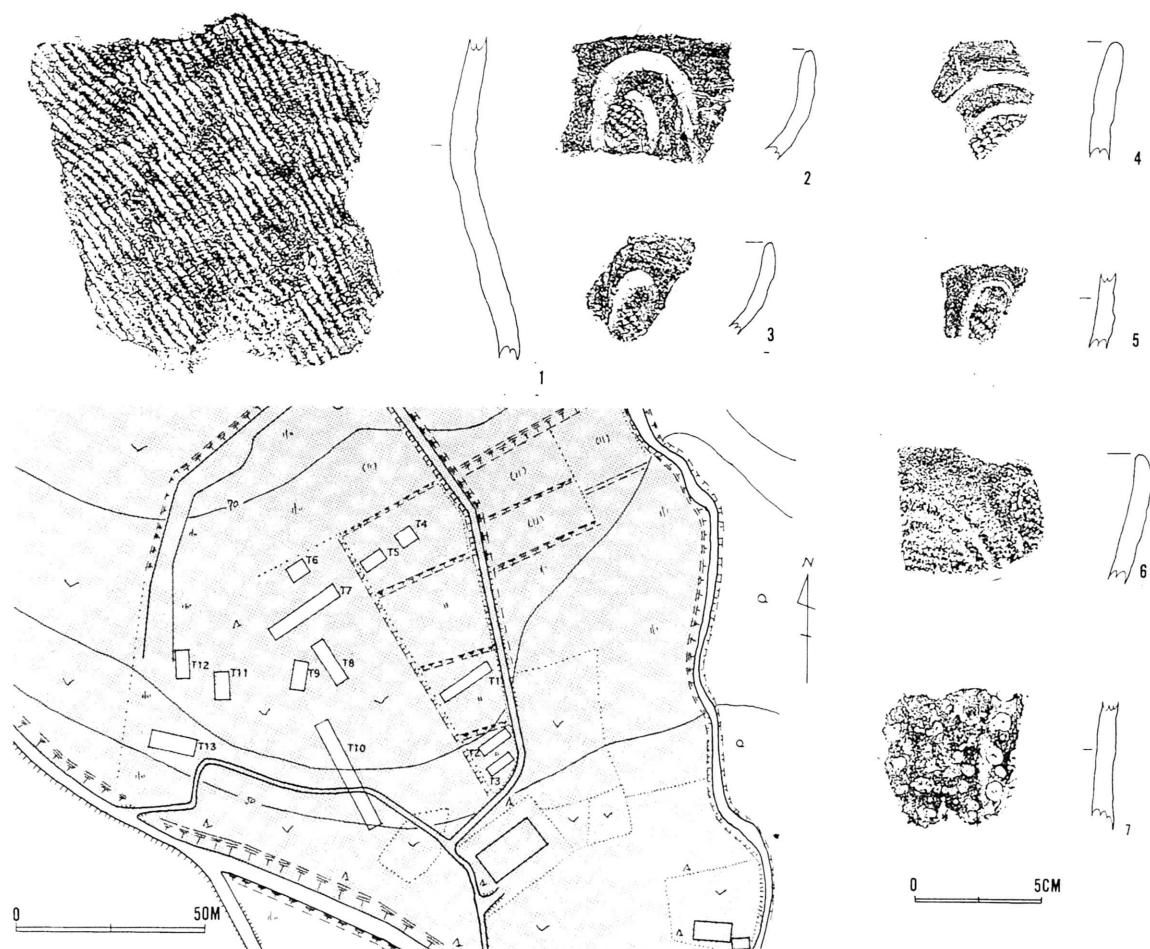
事業者：岩手県住宅供給公社

調査期日：平成 9 年 11 月 13 日

遺跡は浦浜川に向かって緩やかに傾斜する斜面上に立地する。今回の試掘調査では事業予定地のうち一部にトレンチを設定し、内容の確認を行った。水田部分については大幅な地形の改変が認められ、埋蔵文化財の所在は確認されなかったが T 6 以降のトレンチでは保存状況が良好であり、T 8 では竪穴住居跡 1 棟とそれに付随する柱穴状遺構 1 基が確認された。また、T 10 では小判型の土坑 2 基が検出されている。事業地内の畠地部分では石鏃の散布も認められ、今回試掘調査ができなかった東側水田部分を含め、さらに多くの遺構の所在が予想される。出土遺物は主に T 8 からのもので、縄文時代中期末～後期に属するものと考えられ、7 は円形刺突文を持つ。事業が予定通り施工される場合は本調査が必要となる。



第120図 小出 I 遺跡の位置



第121図 小出 I 遺跡調査区位置図・出土遺物

49 担い手育成基盤整備事業奥玉地区関連調査

立石沢II遺跡 (N F81-0298)

所在地：千厩町奥玉字土樋地内

事業者：岩手県千厩地方振興局千厩土地改良事業所

調査期日：平成9年12月8日～9日（2日間）

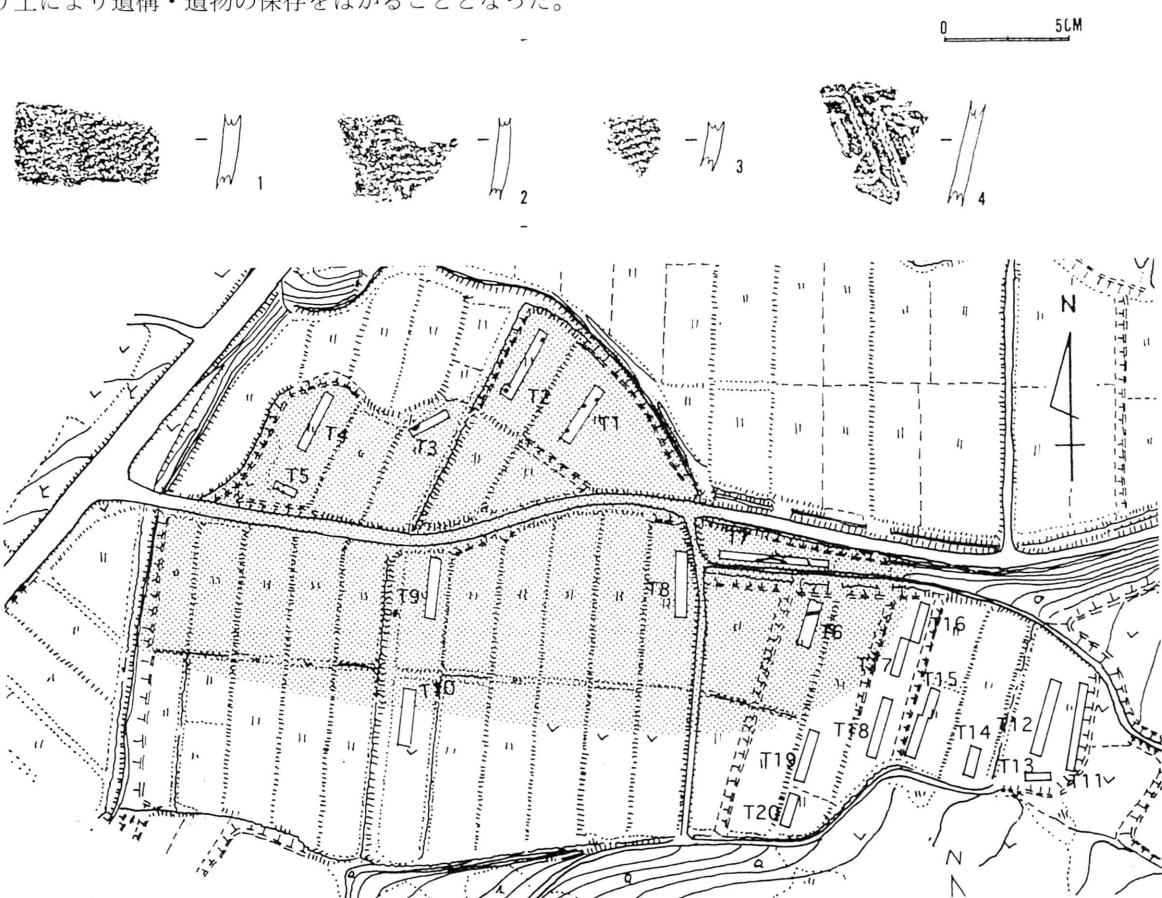
遺跡は千厩川に注ぐ二本の沢に挟まれた張出に立地する。別遺跡の試掘調査の際に遺物の散布が認められたため、急遽試掘調査を実施したものである。試掘調査では事業予定内に19本のトレンチを設定し、遺構の所在とその範囲について確認した。その結果T6、T8、9にかけて傾斜方向に延びる、上幅60cmから100cmの溝跡が確認された。いずれのトレンチでも溝跡の埋土に縄文土器を包含している。T7付近では2条の溝跡が検出された他、

付近の畑地では縄文土器・剝片の散布も認められた。旧地形が認められるT1～T5の張出部分では土坑・柱穴状遺構が縄文土器を伴い、多数検出された。開田による影響をうけており、保存状況は良好ではなく、遺構の検出高も一定ではなく、削平が進んでいる。出土遺物はやや磨耗が進んでいるが、縄文時代後期に属するものと考えられる。なお、土器4は縄文時代前期に属するものである。

埋蔵文化財の所在が確認されたため、事業については設計を変更し、水路部分の移動および水田部分の盛り土により遺構・遺物の保存をはかることとなった。



第122図 立石沢II遺跡の位置



第123図 立石沢II遺跡調査区位置図・出土遺物

その他の試掘調査

No	事業名	事業者	遺跡名	所在地	調査期日
1	中山間地域総合整備事業御淨地区	二戸土地改良事業所	太田館跡	浄法寺町	4/5
2	中山間地域総合整備事業御淨地区	二戸土地改良事業所	上前田II	浄法寺町	4/5
3	県営ほ場整備事業上大原地区	両磐土地改良事業所	熊の平I	大東町	4/15~17
4	主要地方道上米内湯沢線手代森地区道路改築	盛岡地方振興局土木部	手代森妻の神	盛岡市	4/18
5	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	川代	久慈市	4/24
6	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	川代II	久慈市	4/24
7	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	JF18-1027	久慈市	4/24
8	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	JF18-1104	久慈市	4/24
9	一般国道340号横道地区道路改良	岩泉土木事務所	水上	岩泉町	5/9
10	一般国道340号横道地区道路改良	岩泉土木事務所	中瀬II	岩泉町	5/9
11	一般国道283号仙人峠地区道路改築事業	遠野地方振興局土木部	滝ノ沢	遠野市	5/19
12	一般国道4号水沢東バイパス事業	建設省岩手工事事務所	惣前町	水沢市	5/23
13	大船渡三陸道路建設事業	建設省三陸国道工事事務所	野尻II	大船渡市	6/2
14	一般国道4号波民バイパス事業	建設省岩手工事事務所	越戸	玉山村	6/2
15	一般国道455号山岸地区道路改良工事	盛岡地方振興局土木部	道ノ下A	盛岡市	6/4~5
16	開拓地整備事業小松山地区	宮古地方振興局農政部	小松I	岩泉町	6/4~5
17	開拓地整備事業小松山地区	宮古地方振興局農政部	小松II	岩泉町	6/4~5
18	開拓地整備事業小松山地区	宮古地方振興局農政部	小松III	岩泉町	6/4~5
19	開拓地整備事業小松山地区	宮古地方振興局農政部	小松IV	岩泉町	6/4~5
20	緊急地方道整備事業主要地方道一関北上線	北上地方振興局土木部	館I	北上市	6/17
21	広域農道整備事業二戸地区	二戸土地改良事業所	大向上平	二戸市	6/20
22	一般国道4号北上括巾事業	建設省岩手工事事務所	大堤	北上市	6/26
23	一般国道4号北上括巾事業	建設省岩手工事事務所	高前田	北上市	6/26
24	東北横断自動車道建設事業	日本道路公団	ME28-2155	東和町	7/3
25	中山間地域総合整備事業奥玉地区農道中日向線	両磐土地改良事業所	物見石I	千厩町	7/31
26	中山間地域総合整備事業奥玉地区農道中日向線	両磐土地改良事業所	NF82-1060	千厩町	7/31
27	御所湖広域公園町場地区オートキャンプ場整備	盛岡地方振興局土木部	町場IV	零石町	8/18~19
28	御所湖広域公園町場地区オートキャンプ場整備	盛岡地方振興局土木部	町場III	零石町	8/18~19
29	集落環境整備事業農道二ツ森線改良工事	松尾村	長者屋敷I	松尾村	8/20~22
30	中山間地域総合整備事業御淨地区	二戸土地改良事業所	季ヶ平I	二戸市	8/27
31	広域農道整備事業胆沢南部地区	胆江土地改良事業所	NE54-2132	衣川村	9/2~3
32	広域農道整備事業胆沢南部地区	胆江土地改良事業所	NE54-2059	衣川村	9/2~3
33	広域農道整備事業胆沢南部地区	胆江土地改良事業所	NE54-0227	衣川村	9/2~3
34	広域農道整備事業胆沢南部地区	胆江土地改良事業所	上寺田	衣川村	9/2~3
35	中山間地域総合整備事業御淨地区	二戸土地改良事業所	空久保	浄法寺町	9/4~5
36	担い手育成基盤整備事業上台大下通	盛岡南部土地改良事業所	野田II	石鳥谷町	9/11~12
37	担い手育成基盤整備事業上台大下通	盛岡南部土地改良事業所	LE96-2004	石鳥谷町	9/11~12
38	担い手育成基盤整備事業上台大下通	盛岡南部土地改良事業所	LE96-2007	石鳥谷町	9/11~12
39	担い手育成基盤整備事業上台大下通	盛岡南部土地改良事業所	LE95-1352	石鳥谷町	9/11~12
40	畑地帯総合土地改良事業九戸地区	二戸土地改良事業所	南田II	九戸村	9/17
41	畑地帯総合土地改良事業九戸地区	二戸土地改良事業所	JF22-0126	九戸村	9/17
42	一般国道456号大平地区道路特殊改良第一種工事	水沢地方振興局土木部	大畑	江刺市	9/18

No	事業名	事業者	遺跡名	所在地	調査期日
43	セミナーハウス建設事業	教育委員会財務課	荒巻南	金ヶ崎町	9/19
44	部活動施設整備事業	教育委員会財務課	中島	胆沢町	9/19
45	広域農道盛岡西部地区	岩手北部土地改良事業所	芋田II	玉山村	9/24
46	一般国道456号大平地区道路特殊改良第一種工事	水沢地方振興局土木部	大畠	江刺市	9/29
47	県単道路改良工事一般県道上斗米金田一線	二戸地方振興局土木部	雨滝	二戸市	10/2
48	一関遊水地管理用通路工事	建設省岩手工事事務所	竜ヶ坂	平泉町	10/13~14
49	一関遊水地管理用通路工事	建設省岩手工事事務所	佐藤屋敷	平泉町	10/13~14
50	一関遊水地管理用通路工事	建設省岩手工事事務所	新田	平泉町	10/13~14
51	一関遊水地管理用通路工事	建設省岩手工事事務所	西平II	一関市	10/13~14
52	一関遊水地管理用通路工事	建設省岩手工事事務所	平	一関市	10/13~14
53	セミナーハウス建設事業	教育委員会財務課	道下東	水沢市	10/13
54	主要地方道栗駒衣川線上川内地区道路改良	水沢地方振興局土木部	NE63-2359	衣川村	10/16~17
55	主要地方道栗駒衣川線上川内地区道路改良	水沢地方振興局土木部	NE64-2042	衣川村	10/16~17
56	主要地方道栗駒衣川線上川内地区道路改良	水沢地方振興局土木部	NE64-2024	衣川村	10/16~17
57	県営畜産経営環境整備事業盆花平1号線	盛岡地方振興局農政部	KE82-0312	零石町	10/16
58	畑作地帯総合土地改良事業盛岡西部地区	盛岡南部土地改良事業所	石切茶屋西北方	矢巾町	10/17
59	中山間地域総合整備事業鰐沢地区	遠野土地改良事業所	MF52-2272	宮守村	10/20~21
60	中山間地域総合整備事業鰐沢地区	遠野土地改良事業所	上台	宮守村	10/20~21
61	中山間地域総合整備事業鰐沢地区	遠野土地改良事業所	MF52-2179	宮守村	10/20~21
62	小規模河川改修事業1級河川伊手川	水沢地方振興局土木部	下醍醐	江刺市	10/23~24
63	小規模河川改修事業1級河川伊手川	水沢地方振興局土木部	高野前	江刺市	10/23~24
64	水沢農業高校校庭整備事業	教育委員会財務課	中島	胆沢町	10/23~24
65	主要地方道上米内湯沢線手代森地区道路改築工事	盛岡地方振興局土木部	高寺I	盛岡市	10/23
66	主要地方道上米内湯沢線手代森地区道路改築工事	盛岡地方振興局土木部	沢目	盛岡市	10/23
67	ふるさと農道緊急整備事業六原地区	胆江土地改良事業所	前稗沢	金ヶ崎町	10/24
68	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳第一地区	盛岡南部土地改良事業所	岡村	矢巾町	10/27
69	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	国坂II	久慈市	10/28~30
70	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	国坂IV	久慈市	10/28~30
71	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	大芦I	久慈市	10/28~30
72	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	大芦III	久慈市	10/28~30
73	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	富原II	久慈市	10/28~30
74	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	川代I	久慈市	10/28~30
75	中山間地域総合整備事業陸中なつい地区	久慈土地改良事業所	川代II	久慈市	10/28~30
76	農免農道整備事業新町第一地区	花巻土地改良事業所	MD28-1190	沢内村	10/29
77	農免農道整備事業新町第一地区	花巻土地改良事業所	MD28-1159	沢内村	10/29
78	中山間地域総合整備事業大野地区	花巻土地改良事業所	MD28-2198	沢内村	10/29
79	主要地方道宮古岩泉線山口地区道路改良	宮古地方振興局土木部	赤畠	宮古市	10/31
80	東北新幹線建設工事	日本鉄道建設公団	独活倉	玉山村	11/4
81	東北新幹線建設工事	日本鉄道建設公団	円満寺跡	岩手町	11/5
82	一級河川岩崎川広域河川改修A事業	盛岡地方振興局土木部	稻村I	紫波町	11/5
83	県営畜産経営環境整備事業両沼清水線	盛岡地方振興局農政部	両沼II	西根町	11/5
84	県営畜産経営環境整備事業両沼清水線	盛岡地方振興局農政部	KE35-0339	西根町	11/5
85	中山間地域総合整備事業新田郷地区	花巻土地改良事業所	巢郷I	湯田町	11/5~6

No.	事業名	事業者	遺跡名	所在地	調査期日
86	中山間地域総合整備事業新田郷地区	花巻土地改良事業所	野々宿I	湯田町	11/5~6
87	中山間地域総合整備事業新田郷地区	花巻土地改良事業所	細内II	湯田町	11/5~6
88	中山間地域総合整備事業御淨地区	二戸土地改良事業所	空久保	浄法寺町	11/7
89	中山間地域総合整備事業御淨地区	二戸土地改良事業所	袖ノ沢V	浄法寺町	11/7
90	県営築川ダム建設事業	築川ダム建設事務所	大沢II	盛岡市	11/7
91	県営一般農道整備事業毒沢地区	花巻土地改良事業所	ME39-2271	東和町	11/10
92	県営一般農道整備事業亀ヶ森2期地区	花巻土地改良事業所	エゾ穴	大迫町	11/10
93	地方特定道路整備事業一般県道衣川水沢線	水沢地方振興局土木部	福原	水沢市	11/11
94	一般国道4号水沢東バイパス事業	建設省岩手工事事務所	東袖ノ目	水沢市	11/13
95	一般国道4号水沢東バイパス事業	建設省岩手工事事務所	中前田	水沢市	11/13
96	一般国道283号仙人峠地区道路改築事業	遠野地方振興局土木部	MF76-2155	住田町	11/14
97	農免農道整備事業島越地区	二戸土地改良事業所	野月道ノ下	一戸町	11/17~18
98	農免農道整備事業島越地区	二戸土地改良事業所	過利石	一戸町	11/17~18
99	農免農道整備事業島越地区	二戸土地改良事業所	首戸II	一戸町	11/17~18
100	担い手育成基盤整備事業原体地区	江刺農林事務所	NE08-1146	江刺市	11/17
101	担い手育成基盤整備事業原体地区	江刺農林事務所	東館	江刺市	11/17
102	担い手育成基盤整備事業原体地区	江刺農林事務所	高野前	江刺市	11/17
103	一般国道397号江刺市伊手地区道路改良事業	水沢地方振興局土木部	NE90-1268	江刺市	11/21
104	中山間地域総合整備事業高家地区	二戸土地改良事業所	外川目I	軽米町	11/25~26
105	担い手育成基盤整備事業鍋倉地区	花巻土地改良事業所	幅	花巻市	11/27~28
106	担い手育成基盤整備事業鍋倉地区	花巻土地改良事業所	ME15-2005	花巻市	11/27~28
107	担い手育成基盤整備事業鍋倉地区	花巻土地改良事業所	ME15-2052	花巻市	11/27~28
108	担い手育成基盤整備事業鍋倉地区	花巻土地改良事業所	ME15-2089	花巻市	11/27~28
109	担い手育成基盤整備事業鍋倉地区	花巻土地改良事業所	ME15-2022	花巻市	11/27~28
110	担い手育成基盤整備事業鍋倉地区	花巻土地改良事業所	ME25-0121	花巻市	11/27~28
111	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	NE37-1084	前沢町	12/1~10
112	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	NE37-1053	水沢市	12/1~10
113	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	NE37-1091	前沢町	12/1~10
114	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	NE37-2030	前沢町	12/1~10
115	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	六日入城	前沢町	12/1~10
116	地方特定道路整備事業取揚石地区道路改良工事	水沢地方振興局土木部	NE05-0121	金ヶ崎町	12/3
117	地方特定道路整備事業取揚石地区道路改良工事	水沢地方振興局土木部	ME95-2065	金ヶ崎町	12/3
118	東北横断自動車道建設事業	日本道路公団	ME28-2059	東和町	12/8~9
119	東北横断自動車道建設事業	日本道路公団	ME28-2131	東和町	12/8~9
120	東北横断自動車道建設事業	日本道路公団	ME28-2142	東和町	12/8~9
121	国営かんがい排水事業胆沢平野地区	胆沢猿ヶ石農業水利事業所	市野々	胆沢町	12/8
122	担い手育成基盤整備事業奥玉地区	両磐土地改良事業所	沢前	千厩町	12/9
123	ため池等整備事業上野地区	両磐土地改良事業所	杭丁館	一関市	12/10
124	ため池等整備事業上野地区	両磐土地改良事業所	NE95-0049	一関市	12/10
125	中山間地域総合整備事業鰐沢地区	遠野土地改良事業所	荒谷前	宮守村	12/11
126	中山間地域総合整備事業若柳西部地区	胆江土地改良事業所	宮沢原	胆沢町	12/11
127	中山間地域総合整備事業鰐沢地区	遠野土地改良事業所	MF53-1041	宮守村	12/11
128	地方特定道路整備事業古田峠	花巻地方振興局土木部	大林II	大迫町	12/22

No	事業名	事業者	遺跡名	所在地	調査期日
129	農免農道整備事業紫波地区	盛岡南部土地改良事業所	LE77-0234	紫波町	12/24
130	土地改良総合整備事業太田地区	花巻土地改良事業所	根子館	花巻市	12/27
131	土地改良総合整備事業太田地区	花巻土地改良事業所	折居	花巻市	12/27
132	土地改良総合整備事業太田地区	花巻土地改良事業所	泉屋敷	花巻市	12/27
133	土地改良総合整備事業太田地区	花巻土地改良事業所	長持	花巻市	12/27
134	土地改良総合整備事業太田地区	花巻土地改良事業所	内室	花巻市	12/27
135	土地改良総合整備事業太田地区	花巻土地改良事業所	水分神社	花巻市	12/27
136	土地改良総合整備事業大巻地区	盛岡南部土地改良事業所	大巻長沢尻II	紫波町	1/6
137	主要地方道二戸田子線緊急歩道整備工事	二戸地方振興局土木部	釜屋敷	二戸市	1/7~8
138	主要地方道釜石遠野線	釜石地方振興局土木部	MG40-0208	釜石市	1/8~9
139	主要地方道大槌川井線	釜石地方振興局土木部	戸沢	大槌町	1/8~9
140	北上川上流流域下水道事業玉山幹線築造	北上川上流流域下水道事務所	大緩	滝沢村	1/9
141	担い手育成基盤整備事業一関第3地区	両磐土地改良事業所	西平II	一関市	1/12~13
142	一関遊水地事業	建設省岩手工事事務所	西平II	一関市	1/12~13
143	一関遊水地事業	建設省岩手工事事務所	平	一関市	1/12~13
144	地方特定道路整備事業一関北上線	一関地方振興局土木部	西平II	一関市	1/12~13
145	緊急地方道整備事業一般県道長坂東稻前沢線	一関地方振興局土木部	瀬原II	平泉町	1/12~13
146	館下地区急傾斜地崩壊対策事業	大船渡地方振興局土木部	根ノ城	大船渡市	1/16
147	北上川上流流域下水道事業石鳥谷幹線築造	北上川上流流域下水道事務所	小館	石鳥谷町	1/21
148	北上川上流流域下水道事業石鳥谷幹線築造	北上川上流流域下水道事務所	LE96-0334	石鳥谷町	1/21
149	北太田の沢筋太田地区県単土石流対策事業	北上地方振興局土木部		沢内村	2/5
150	地方特定道路整備事業大川松草線	岩泉土木事務所	塵畠	岩泉町	2/16~19
151	中山間地域総合整備事業上大原地区	両磐土地改良事業所	中田	大東町	2/16~17
152	雪国生活支援道路環境整備事業	千厩地方振興局土木部	中野台	大東町	2/16~17
153	大川目地区宅地造成事業	岩手県住宅供給公社	仲小路	久慈市	2/17
154	県単道路改良工事一般国道397号	水沢地方振興局土木部	NE18-1170	水沢市	2/27
155	大型車両格納庫水洗化工事	盛岡地方振興局土木部	七ツ森I	零石町	3/4
156	主要地方道盛岡和賀線	盛岡地方振興局土木部	館前	矢巾町	3/5
157	雪国生活支援道路環境整備事業	千厩地方振興局土木部	中野台	大東町	3/9
158	畑作地帯総合土地改良事業藤崎地区	両磐土地改良事業所	柳沢館	藤沢町	3/10
159	県際交流促進事業一般県道前淨法寺線	二戸地方振興局土木部	田子内館	淨法寺町	3/11~12
160	県際交流促進事業主要地方道軽米名川線	二戸地方振興局土木部	刈敷山V	軽米町	3/11~12
161	県際交流促進事業主要地方道軽米名川線	二戸地方振興局土木部	刈敷山IV	軽米町	3/11~12
162	土地改良総合整備事業太田地区	花巻土地改良事業所	泉屋敷	花巻市	3/16
163	広域農道整備事業胆沢南部地区	胆江土地改良事業所	要害	衣川村	3/24
164	広域農道整備事業胆沢南部地区	胆江土地改良事業所	向	衣川村	3/24
165	主要地方道釜石遠野線橋野地区県単道路改良事業	釜石地方振興局土木部	MG40-0208	釜石市	3/30

III 分布調査

矢巾試験地植栽事業							事業者：岩手県林業技術センター	調査期日 平成9年4月15日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	LE45-0242	高ヶ平	縄文	縄文土器・石器・フレーク	集落跡	矢巾町高ヶ平		
2	LE45-0148		中世	空堀・平場	城館跡	矢巾町高ヶ平		伝承あり
扱い手育成基盤整備事業八重畠地区							事業者：花巻地方振興局農政部	調査期日 平成9年5月7日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	ME07-1011	下館	古代・中世	土師器	城館跡	石鳥谷町字関口		
2	ME06-1368		古代	土師器・須恵器	散布地	石鳥谷町字関口		新規発見
3	ME07-1125		古代	須恵器	散布地	石鳥谷町八重畠		新規発見
4	ME07-1058		古代	土師器	散布地	石鳥谷町八重畠		新規発見
5	ME07-1014		古代	土師器	散布地	石鳥谷町字関口		新規発見
6	ME06-1359	関口南館	中世	郭	城館跡	石鳥谷町字関口		
7	ME06-2345	大西	縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町八重畠		
8	ME06-2358		古代	土師器	散布地	石鳥谷町八重畠		新規発見
9	ME06-2365		縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町八重畠		新規発見
10	ME06-2378		縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町八重畠		新規発見
11	ME06-2387		縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町八重畠		新規発見
12	ME17-0007		縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町八重畠		新規発見
13	ME07-2121	新田	縄文	縄文土器・土塁？	散布地	石鳥谷町八重畠		
14	ME07-2078	稲荷	縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町八重畠		
15	ME07-2074	馬場田	縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町八重畠		
16	ME17-0009	大西橋	縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町八重畠		
17	ME17-0111	宿館（八重畠館）	中世	堀跡・土塁	城館跡	石鳥谷町八重畠		
18	ME17-0110	宿	縄文	縄文土器	集落跡	石鳥谷町八重畠		
19	ME17-0146	蛇蟻塚	縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町五大堂		
20	ME17-0178		縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町五大堂		新規発見
21	ME17-0260		縄文	剝片	散布地	石鳥谷町五大堂		新規発見
一般国道455号山岸地区道路改良							事業者：盛岡地方振興局土木部	調査期日 平成9年5月9日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	KE97-0249	道の下A	縄文	縄文土器	散布地	盛岡市山岸地内		範囲拡大
農免農道整備事業鳥越地区							事業者：二戸土地改良事業所	調査期日 平成9年5月12日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	JE19-1213	野道ノ下	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	一戸町鳥越字野道ノ下		
2	JE79-0273	中野平	縄文・古代	縄文土器・土師器	集落跡	一戸町鳥越字中野平		
3	JE19-0256	上ミ平	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	一戸町鳥越字上ミ平		
4	JE19-0226	中屋敷	縄文	縄文土器	散布地	一戸町鳥越字中屋敷		
5	JE19-0217	過利石	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	一戸町鳥越字過利石		
6	JE09-2276	首戸II	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	一戸町鳥越字首戸II		
広域農道整備事業二戸地区							事業者：二戸土地改良事業所	調査期日 平成9年5月12日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	JE18-1149	大向II	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	二戸市似鳥字大向		
2	JE18-1198		縄文	縄文土器	散布地	二戸市似鳥		新規発見
ふるさと農道緊急整備事業黒川乙部地区							事業者：盛岡南部土地改良事業所	調査期日 平成9年5月13日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	LE37-2388		縄文	縄文土器	散布地	盛岡市乙部		新規発見
2	LE47-0339	沢	縄文	縄文土器	散布地	盛岡市乙部		
3	LE48-0061		縄文	縄文土器・石器	散布地	盛岡市乙部		新規発見
4	LE48-1011	沢川目	縄文	縄文土器	散布地	盛岡市乙部		
扱い手育成基盤整備事業業煙山西部地区							事業者：盛岡南部土地改良事業所	調査期日 平成9年5月14日・29日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	LE46-0124	大道	縄文	縄文土器	散布地	矢巾町煙山		
2	LE46-0144	煙山I	古代		散布地	矢巾町煙山		
3	LE46-0079		縄文	石器	散布地	矢巾町煙山		
4	LE46-0195		縄文		散布地	矢巾町煙山		
5	LE46-1009		縄文		散布地	矢巾町煙山		
6	LE46-1121	田屋	縄文	土塁	散布地	矢巾町煙山		
一般県道土淵達曾部線上柳地区緊急歩道整備							事業者：遠野地方振興局土木部	調査期日 平成9年5月20日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	MF15-2067	根岸		土器	散布地	遠野市附馬牛町上附馬牛字根岸		
2	ME15-2038		縄文	縄文土器	散布地	遠野市附馬牛町上附馬牛字根岸		新規発見
一般農道整備事業毒沢地区							事業者：花巻土地改良事業所	調査期日 平成9年5月20日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	ME39-2271		縄文	縄文土器	散布地	東和町明丁		新規発見
国営かんがい排水事業猿ケ石用水地区							事業者：東北農政局	調査期日 平成9年5月20日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	ME57-1350	中屋敷古館鹿の子	縄文・古代・中世	縄文土器・土師器	散布地・城館跡	北上市口内字水押・字森		
2	ME89-1394	馬馳洞穴			洞穴遺跡	江刺市米里馬馳		
3	ME69-0345	大幡	縄文	縄文土器・石器	散布地	江刺市梁川字大幡		
農免農道整備事業新町第一地区							事業者：花巻土地改良事業所	調査期日 平成9年5月21日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	MD28-1190		縄文	縄文土器・石器	散布地	沢内村新町		
2	MD28-1159		縄文	縄文土器・石器・フレーク	散布地	沢内村新町		範囲拡大
扱い手育成基盤整備事業八幡東部地区							事業者：盛岡南部土地改良事業所	調査期日 平成9年5月22日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	LE96-1372		古代	土師器	散布地	石鳥谷町八幡		新規発見
2	LE96-1368		縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町八幡		新規発見
3	LE96-2318		縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	石鳥谷町八幡		新規発見
4	LE96-2343		古代	土師器	散布地	石鳥谷町八幡		新規発見
5	LE96-2392		縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町八幡		新規発見
主要地方架橋衣川線上川内地区道路改良工事							事業者：水沢地方振興局土木部	調査期日 平成9年5月23日
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在	地	備考
1	NE63-2359		縄文	剝片	散布地	衣川村大字上衣川字上川内		新規発見
2	NE64-2042		縄文	縄文土器・剝片	散布地	衣川村大字上衣川字上川内		新規発見
3	NE64-2024		縄文	縄文土器	散布地	衣川村大字上衣川字上川内		新規発見

河川等災害関連事業一級河川平糠川				事業者：二戸地方振興局土木部				調査期日 平成9年5月26日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 別	所 在 地	備 考			
1	JE78-1108	西田子 XIII	縄文		散布地	一戸町小笠西田子				
2	JE78-0184	西田子 XIV	縄文		散布地	一戸町小笠西田子				
扱い手育成基盤整備事業上台天下通地区				事業者：盛岡南部土地改良事業所				調査期日 平成9年5月27日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	LE95-1352		縄文	石器	散布地	石鳥谷町松林寺	新規発見			
2	LE95-1398	野田II	縄文・古代	土師器・須恵器	散布地	石鳥谷町大興寺	新規発見			
3	LE96-2004		古代	須恵器	散布地	石鳥谷町大興寺	新規発見			
4	LE96-2007		古代	土師器	散布地	石鳥谷町大興寺	新規発見			
扱い手育成基盤整備事業北方丁目地区				事業者：花巻地方振興局農政部				調査期日 平成9年5月28日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	ME25-0194		縄文	石器	散布地	花巻市北方丁目地内	新規発見			
2	ME25-1107		縄文	石器	散布地	花巻市北方丁目地内	新規発見			
3	ME25-1230		縄文	石器	散布地	花巻市北方丁目地内	新規発見			
4	ME25-1163		縄文	石器	散布地	花巻市北方丁目地内	新規発見			
5	ME25-1176		縄文	石器	散布地	花巻市北方丁目地内	新規発見			
扱い手育成基盤整備事業黄南地区				事業者：両磐土地改良事業所				調査期日 平成9年6月2日～3日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	OE29-2335	熊館（楓樹ヶ城）	中世	空堀・主郭・二の郭・腰郭・物見	城館跡	藤沢町黄海				
2	OE39-0236			空堀・主郭・二の郭・腰郭・土塁	城館跡	藤沢町黄海				
畑地帯総合土地改良事業九戸地区				事業者：二戸土地改良事業所				調査期日 平成9年6月18日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	JF22-0147	南田II	縄文	縄文土器	散布地	九戸村大字伊保内第26地割				
2	JF22-0136	南田 I	縄文	縄文土器	集落跡	九戸村大字伊保内第27地割				
3	JF22-0126		縄文	縄文土器	散布地	九戸村大字伊保内第28地割	新規発見			
中山間地域総合整備事業釜石地区				事業者：二戸土地改良事業所				調査期日 平成9年6月18日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	JE79-0155		縄文	縄文土器・石器	散布地	一戸町大字中山字切掛				
2	JE79-0175		縄文	縄文土器	散布地	一戸町大字中山字切掛	範囲拡大			
中山間地域総合整備事業高家地区				事業者：二戸土地改良事業所				調査期日 平成9年6月22日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	IF72-0383	高家中山IV	縄文	縄文土器	散布地	軽米町大字高家字中山				
2	IF72-1322	外川目 I	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	軽米町大字軽米字外川目				
県営土地改良総合事業太田地区				事業者：花巻土地改良事業所				調査期日 平成9年6月5日～26日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	ME34-0237	根子館	中世	堀跡・平場	城館跡	花巻市太田				
2	ME24-2188	折居	縄文・平安	縄文土器・土師器	散布地	花巻市太田	範囲拡大			
3	ME34-0262	泉屋敷	中近世	堀	屋敷跡	花巻市太田				
4	ME34-1119		縄文	縄文土器	散布地	花巻市太田				
5	ME34-2300	館 I	縄文・平安	縄文土器・土師器	散布地	花巻市太田				
6	ME34-2210	長持	古代	土師器・須恵器	散布地	花巻市太田				
7	ME34-2147	内室	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	花巻市太田				
8	ME34-1192	水分神社	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	花巻市太田	範囲拡大			
地方特定道路整備事業一関北上線舞川工区				事業者：一関地方振興局土木部				調査期日 平成9年6月6日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	NE77-2060	下平	縄文	縄文土器	散布地	平泉町長島字下平				
扱い手育成基盤整備事業古城北部地区				事業者：胆江土地改良事業所				調査期日 平成9年6月10日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	NE36-2288	館合下	平安	須恵器	散布地	前沢町古城字館合下				
2	NE36-2239		古代	土師器	散布地	前沢町古城字館合下				
3	NE36-2357		古代	土師器	散布地	前沢町古城字林後				
4	NE36-2379		古代	土師器・須恵器	散布地	前沢町古城字松ヶ林				
緊急地方道路整備事業薄衣舞川線中谷起工区				事業者：一関地方振興局土木部				調査期日 平成9年6月6日～10日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	NE87-1125	西平III	縄文	縄文土器・フレーク	散布地	一関市舞川字西平				
2	NE87-1145	西平II	縄文	縄文土器・フレーク	散布地	一関市舞川字西平				
3	NE87-1199	清水	縄文	縄文土器・石器・フレーク	集落跡	一関市舞川字清水	範囲拡大			
4	NE87-2244	湯坪	縄文		疑定地	一関市舞川字湯坪				
扱い手育成基盤整備事業姉妹地区				事業者：胆江土地改良事業所				調査期日 平成9年6月12日～19日		
No.	遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構 ・ 遺 物	種 别	所 在 地	備 考			
1	NE27-2061	北野 I	平安	土師器・須恵器	散布地	水沢市真城字北野				
2	NE27-2079	木ノ口前東	平安	土師器	散布地	水沢市真城字木ノ口				
3	NE27-2183	元天神前 I	縄文	石器	散布地	水沢市姉妹町字元天神前				
4	NE27-2194	元天神前 II	平安	土師器・須恵器	散布地	水沢市姉妹町字元天神前				
5	NE27-2196	北白山 I	平安	土師器・須恵器	散布地	水沢市姉妹町字北白山				
6	NE37-0117	北白山II	平安	土師器	散布地	水沢市姉妹町字元天神前				
7	NE27-2092	北野II	平安	土師器・須恵器	集落跡	水沢市真城字北野				
8	NE37-0012	畠田荒谷	平安	土師器・須恵器	散布地	水沢市真城字畠田				
9	NE37-0022	東谷地	平安	土師器	散布地	水沢市真城字谷地				
10	NE37-0113	根無	平安	土師器	散布地	水沢市姉妹町字根無	0143を併合			
11	NE37-0147		平安	須恵器	散布地	水沢市姉妹町字目細	新規発見			
12	NE37-0148	北白山III	平安	土師器	散布地	水沢市姉妹町字北白山				
13	NE37-0032	中平	平安	土師器	散布地	水沢市真城字中平				
14	NE37-0044	中平東	平安	土師器・須恵器	散布地	水沢市真城字中平				
15	NE37-0037		縄文	石器	散布地	水沢市真城字東谷地				
16	NE37-0072	寺ヶ前 II	平安	土師器・須恵器	散布地	水沢市真城字谷地田				
17	NE37-0074	寺ヶ前 III	平安	土師器・須恵器	散布地	水沢市真城字谷地田				
18	NE37-0093	寺ヶ前 I	平安		散布地	水沢市真城字谷地田				
19	NE37-0079	島田 II	平安	土師器・須恵器	散布地	水沢市真城字島田				
20	NE37-0088		平安	土師器	散布地	水沢市真城字島田	新規発見			
21	NE37-0181		平安	土師器	散布地	水沢市真城字島田	新規発見			
22	NE37-0099		平安	土師器	散布地	水沢市真城字島田	新規発見			
23	NE37-0198	桶ノ口	平安	土師器	散布地	水沢市姉妹町字桶ノ口				

担い手育成基盤整備事業姉体地区					事業者：湘江土地改良事業所		調査期日 平成9年6月12日～19日	
24 NE37 0291		平安	土師器	散布地	水沢市姉体町字小庄		新規発見	
25 NE37 1107		平安	土師器	散布地	水沢市真城字上野		新規発見	
26 NE37 1036		平安	須恵器	散布地	水沢市真城字下植田		新規発見	
27 NE37 1075		平安	須恵器	散布地	水沢市真城字南下田		新規発見	
28 NE37 1163		縄文・古代	土師器・剝片	散布地	水沢市姉体町漆原		新規発見	
29 NE37 1182		古代	土師器	散布地	水沢市姉体町漆原		新規発見	
30 NE37 1198		弥生	弥生土器・石器	散布地	水沢市姉体町迎畠		新規発見	
31 NE37 1292	橋本	弥生	弥生土器	散布地	水沢市姉体町字橋本			
32 NE37 2232		平安	土師器	散布地	水沢市姉体町庚中塚		新規発見	
33 NE37 2048		平安	土師器	散布地	前沢町白山字白山		新規発見	
34 NE37 2152		平安	土師器	散布地	前沢町白山字白山		新規発見	
35 NE37 2156		縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	水沢市姉体町字深町		新規発見	
36 NE37 2169		平安	土師器	散布地	水沢市姉体町吹張		新規発見	
37 NE37 2187		平安	須恵器	散布地	水沢市姉体町字鞘戸		新規発見	
38 NE47 0106		平安	土師器	散布地	水沢市姉体町字鞘戸		新規発見	
39 NE47 0125		縄文	縄文土器・フレーク	散布地	水沢市姉体町字鞘戸		新規発見	
40 NE37 2118		平安	須恵器	散布地	水沢市姉体町字鍛冶敷		新規発見	
41 NE37 0222		平安	土師器	散布地	水沢市姉体町小谷下		新規発見	
県営ほ場整備事業姫沢上野地区					事業者：湘江土地改良事業所		調査期日 平成9年6月24日～27日	
No 遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1 NE36 2175		平安	布目瓦・軒丸瓦・土師器	集落跡?	前沢町古城明後沢地内			
2 NE36 2203		平安	瓦	瓦窓跡?	前沢町古城明後沢地内		新規発見	
3 NE36 2211		縄文・平安	縄文土器・土師器・焼土	散布地	前沢町古城明後沢地内		新規発見	
4 NE36 2243	八郎館	平安・中世	土師器・須恵器	散布地・城館跡	前沢町古城明後沢地内		範囲拡大	
5 NE36 2272	宗角館	平安・中世	土師器	散布地・城館跡	前沢町古城明後沢地内			
6 NE36 2174		平安・中世	堀跡・土師器	散布地・城館跡	前沢町古城明後沢地内			
中山間地域総合整備事業御淨地区					事業者：二戸土地改良事業所		調査期日 平成9年7月23日	
No 遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1 JE36-1012	太田館跡	中世	単郭・堀	城館跡	净法寺町净法寺字中前田			
2 JE35-0389	上前田II	縄文	縄文土器	集落跡	净法寺町净法寺字上前田			
3 JE35-0300	季ヶ平	縄文・中近世	縄文土器	屋敷跡	净法寺町净法寺字季ヶ平			
4 JE25-2363	袖ノ沢V	縄文	縄文土器	散布地	净法寺町净法寺			
5 JE35-0318	空久保	縄文	縄文土器	散布地	净法寺町净法寺字杉沢		範囲拡大	
生活貯水池事業遠野第2ダム					事業者：遠野地方振興局土木部		調査期日 平成9年7月23日～24日	
No 遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1 MF54-0206	新里五器洗場	縄文	縄文土器	散布地	遠野市綾織町新里字間木野			
2 MF55-0082	九重沢	縄文		散布地	遠野市遠野町大字九重沢			
3 MF55-0093		縄文	縄文土器	散布地	遠野市遠野町大字九重沢			
4 ME55-1057	夫婦石袖高野	縄文	縄文土器	集落跡	遠野市遠野町字夫婦石袖高野			
5 MF55-1029	柄洞	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	遠野市遠野町字柄洞			
ため池等整備事業上野地区					事業者：両磐土地改良事業所		調査期日 平成9年7月28日	
No 遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1 NE95-0142	杭丁館	中世末	空堀・土塁・平場	城館跡	一関市嚴美町字宜童			
2 NE95-0151	宝竜	縄文	縄文土器・石器・石棒	散布地	一関市嚴美町字宝竜			
3 NE95-0049		縄文	フレーク	散布地	一関市嚴美町字宝竜		新規発見	
広域農業地農道整備事業					事業者：両磐土地改良事業所		調査期日 平成9年7月28日	
No 遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1 OE14-0149		縄文?	フレーク	散布地	一関市萩莊		新規発見	
2 OE15-0074		縄文	石器	散布地	一関市萩莊		新規発見	
3 OE15-0274		縄文	フレーク	散布地	一関市萩莊		新規発見	
越喜来地区宅地造成事業					事業者：岩手県住宅供給公社		調査期日 平成9年8月14日	
No 遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1 NG21-0052	小出I	縄文		散布地	三陸町越喜来字小出			
担い手育成基盤整備事業鍋倉地区					事業者：花巻土地改良事業所		調査期日 平成9年8月21日～22日	
No 遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1 ME15-2005		縄文	剝片	散布地	花巻市鍋倉		新規発見	
2 ME15-2000	幅	縄文・古代	剝片・縄文土器	集落跡	花巻市鍋倉			
3 ME15-2022		縄文	剝片	散布地	花巻市鍋倉字地神		新規発見	
4 ME15-2052		縄文・古代	剝片・土師器	散布地	花巻市鍋倉字地神		新規発見	
5 ME15-2089		縄文	縄文土器・剝片	散布地	花巻市鍋倉字荒屋敷		新規発見	
6 ME25-0121		縄文	縄文土器・剝片	散布地	花巻市鍋倉字小松原		新規発見	
担い手育成基盤整備事業下門岡地区					事業者：北上地方振興局農林部		調査期日 平成9年8月25日～26日	
No 遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1 ME86-0015		縄文	縄文土器	散布地	北上市福瀬町字金付附		新規発見	
2 ME76-2192	相田	縄文	縄文土器	散布地	北上市福瀬町字内門岡			
3 ME76-2160		縄文	縄文土器・剝片	散布地	北上市福瀬町字金付附			
4 ME86-0076	馬場崎	平安	土師器・須恵器	散布地	北上市福瀬町字金馬場崎			
中山間地域総合整備事業新田郷地区					事業者：花巻土地改良事業所		調査期日 平成9年8月25日～26日	
No 遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1 MD67-2294	奥郷I	縄文	縄文土器・石器	散布地	湯田町第63地割			
2 MD67-2238	奥郷II	旧石器・縄文	縄文土器・フレーク	散布地	湯田町第63地割10番			
3 MD67-1363	野々宿I	縄文	縄文土器・石器	集落跡	湯田町第60地割50番			
4 MD67-1361	野々宿II	旧石器	石器・剝片	キャンブ跡?	湯田町第60地割77番			
5 MD67-1371	野々宿III	旧石器	石器・剝片	キャンブ跡?	湯田町第60地割78番ほか			
6 MD67-1340	野々宿北	旧石器	石器・剝片	散布地	湯田町第64地割207番			
7 MD67-1310	野々宿II	旧石器	石器・剝片	散布地	湯田町第62地割90番			
8 MD67-0278	越中畑II	旧石器	石器・剝片	散布地	湯田町第64地割			
9 MD67-0376	中村	旧石器・縄文	石器・剝片・縄文土器	散布地	湯田町第59地割52番			
10 MD67-0314	越中畑I	縄文	縄文土器	散布地	湯田町第64地割			
11 MD57-2392		縄文	縄文土器	散布地	湯田町越中畑		新規発見	
12 MD57-2297	越中畑IV	縄文	縄文土器	散布地	湯田町第64地割17番4			
13 MD57-2289	越中畑御番所跡	近世			湯田町第64地割100番			
14 MD57-2384	白木野II		剝片石器	散布地	湯田町第67地割			

中山間地域総合整備事業新田郷地区

事業者：花巻土地改良事業所

調査期日 平成9年8月25日～26日

15 MD57 236					湯田町白木野	可能性あり
16 MD57 2389	白木野VI	旧石器	石刃・彫刻刀・旧石器	散布地	湯田町第673地割315番	
17 MD57 2350	白木野III	旧石器	旧石器・石刃	散布地	湯田町第67地割155番	
18 MD57 2371	白木野VII	旧石器	旧石器・剝片・埴？	キャンプ跡？	湯田町第67地割	
19 MD57 1367	細内I		剝片	散布地	湯田町第69地割66番	
20 MD57 2318	細内II	旧石器		キャンプ地	湯田町細内	
21 MD57 2032	大渡II	旧石器	旧石器・有舌尖頭器・石斧	キャンプ跡？	湯田町57地割	
22 MD58 2025	大渡III	旧石器	旧石器	キャンプ跡	湯田町57地割40番	
23 MD58 2054	大台野	旧石器・弥生	旧石器・弥生土器	集落跡	湯田町57地割40番	
24 MD58 2074	大台野II	縄文	縄文土器・石器	散布地	湯田町下細内	

扱い手育成基盤整備事業黒岩第1地区

事業者：北上地方振興局農林部

調査期日 平成9年8月27日～28日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ME57 0055	三坊木	縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器	散布地	北上市黒沢尻字黒岩	
2	ME57 0013	下久野館	中世	主席・埴	城館跡	北上市更衣町字八天	
3	ME57 0008	沢口	縄文		散布地	北上市黒沢尻町字平沢	
4	ME47 2193	長洞	縄文	縄文土器	散布地	北上市黒沢尻町字平沢	
5	ME47 2195		縄文	フレーク	散布地	北上市黒沢尻町字平沢	新規発見
6	ME57 0097		古代	土師器・須恵器	散布地	北上市黒沢尻町字黒岩三坊木	新規発見
7	ME57 0190	湯沢館跡	縄文・中世	縄文土器	城館跡・散布地	北上市黒沢尻町字黒岩三坊木	
8	ME57 0166		縄文	縄文土器	散布地	北上市黒沢尻字黒岩	新規発見
9	ME57 1023	三坊木館	中世		城館跡	北上市黒沢尻町字黒岩三坊木	
10	ME57 1056	鴻巣	縄文	縄文土器	散布地	北上市黒沢尻字黒岩第7地割	
11	ME57 1058		古代	土師器・須恵器	散布地	北上市黒沢尻字黒岩	新規発見
12	ME57 1131	神行田	縄文	縄文土器	散布地	北上市黒沢尻町字黒岩三坊木	
13	ME57 2011	黒岩城	縄文・古代・中世	埴・主席・外廓・土師器・須恵器	散布地・城館跡	北上市黒沢尻字黒岩	
14	ME57 1083	白山廃寺	平安	布目瓦・土師器	寺院跡	北上市黒沢尻町字黒岩第9地割	

扱い手育成基盤整備事業黒岩第2地区

事業者：北上地方振興局農林部

調査期日 平成9年8月27日～28日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ME57 2011	黒岩城	縄文・古代・中世	埴・主席・外廓・土師器・須恵器	散布地・城館跡	北上市黒沢尻町字黒岩	
2	ME57 1088		縄文	縄文土器	散布地	北上市黒沢尻町字黒岩	新規発見
3	ME57 2071	根岸	縄文	縄文土器・石器	散布地	北上市黒沢尻町字元館	

中山間地域総合整備事業大野地区

事業者：花巻土地改良事業所

調査期日 平成9年8月25日～26日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	MD28 1268	内沢環状列石	縄文	縄文土器	集落跡	沢内村大野	
2	MD28 1274		縄文	石笠・剝片	集落跡	沢内村大野	新規発見
3	MD28 2212		古代	土師器	散布地	沢内村大野	新規発見
4	MD28 2198		中世	埴・土塁状遺構	城館跡？	沢内村大野	可能性あり
5	MD30 0285		縄文	縄文土器	散布地	沢内村大野	新規発見

中山間地域総合整備事業黒岩地区

事業者：北上地方振興局農林部

調査期日 平成9年8月27日～28日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ME57 2011	黒岩城	縄文・古代・中世	埴・主席・外廓・土師器・須恵器	散布地・城館跡	北上市黒沢尻町字黒岩	
2	ME57 1088	白山廃寺	平安	布目瓦・土師器	寺院跡	北上市黒沢尻字黒岩第9地割	
3	ME57 2013		縄文・古代	縄文土器・土師器・須恵器	散布地	北上市黒沢尻町字元館	
4	ME57 2028	四十九里	縄文・古代	土師器・須恵器	散布地	北上市黒沢尻町字元館	範囲拡大
5	ME57 2047		縄文	石器	散布地	北上市黒沢尻町字元館	新規発見
6	ME57 2029		縄文	縄文土器	散布地	北上市黒沢尻町字元館	新規発見
7	ME57 2058		縄文	縄文土器・フレーク	散布地	北上市黒沢尻町字元館	新規発見
8	ME57 2104		縄文	石匙・フレーク	散布地	北上市黒沢尻町字元館	新規発見
9	ME57 1193		縄文・古代	石器・土師器・須恵器	散布地	北上市黒沢尻町字元館	新規発見

中山間地域総合整備事業浜田川地区

事業者：大船渡地方振興局農林部

調査期日 平成9年8月29日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	NF68 1010		縄文	縄文土器	散布地	陸前高田市米崎町字野沢	新規発見
2	NF68 0095	川内	縄文	縄文土器	集落跡	陸前高田市米崎町字川崎	
3	NF67 1328	川崎			散布地	陸前高田市米崎町字川崎	

県単急傾斜地崩壊防止対策事業宇洞地区

事業者：遠野地方振興局土木部

調査期日 平成9年9月2日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	MF52 2161	宇洞館	中世	石塔	城館跡	宮守村下鱒沢宇洞	

県営畜産環境整備事業奥羽北部地区盆花平1号線

事業者：盛岡地方振興局農政部

調査期日 平成9年9月4日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	KE82 0312		縄文	縄文土器	散布地	零石町長山	

県営畜産環境整備事業奥羽北部地区両沼清水線

事業者：盛岡地方振興局農政部

調査期日 平成9年9月4日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	KE35 0329	両沼II	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	西根町大更両沼	
2	KE35 0339		古代	土師器	散布地	西根町大更両沼	新規発見

県営畜産環境整備事業奥羽北部地区穴津線

事業者：盛岡地方振興局農政部

調査期日 平成9年9月4日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	KE23 1155	田代	縄文	縄文土器	散布地	松尾村寄木	範囲拡大

扱い手育成基盤整備事業三照地区

事業者：江刺農林事務所

調査期日 平成9年9月2日～12日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ME86 1111		縄文・平安	縄文土器・須恵器	集落跡	江刺市稻瀬	新規発見
2	ME86 1130		平安	土師器	集落跡	江刺市稻瀬	新規発見
3	ME86 1186		平安	須恵器	集落跡	江刺市稻瀬	新規発見
4	ME86 2137	谷地	平安	須恵器	集落跡	江刺市稻瀬	

主要地方道上米内湯沢線手代森地区道路改築

事業者：盛岡地方振興局土木部

調査期日 平成9年9月17日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	LE27 2215	高寺I	縄文		散布地	盛岡市手代森	
2	LE27 2246	沢口	縄文・古代		散布地	盛岡市手代森	

中山間地域総合整備事業鱒沢地区

事業者：遠野土地改良事業所

調査期日 平成9年9月18日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	MF52 2272		縄文	縄文土器	散布地	宮守村鱒沢	新規発見
2	MF52 2281	上台II	縄文	縄文土器	散布地	宮守村鱒沢	
3	MF52 2179		縄文	縄文土器	散布地	宮守村鱒沢	新規発見

地域環境保全林整備事業						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：岩手県林業水産部	調査期日 平成9年10月3日	備考
1	LE45 0330	稲荷街道松並木	江戸	土塁・松並木	街道跡	矢巾町大字化煙山 新規発見
2	LE45 0314			縄文土器	散布地	矢巾町大字化煙山 新規発見
3	LE45 0332			縄文土器・フレーク	散布地	矢巾町大字化煙山 新規発見
主要地方道盛岡和賀線伝法寺地区道路改築						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：盛岡地方振興局土木部	調査期日 平成9年10月3日	備考
1	LE56 0050	館前		柱脚	城館跡	矢巾町大字北伝法寺字館前
2	LE55 0399	長仙寺	古代・中世?	柱脚・甲冑・土師器	散布地	矢巾町大字北伝法寺字長仙
3	LE55 1368		古代	土師器	散布地	矢巾町北伝法寺字横枕 新規発見
農地環境整備事業堺の沢地区						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：両磐土地改良事業所	調査期日 平成9年10月8日	備考
1	NF60 2138	大馬場	縄文・古代	須恵器・縄文土器	窯跡	大東町波民大字大馬場
県営一般農道整備事業赤坂田地区						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：盛岡地方振興局農政部	調査期日 平成9年10月15日	備考
1	JE72 2041		古代	土師器	散布地	安代町赤坂田字新田 新規発見
2	JE72 2071		縄文	縄文土器	散布地	安代町赤坂田字新田 新規発見
3	JF83 0337	扇畑I	縄文・古代	縄文土器・土師器	集落跡・キャンプ地	安代町赤坂田字扇畑
4	JE83 0239	扇畑II	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	安代町赤坂田字扇畑
5	JE83 0391	寄木II	縄文	縄文土器	散布地	安代町赤坂田字寄木
6	JE83 0373	寄木I	縄文	縄文土器・フレーク	散布地	安代町赤坂田字寄木
県営畜産經營環境整備事業奥羽北部地区						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：盛岡地方振興局農政部	調査期日 平成9年10月16日	備考
1	LE02 2113		縄文	縄文土器・フレーク	散布地	平石町橋場 新規発見
一般県道花巻空港線道路改良・花巻空港整備事業						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：岩手県道路建設課・港湾課	調査期日 平成9年10月23日～24日	備考
1	ME06 2269	宮野目方八丁	平安	土塁・堀	城館跡	花巻市宮野目方八丁
2	ME06 2297	上ノ山	縄文・古代		散布地	花巻市葛字上ノ山
3	ME16 0226					花巻市葛字上ノ山 可能性あり
4	ME16 2117	石持I	古代	土師器	散布地	花巻市東宮野目19、10
主要地方道久慈岩泉線山根地区						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：久慈地方振興局土木部	調査期日 平成9年10月27日～31日	備考
1	JF68 2228	山根館跡	中世	空堀・土塁	城館跡	久慈市山根町下戸子鎖
2	JF68 2236		縄文	縄文土器	散布地	久慈市山根町下戸子鎖 新規発見
3	JF68 2238		縄文	縄文土器	散布地	久慈市山根町下戸子鎖 新規発見
中山間地域総合整備事業荒谷前地区						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：遠野土地改良事業所	調査期日 平成9年10月30日～31日	備考
1	MF52 1343	荒谷前		縄文	遺構・遺物	散布地
2	MF53 1041		縄文	縄文土器	散布地	宮守村荒谷前 新規発見
一般国道283号仙人道路道路改築事業						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：遠野地方振興局土木部	調査期日 平成9年10月31日	備考
1	MF76 2155		縄文	縄文土器	散布地	住田町秋丸
2	JET6 0185					遠野市上郷赤羽根 可能性あり
一般国道397号江刺伊手地区道路改良						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：水沢地方振興局土木部	調査期日 平成9年10月31日	備考
1	NE09 1268		古代	土師器	散布地	江刺市伊手字新山 新規発見
2	NE00 1120		縄文	縄文土器	散布地	江刺市伊手字荒谷 新規発見
一般農道整備事業太田地区						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：二戸土地改良事業所	調査期日 平成9年11月4日	備考
1	JE36 2141	サイカツ平XII	縄文	縄文土器・石器	集落跡	浄法寺町大清水字サイカツ平
2	JE36 2036	サイカツ平XVIII	縄文・弥生・古代	縄文土器・弥生土器・土師器	石器	浄法寺町大清水字サイカツ平
3	JE36 2001	サイカツ平IV	縄文・古代	縄文土器・土師器	集落跡	浄法寺町大清水
4	JE35 1389	長袖I	縄文・近世	縄文土器・土師器・石器	集落跡	浄法寺町字長袖
一般国道342号道路改築事業						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：一関地方振興局土木部	調査期日 平成9年11月6日～20日	備考
1	NE95 0181	上野I	縄文	石器・縄文土器	散布地	-関市敵美町字上野
2	NE95 0198		縄文	石器・縄文土器	散布地	-関市敵美町字上野 新規発見
3	NE95 0186		縄文	石器・縄文土器・フレーク	散布地	-関市敵美町字上野 新規発見
4	NE95 0184		縄文	フレーク	散布地	-関市敵美町字上野 新規発見
5	NE94 0346		縄文	縄文土器	散布地	-関市敵美町字沖野々 新規発見
6	NE94 0209	滝ノ上	縄文	縄文土器	散布地	-関市敵美町字高田
7	NE94 0229		縄文	縄文土器	散布地	-関市敵町字滝の上 新規発見
8	NE94 0225	敵美渓B	縄文		散布地	-関市敵町字滝の上
県営公牧場整備事業小石川地区						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：盛岡地方振興局農政部	調査期日 平成9年11月7日	備考
1	KF71 1067	小石川	旧石器		散布地	玉山村薮川
中山間地域総合整備事業新渡戸地区						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：千厩地方振興局農林部	調査期日 平成9年11月17日～18日	備考
1	NF50-2341	室石館	中世	主郭・堀	城館跡	大東町沖田字猿沢
2	NF50-2298	猿沢中館	中世		城館跡	大東町猿沢字志田山
3	NF50-0246			塚	堂跡?	大東町渋民字闇の上 新規発見
4	NF60-0272		縄文	縄文土器・フレーク	散布地	大東町猿沢字荒谷 新規発見
5	NF60-0241	新渡戸	縄文	縄文土器	散布地	大東町猿沢字荒谷
6	NF50-2285		縄文	縄文土器	散布地	大東町猿沢字地ノ神 新規発見
7	NF50-2254		縄文	縄文土器	散布地	大東町猿沢字地ノ神 新規発見
8	NF50-2234		縄文	縄文土器	散布地	大東町猿沢字地ノ神 新規発見
9	NF50-1295	閑根	縄文	縄文土器・石器	散布地	大東町猿沢字閑根
10	NF50-1283	小倉畠	縄文	縄文土器・石器	散布地	大東町猿沢字閑根
県営畜産經營環境整備事業奥羽北部地区						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：盛岡地方振興局農政部	調査期日 平成9年12月4日	備考
1	KE82-0259	の館	中世		城館跡	零石町長山第5地割字篠ヶ森
2	KE26 2225					西根町大更洪川 可能性あり
3	KE14-1132	大花森II	縄文	縄文土器	散布地	松尾村大字松尾第5地割大花森
4	KE14-1127	大花森III	縄文		散布地	松尾村大字松尾第6地割大花森

一級河川広瀬川局部改良工事						事業者：水沢地方振興局土木部			調査期日 平成9年12月11日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	ME96 1123	縄文	縄文土器	散布地	江刺市梁川			新規発見		
2	ME69 1143	縄文・平安	縄文土器・土師器	散布地	江刺市梁川			新規発見		
急傾斜地崩壊防止対策事業										
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	NF00 0181		堀跡・平場	城館跡	江刺市伊手字荒谷					
2	NE56 0069	前沢城跡	平場	城館跡	前沢町下小路					
県際交流促進道路整備事業手倉森工区						事業者：二戸地方振興局土木部			調査期日 平成9年12月15日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	JE26 2029	田子内館	中世	空堀・廓	城館跡	浄法寺町館			範囲拡大	
主要地方道大槌川井川線土坂地区道路整備事業										
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	LF99 0262	戸沢	縄文	縄文土器	散布地	大槌町金沢第3地割				
2	LF99 0272	縄文	縄文土器	散布地	大槌町金沢			新規発見		
3	LF99 0273	縄文	縄文土器	散布地	大槌町金沢			新規発見		
担い手育成基盤整備事業二子地区						事業者：花巻土地改良事業所			調査期日 平成9年12月18日～19日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	ME56 0349	上川端	平安	土師器・須恵器	散布地	北上市二子町字上川端				
2	ME56 0346		古代	土師器	散布地	北上市二子町字上川端			新規発見	
3	ME56 0259		古代	土師器・須恵器	散布地	北上市二子町字鳥喰			新規発見	
4	ME56 0254		古代	土師器	散布地	北上市二子町字鳥喰			新規発見	
5	ME56 0251	縄文・古代	石庭・土師器・須恵器	散布地	北上市二子町字堰向端			新規発見		
6	ME56 1101		古代	土師器・須恵器	散布地	北上市二子町字鳥喰			新規発見	
7	ME56 0189		古代	土師器・須恵器	散布地	北上市二子町字堰向			新規発見	
8	ME56 0195	縄文	縄文土器	散布地	北上市二子町字南田			新規発見		
9	ME56 1142		古代	土師器	散布地	北上市二子町字明神			新規発見	
10	ME56 1263		古代	土師器	散布地	北上市二子町字中島			新規発見	
11	ME56 1138		古代	土師器	散布地	北上市二子町字			新規発見	
12	ME56 1155		古代	須恵器	散布地	北上市二子町字高屋			新規発見	
13	ME56 1161	二子一里塚	近世		一里塚	北上市二子町字高屋				
14	ME56 1280	縄文	フレーク	散布地	北上市二子町字野田			新規発見		
15	ME56 1189	古代	須恵器	散布地	北上市二子町字野田			新規発見		
16	ME56 1385	中村	縄文・古代	縄文土器・土師器・須恵器	集落跡	北上市二子町字中村				
17	ME56 1329	引尻	平安	土師器・須恵器	集落跡	北上市二子町字下川端				
18	ME56 1340		古代	土師器	散布地	北上市二子町字野田			新規発見	
19	ME56 1289		古代	土師器・須恵器	散布地	北上市二子町字岡島			新規発見	
20	ME56 2343	千刈	縄文・弥生・平安	縄文土器・フレーク	集落跡	北上市二子町字千刈				
21	ME56 2249		古代	土師器	散布地	北上市二子町字野田			新規発見	
22	ME56 2267	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	北上市二子町字山岸			新規発見		
23	ME56 2213	野田I	縄文・弥生・古代	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器	散布地	北上市二子町字野田				
24	ME56 2254	中居俵	古代	土師器	散布地	北上市二子町字野田				
25	ME66 0204	蟹沢				北上市二子町				
主要地方道宮古岩泉線君田地区道路改良						事業者：宮古地方振興局土木部			調査期日 平成9年12月18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	LG02 2366	中里	縄文	縄文土器	集落跡	宮古市田代第16地割中里				
2	LG02 2386	縄文	縄文土器	散布地	宮古市田代第16地割中里			新規発見		
主要地方道盛岡横手線湯本地区道路整備事業										
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	MD38 2212	清水ヶ野	縄文	縄文土器・石器	集落跡	湯田町清水ヶ野				
2	MD38 2159					湯田町上湯田			可能性あり	
3	MD48 0232	中館	中世	堀・土塁・郭・井戸	城館跡	湯田町上湯田				
北上川上流域下水道石鳥谷幹線築造						事業者：北上川上流域下水道事務所			調査期日 平成9年12月18日～19日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	LE96 0305	小館	中世	堀跡	城館跡	石鳥谷町好地				
2	LE96 0334	縄文		石製品・縄文土器	散布地	石鳥谷町八幡			新規発見	
主要地方道釜石連野線橋野地区道路改良						事業者：釜石地方振興局土木部			調査期日 平成9年12月19日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	MG40 0208	縄文	縄文土器	散布地	釜石市橋野町早柄			新規発見		
一般県道盛岡鶴宿線交通安全施設整備事業										
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	LE23 1151	戸沢	縄文	縄文土器	散布地	零石町西安庭字上戸沢				
2	LE23 1077	戸沢館	中世	堀跡等	城館跡	零石町西安庭字上戸沢				
国道281号線元本地区道路改良工事						事業者：盛岡地方振興局土木部			調査期日 平成9年12月22日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	KF01 1371	縄文	縄文土器	散布地	葛巻町元本			新規発見		
中山間地域総合整備事業葛巻北西地区										
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	JF72 1056	縄文	縄文土器	散布地	葛巻町葛巻地内			新規発見		
2	JF72 2111	縄文	縄文土器	散布地	葛巻町葛巻地内			新規発見		
3	JF72 2038	縄文	縄文土器	散布地	葛巻町葛巻地内			新規発見		
4	JF72 2192	縄文	縄文土器	散布地	葛巻町葛巻地内			新規発見		
5	JF72 2198	縄文	縄文土器	散布地	葛巻町葛巻地内			新規発見		
6	JF82 0166	縄文	縄文土器	散布地	葛巻町葛巻地内			新規発見		
7	JF82 0253	縄文	縄文土器	散布地	葛巻町葛巻地内			新規発見		
8	JF82 0270	田代向	縄文	縄文土器	散布地	葛巻町葛巻地内				
県際交流促進道路整備事業下野場工区						事業者：二戸地方振興局土木部			調査期日 平成10年1月7日～8日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	HF62 2191	刈敷山V	縄文	縄文土器	散布地	軽米町高家				
2	HF62 2195	刈敷山IV	縄文	縄文土器	散布地	軽米町高家				
3	HF72 0263	向高家平中III	縄文	縄文土器	散布地	軽米町高家				
地方特定道路整備事業二戸安代線合川工区										
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地			備考	
1	JE19 0039	縄文	縄文土器	散布地	二戸市合川					

緊急地方整備事業長瀬橋下部工工事						事業者：二戸地方振興局土木部	調査期日 平成10年1月7日～8日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 別	所 在 地	備 考	
1 IE89-2387	上田面	奈良	土師器	散布地	二戸市上田面		
2 IE90-0000	堀野	縄文・古代	古墳住居跡等	集落跡	二戸市堀野		
河川局部改良八木沢川						事業者：宮古地方振興局土木部	調査期日 平成10年1月31日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 LG34-2155	磯鳴館山	縄文・近世	堅穴住居 製鉄跡	集落跡 城館跡	宮古市磯鳴11地削岸ノ前		
一般県道宮古山田線石崎地区道路改良						事業者：宮古地方振興局土木部	調査期日 平成10年1月30日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 LG63-2133	羽々の下I	縄文	縄文土器・土師器・須恵器・スラグ	散布地・製鉄跡	山田町羽々の下		
2 LG63-2153	羽々の下II	縄文	縄文土器・スラグ	散布地・製鉄跡	山田町羽々の下		
3 LG63-2156					山田町豊間根白山		可能性あり
急傾斜地崩壊対策事業						事業者：宮古地方振興局土木部	調査期日 平成10年1月31日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 LG33-0197	千徳城	中世			城館跡	宮古市太田	
御所湖広域公園アミーランド東部地区整備						事業者：盛岡地方振興局土木部	調査期日 平成10年2月16日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 LE23-1050	伝久	縄文	縄文土器	集落跡 城館跡	零石町西安庭第31地割伝久		
特定地方道路整備事業大川松草線						事業者：岩泉土木事務所	調査期日 平成10年2月16日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 KF75-2328	摩崖	縄文・奈良・平安	縄文土器・土師器	散布地	岩泉町釜津田字摩崖		
2 KF75-2352	沢口I	縄文	縄文土器	散布地	岩泉町釜津田字沢口		
地方特定道路整備事業花巻北上線黒岩地区						事業者：北上地方振興局土木部	調査期日 平成10年2月23日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 ME56-1388		縄文	縄文土器	散布地	北上市黒沢尻町黒岩		
県単急傾斜地崩壊対策事業花泉地区						事業者：一関地方振興局土木部	調査期日 平成10年2月25日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 OE49-0013	雲南古塚	中世・縄文		塚・散布地	花泉町日形字清水		
2 OE36-1235	和泉館跡	中世	堀・土塁・曲輪	城館跡	花泉町築館前		
3 OE26-2262	奈良坂	縄文	縄文土器・石器	散布地	花泉町築館前		
4 OE26-2253	高森館	中世	堀・土塁・曲輪	城館跡	花泉町築館前		
扱い手育成基盤整備事業湯本第四地区						事業者：花巻土地改良事業所	調査期日 平成10年3月5日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 ME05-2154	金矢	縄文	石器	散布地	花巻市金矢		
花巻空港整備事業						事業者：岩手県土木部港湾課	調査期日 平成10年3月5日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 ME17-0284	長沢II	縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町五大堂		
2 ME17-0294	長沢III	縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町五大堂		
3 ME17-1217	長沢IV	縄文	縄文土器	散布地	石鳥谷町五大堂		
主要地方道一関北上線立花地区						事業者：一関地方振興局土木部	調査期日 平成10年3月5日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 ME66-1263	立花館	平安	土師器	散布地・城館跡	北上市立花		
2 ME66-1235		古代	土師器	散布地	北上市立花		新規発見
3 ME66-1237	館II	縄文	縄文土器	散布地	北上市立花		
4 ME66-1209		縄文	縄文土器	散布地	北上市立花		
人首川広域河川改修事業A						事業者：水沢地方振興局土木部	調査期日 平成10年3月5日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 NE07-1235	寺田II	古代	土師器	散布地	江刺市岩谷堂字反町		
広瀬川広域河川改修事業A						事業者：水沢地方振興局土木部	調査期日 平成10年3月5日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 ME87-0254		縄文	縄文土器	散布地	江刺市川原・新田		新規発見
2 ME87-2071		縄文	縄文土器	散布地	江刺市広瀬		新規発見
3 ME87-0391	堂の下古墳	古墳?		古墳	江刺市広瀬		
4 ME87-1300	三の闕	古代・中世		散布地・城館跡	江刺市川原・新田		
5 ME87-1205	茶臼館跡	縄文	縄文土器	散布地	江刺市広瀬		
伊手川河川局部改良事業						事業者：水沢地方振興局土木部	調査期日 平成10年3月5日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 NE09-1358		縄文・中世	縄文土器・石器・平場・帶曲輪	散布地・城館跡	江刺市上伊字上伊手		
2 NF00-2003					江刺市上伊字上伊手		可能性あり
山本川荒廃砂防事業						事業者：水沢地方振興局土木部	調査期日 平成10年3月5日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 NF91-1009	中屋敷	縄文	縄文土器・石器	散布地	江刺市米里字山本		
金ヶ崎町都市計画道路街路事業						事業者：水沢地方振興局土木部	調査期日 平成10年3月5日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 ME95-2247		縄文・古代	縄文土器・石製品・須恵器	散布地	金ヶ崎町西根医者屋敷		
重王堂沢荒廃砂防事業						事業者：水沢地方振興局土木部	調査期日 平成10年3月5日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 NF01-0114	重王堂				江刺市米里字重王堂		
一般県道岩崎藤根線和賀中央橋地方特定道路整備						事業者：北上地方振興局土木部	調査期日 平成10年3月6日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 ME64-0156	飯島	縄文・古墳・古代		集落跡	北上市和賀町長沼		
急傾斜地崩壊対策事業						事業者：遠野地方振興局土木部	調査期日 平成10年3月6日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 ME45-2091	鍋倉城	中世～近世		城館跡	遠野市六日町地内		
農免道整備事業奥玉北部						事業者：両磐土地改良事業所	調査期日 平成10年3月9日～10日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 NF82-1054	物見石I	縄文	縄文土器・石器	散布地	千厩町奥玉字物見石		
2 NF82-1055	物見石II	縄文	縄文土器	散布地	千厩町奥玉字物見石		
3 NF82-1068	物見石III	縄文	縄文土器・石器	散布地	千厩町奥玉字物見石		
畑地帯総合整備事業藤崎地区						事業者：両磐土地改良事業所	調査期日 平成10年3月10日
No 遺跡コード	遺 跡 名	時 代	遺 構・遺 物	種 别	所 在 地	備 考	
1 OF20-0158	柳沢館	中世	堀・平場	城館跡	藤沢町西口字玉川地内		

畠地帯総合整備事業盛岡西部地区					事業者：盛岡南部土地改良事業所			調査期日 平成10年3月13日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	LE25_2361	木簡	古代		集落跡	盛岡市羽場字木簡			
2	LE25_2370	福千代	古代	須恵器	集落跡	盛岡市羽場字福千代			
3	LE25_2309	因幡	縄文・古代		集落跡	盛岡市羽場字因幡			
4	LE25_2321					盛岡市羽場		可能性あり	
盛岡広域都市計画道路津志田白沢線中村地区					事業者：盛岡地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月13日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	LE64_1392		古代	土師器	散布地	矢巾町大字南矢幅第8地割中村		新規発見	
畜業試験場跡地地区宅地造成事業					事業者：岩手県住宅供給公社			調査期日 平成10年3月16日～17日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	JF20_0075	土野F	古代	須恵器・土師器	散布地	一戸町字土野地内		範囲拡大	
県単河川改良事業					事業者：二戸地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月16日～17日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	JE49_0048	焼切III	縄文	縄文土器	散布地	一戸町女鹿字焼切			
2	JE49_0087	大久保III	縄文	縄文土器	散布地	一戸町女鹿字焼切			
中山間地域総合整備事業御清地区					事業者：二戸地方改良事業所			調査期日 平成10年3月16日～17日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	JE18_1138	上大塗平	縄文	縄文土器	散布地	二戸市似鳥大塗地内			
広域農道整備事業二戸地区					事業者：二戸地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月16日～17日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	IE98_1332	上台	縄文	縄文土器	散布地	二戸市下斗美寺久保			
葛根田橋橋梁整備（山村代行）工事					事業者：盛岡地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月16日～18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	LE12_1322	小日谷地IB	縄文	縄文土器	集落跡	零石町第2地割字小日谷地			
急傾斜地崩壊対策事業					事業者：宮古地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月16日～18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	LG34_1027	藤原上町II	奈良		集落跡	宮古市藤原上町			
2	LG34_1048	磯鳩石崎	縄文・古代		散布地	宮古市磯鳩石崎			
県単道路改良事業金田一川工区					事業者：二戸地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月16日～18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	IE97_0098					二戸市金田一川		可能性あり	
2	IE97_0079					二戸市金田一川		可能性あり	
主要地方道蛭米線市線荒屋敷・館野地区道路改良					事業者：久慈地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月16日～18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	IF57_0276					種市町第51地割字荒屋敷		可能性あり	
2	IF67_0290					種市町第52地割字荒屋敷		可能性あり	
3	IF57_0197	縄文	縄文土器	散布地		種市町第53地割字荒屋敷			
一般県道明ケ柿市線小路合地区道路改良					事業者：久慈地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月16日～18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	IF58_0341	ゴツソ一	縄文	縄文土器	散布地	種市町第18地割小路合			
久慈川筋川井地区県単河川改良					事業者：久慈地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月16日～18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	JF45_2206	向畑	縄文		散布地	山形村川井			
県道二戸蛭米線道路改良平地区					事業者：二戸地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月17日～18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	IF91_0321	小屋の沢	縄文	縄文土器	散布地	蛭米町大字山内字小屋の沢			
2	IF91_0312		縄文	縄文土器	散布地	蛭米町大字山内字平		新規発見	
新幹線関連道路整備事業宮沢工区					事業者：二戸地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月17日～18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	JF03_2246		古代	土師器	散布地	蛭米町宮沢		新規発見	
2	JF03_2267		古代	土師器	散布地	蛭米町宮沢		新規発見	
3	JF14_0110					蛭米町宮沢		可能性あり	
車両大型化対策橋梁整備事業西田橋工区					事業者：二戸地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月17日～18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	JF22_0158		縄文	縄文土器	散布地	九戸村西田		新規発見	
荒廃砂防事業					事業者：二戸地方振興局土木部			調査期日 平成10年3月17日～18日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	JF15_0344	梅の木沢	近世		製鉄跡	蛭米町小蛭米16、17地割			
広域農道整備事業胆沢南部					事業者：胆沢土地改良事業所			調査期日 平成10年3月24日	
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地		備考	
1	NE54_0207	小正板	縄文	縄文土器	散布地	衣川村小正板			
2	NE54_0241	治助屋敷	近世		屋敷跡	衣川村字治田			

IV 柳之御所遺跡

柳之御所遺跡整備調査事業

(柳之御所遺跡第47次調査)

所在地：西磐井郡平泉町平泉字柳之御所

調査主体：岩手県教育委員会事務局文化課

調査機関：平成9年3月10日～3月31日（15日間）

調査面積：180m²

協力機関：岩手県立博物館 平泉町教育委員会

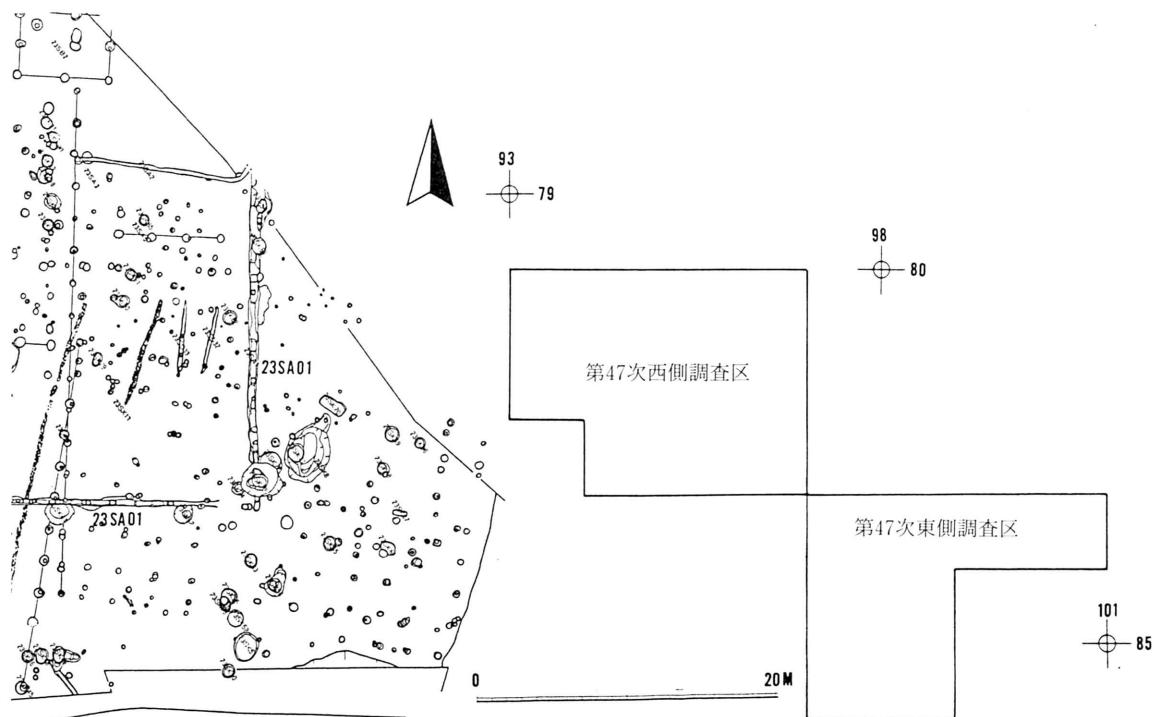
1 はじめに

柳之御所遺跡は平泉町市街地の東端に位置し、北上川右岸の標高25m±の河岸段丘縁辺部に立地している。遺跡は北西から南東に細長くその面積は約11万m²である。遺跡の北端は高館と隣接し、西側は猫間が淵、東側は北上川、南側は沖積地に囲まれている。

柳之御所遺跡の部分的な調査は昭和の初期から行われており、昭和40年代以降は平泉遺跡調査会が主体となり組織的な調査が継続的に実施されてきた。昭和63年には一関遊水池事業に伴う築堤工事及び平泉バイパス工事に係わり、平泉町教育委員会と岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる緊急発掘調査が平成5年度まで継続的に実施された。その結果、柳之御所遺跡は12世紀奥州藤原氏と密接な関わりを持つ重要な遺跡であることが次第に明らかにされてきた。その間、平成4年度と同5年度には当課と平泉町教育委員会が範囲確認調査を2カ年にわたり実施している。これら、緊急発掘調査と範囲確認調査の結果から、建設省では「我が国の歴史を解明する上で極めて重要な遺跡」であるとの判断から事業予定地の計画変更が行わ



第124図 柳之御所遺跡の位置



第125図 柳之御所遺跡第47次調査区位置図

れ遺跡が永久保存されることとなった。さらに、平成7年3月には国指定史跡の申請が文化庁に対して行われ、平成9年3月に国指定史跡として官報告示された。

2 第47次調査の概要

本年度の調査は範囲内容確認が目的であり、柳之御所遺跡では第47次の調査に相当する。調査区は、県道相川～平泉線の北側で平成元年度に財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査を実施した第23次調査区の東側の地区に相当する。凡その位置は、東西ラインで93～101、南北ラインで80～86のラインに囲まれた地区が該当し、今まで調査が一度も実施されていない地区である。遺跡の東側の縁で北上川に向かい地形が急傾斜していく部分に相当する。調査の性格上、遺構検出を主眼としたため各遺構の精査は半截に止めている。本稿では調査の概要を報告し、細部にわたる正式報告については次年度調査結果と併せて報告の予定である。

調査区は、第23次調査区に隣接した地区を西側調査区、その東側を東側調査区として調査を実施した。その結果、溝状遺構15条、土坑11基、柱穴状ピット75個を検出した。土坑とした遺構のなかには規模や埋土の状況から井戸状の遺構になると推定されるものも含まれている。西側調査区は第23次調査区と隣接した区域であり、遺構検出面まで50cmと浅く旧住宅地跡と重複しているため搅乱を受けている部分が多く遺構の遺存状態は良好ではない。溝状遺構としたものも埋土に近現代の新しい遺物を含んでおり、多くは暗渠の施設に係わるものと思われる。

SK05土坑は西側半分について精査を行った。開口部は0.95m×1.2mの規模で、平面形は隅丸長方形で埋土の最上部に半頭大～頭大の角礫・亜角礫を多量に含んでいる。意図的に礫を配した状況は認められないが、地山を構成している黄褐色粘土をブロック状に含むことから人為的に投棄されたものと思われる。

SK05土坑の西側に位置する PP34からは図示したかわらけの完形品～略完形品が出土している。

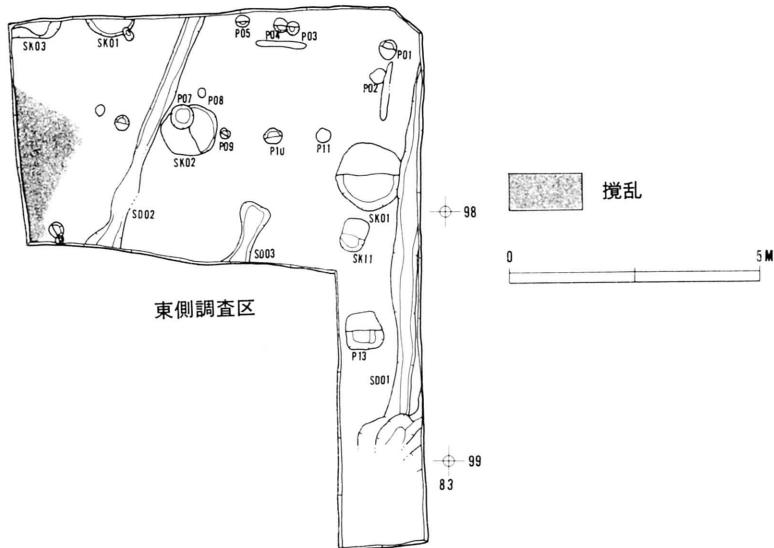
これらのかわらけは炭化物やかわらけ細片を多く含む層から出土している。開口部は0.85m×0.95mの規模で平面形は略円形である。深さ50cmまで精査をおこなった。この遺構は建物を構成する柱穴ではなくある種の土坑と推定される。また、この遺構からは灰褐色をした土壁の破片と思われるものが出土している。

今回の調査で、総量約47kgのかわらけが出土した。点数は少ないが、他に渥美焼・常滑焼・産地不明の須恵器系陶器などの国産陶器、近世陶磁器片が出土している。なお、今回の調査区からは瓦・貿易陶磁器類は出土していない。

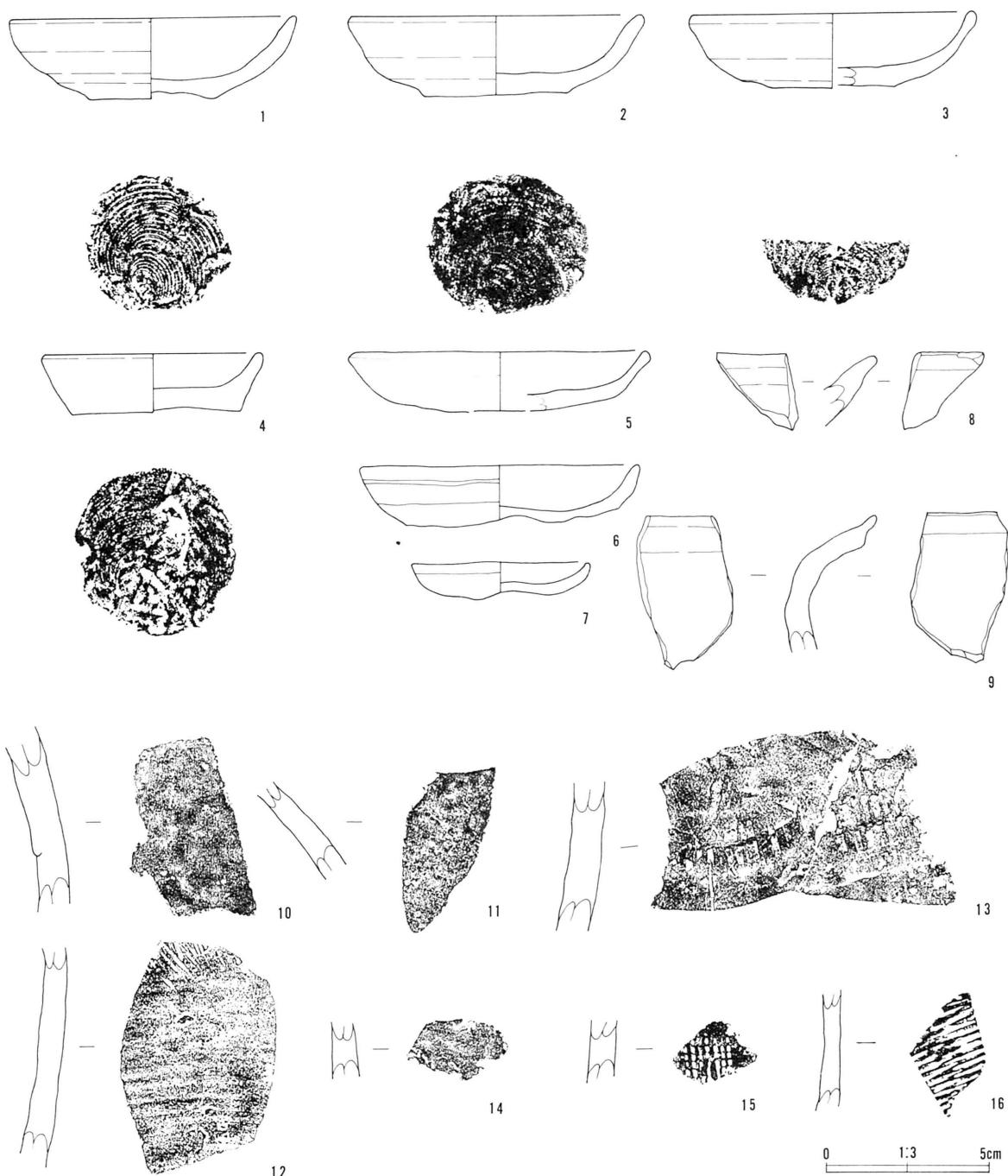
今回の調査区は第23次調査区に隣接した区域で23SAOI塙跡の外側の地域である。前回の調査区と同様柱穴類などの遺構密度はあまり高くなない地域である。これは、近現代の宅地造成の際にかなり削平を受けていることに起因しているほかに、遺跡中枢部の縁辺部であることが反映していると思われる。また、12世紀と推定される土坑類・井戸状遺構も検出されているが、今回の調査区では大型の建物群を構成するような柱穴類は検出されていない。柱穴類については次年と前回までの調査成果と再検討のうえ後日報告の予定である。



西側調査区



第126図 柳之御所遺跡第47次調査遺構配置図



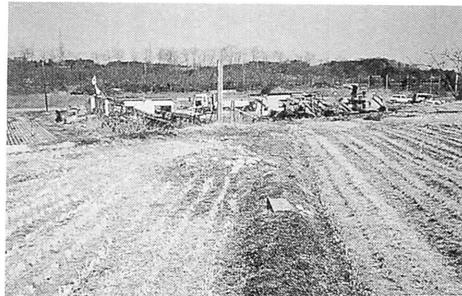
番号	出土地点・層位	種別	法量(cm)・()は推定値			重量(g)	残存状況	色調	備考
			口径	器高	底径				
1	PP34・埋土	ロクロ・大	13.3	3.7	6.0	205	完形	2.5Y8/2灰白	
2	PP34・埋土	ロクロ・大	13.6	3.7	6.8	250	完形	7.5YR8/2灰白	
3	PP34・埋土	ロクロ・大	(13.3)	3.4	(5.8)	—	約1/2	10YR8/1灰白	夾雜物多い
4	PP34・埋土	ロクロ・小	10.2	2.6	7.8	135	完形	10YR8/2灰白	
5	PP34・埋土	手づくね・大	(14.0)	2.7	(8.0)	—	約1/2	2.5Y8/2灰白	二段ナデ
6	PP34・埋土	手づくね・大	13.0	2.6	7.9	160	完形	2.5Y8/3淡黄	二段ナデ、凹凸顯著
7	PP34・埋土	手づくね・小	8.0	1.4	4.7	50	完形	2.5Y8/2灰白	一段ナデ、凹凸顯著
8	遺構外	片口鉢	口縁部	渥美	外:自然釉 内:黒褐色				
9	遺構外	片口鉢	口縁部	渥美	外:灰色 内:灰色				
10	遺構外	甕	胴部	渥美	外:自然釉 内:褐灰色				
11	遺構外	甕	胴部	常滑	外:自然釉 内:暗褐色				
12	遺構外	甕	胴部	須恵器系	外:灰白色 内:灰白色				
13	遺構外	甕	胴部	渥美	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色				
14	遺構外	甕	胴部	渥美	外:灰白色 内:灰白色				
15	遺構外	甕	胴部	常滑	外:自然釉 内:灰白色				
16	遺構外	甕	胴部	須恵器系	外:暗青灰 内:暗青灰				
						内外面酸化鉄付着			
						断面にぶい赤褐色	硬質緻密		

第127図 柳之御所遺跡第47次調査出土遺物

V 写真図版



1. 日の出町 I 遺跡遺構検出状況



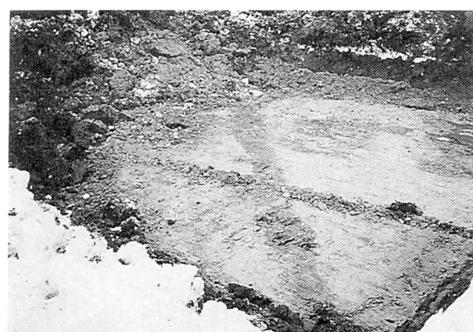
2. 中半入遺跡近景



3. 中半入遺跡畦畔状遺構検出状況



4. 中半入遺跡畦畔状遺構検出状況



5. 中半入遺跡畦畔状遺構検出状況



6. 宿下遺跡土坑断面



7. 長倉VII遺跡住居状遺構



8. 長倉VII遺跡住居状遺構

写真図版 1 平成 9 年度岩手県内遺跡発掘調査



9. 内沢II遺跡埋設土器検出状況



10. 島田II遺跡住居跡検出状況



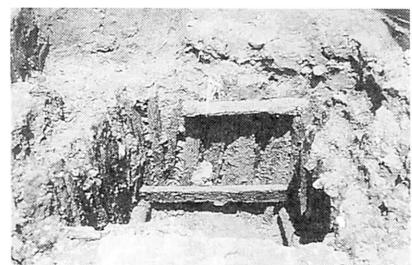
11. 大向上平遺跡住居跡検出状況



12. 須崎遺跡遺構検出状況



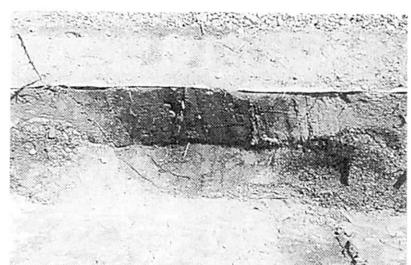
13. 岩谷堂橋本I遺跡焼土遺構



14. 後田I遺跡井戸跡



15. 熊ヶ平遺跡B1遺構断面



16. 熊ヶ平遺跡D1遺構断面

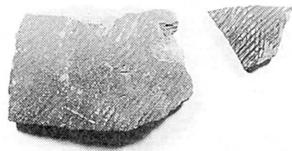


17. 熊ヶ平遺跡B7遺構遺物出土状況



18. 熊ヶ平遺跡B7遺構断面

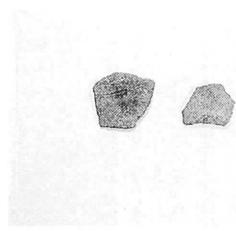
写真図版2 平成9年度岩手県内遺跡発掘調査



1：石持 I 遺跡



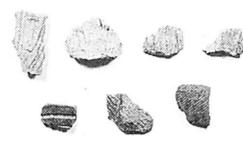
2：似内遺跡



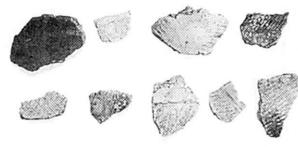
3：高松寺跡



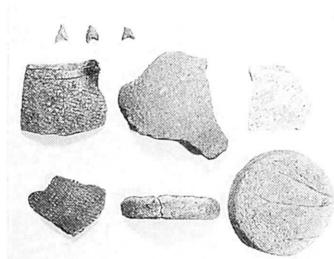
4：上駒板遺跡



5：芦名沢 II 遺跡



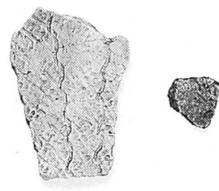
6：秋浦 I 遺跡



7：清水遺跡



8：野沢 VI 遺跡



9：町場 I 遺跡



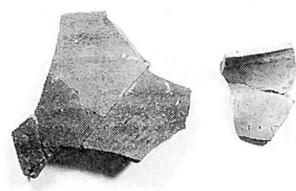
10：安栖野遺跡



11. 西長岡長谷田遺跡



12：西長岡長谷田遺跡

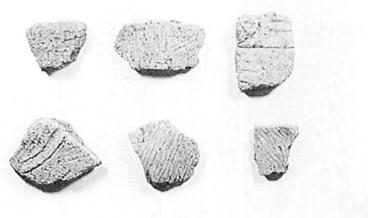


13：西長岡長谷田遺跡

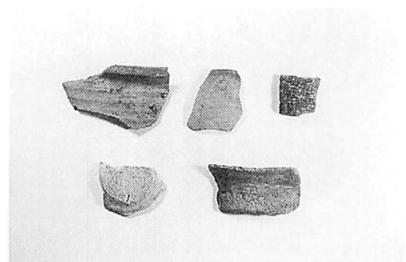
写真図版 3 岩手県内遺跡出土遺物



14：草刈中屋敷 I 遺跡



15：本巻遺跡



16：水ノ口遺跡



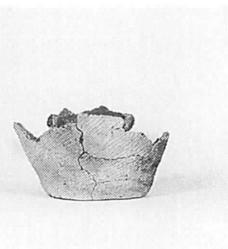
17：中半入遺跡



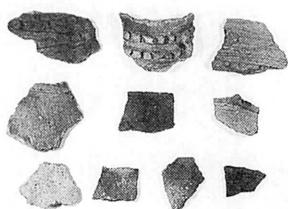
18：長袖 I 遺跡



19：南田 I 遺跡



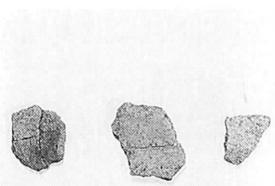
20：南田 I 遺跡



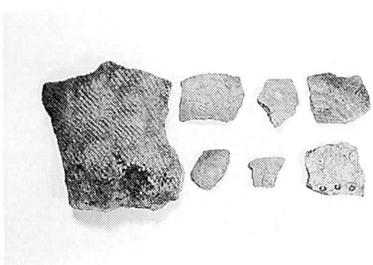
21：南田 I 遺跡



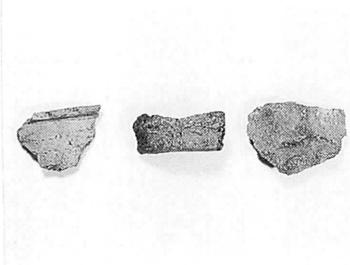
22. 宿下遺跡



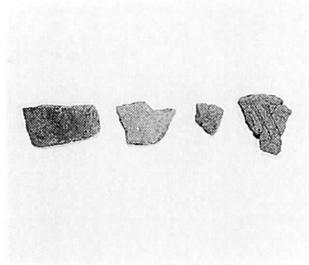
23：龍ヶ馬場遺跡



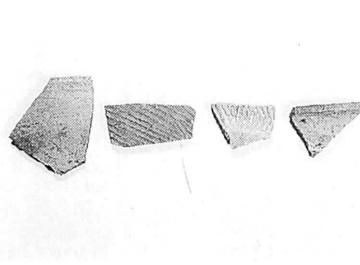
24：小出 I 遺跡



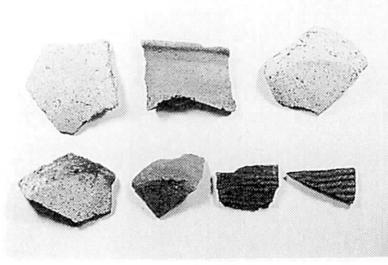
25：大向 II 遺跡



26：立石沢 II 遺跡

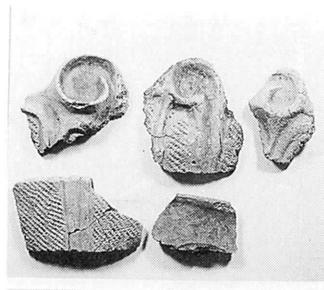


27：砂子沢 I 遺跡

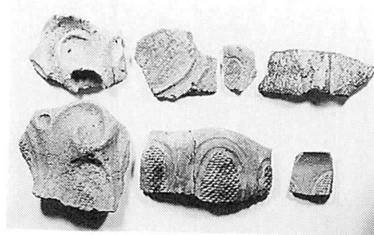


28：岡村遺跡

写真図版 4 岩手県内遺跡出土遺物



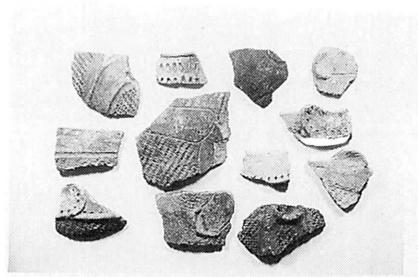
29：鳶ヶ平遺跡



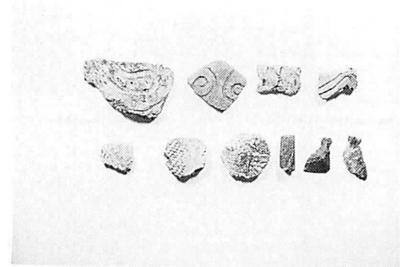
30：鳶ヶ平遺跡



31：鳶ヶ平遺跡



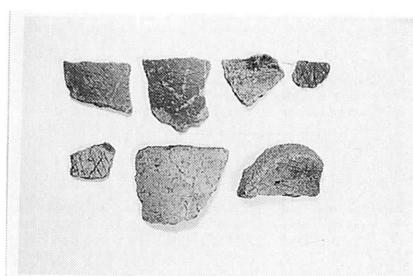
32：鳶ヶ平遺跡



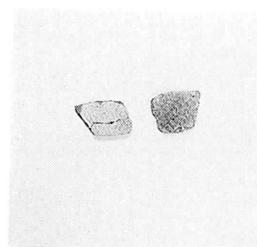
33：鳶ヶ平遺跡



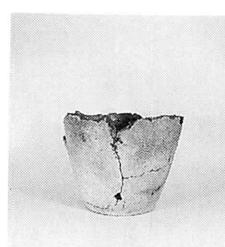
34：鳶ヶ平遺跡



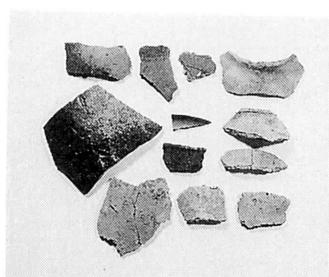
35：内沢環状列石



36：内沢 I 遺跡



37：内沢 II 遺跡



38：島田 II 遺跡



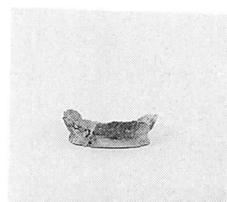
39：島田 II 遺跡



40：島田 II 遺跡



39：島田 II 遺跡



40：島田 II 遺跡

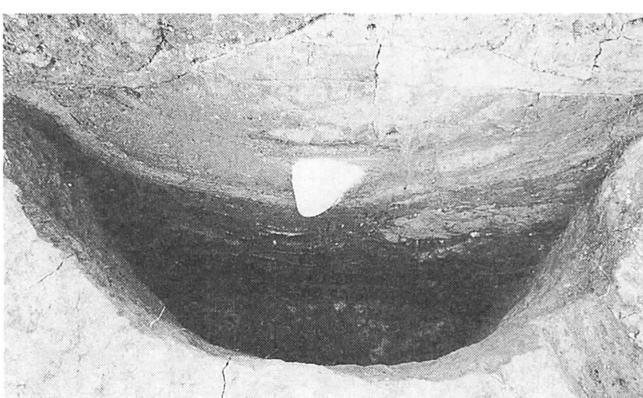
写真図版 5 岩手県内遺跡出土遺物



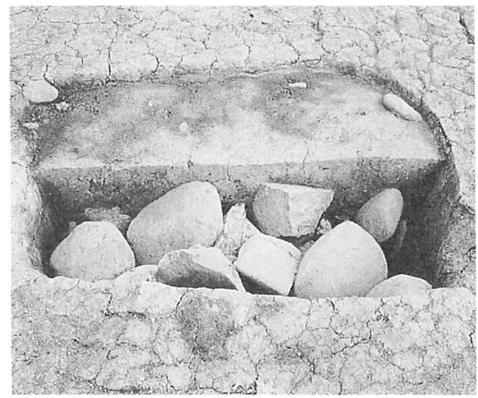
東側調査区（東方向より）



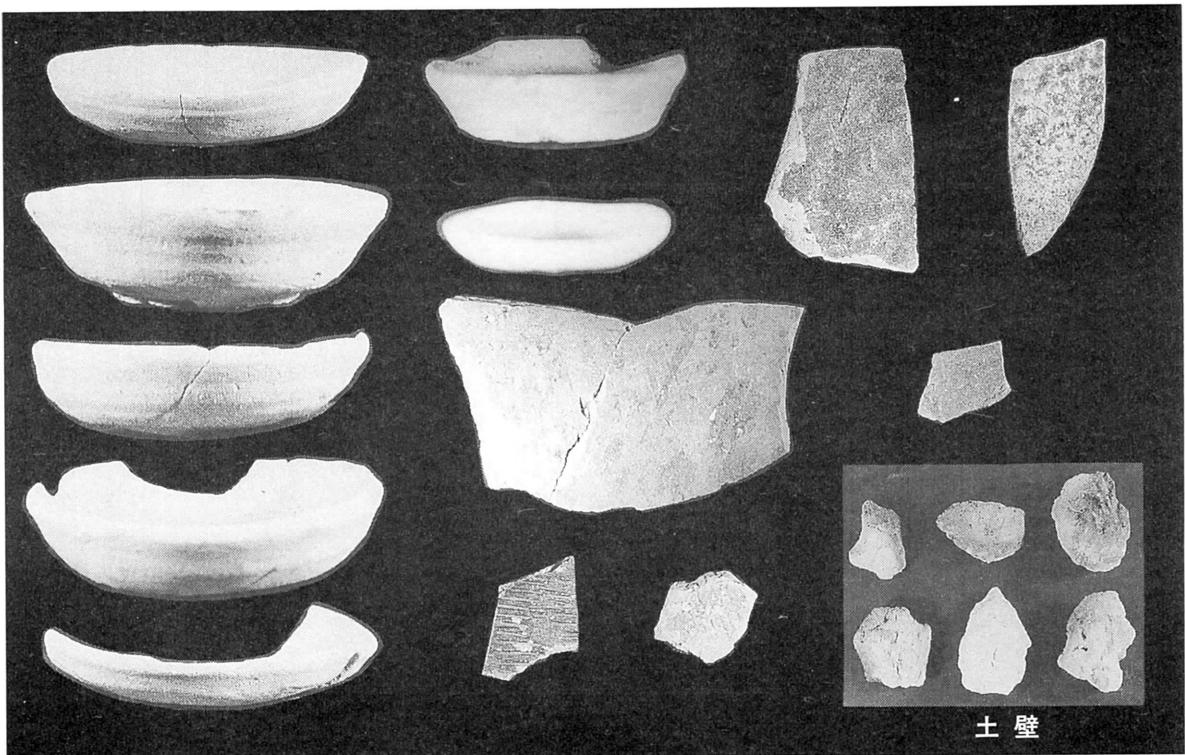
調査区全景（北西方向より）



47SK03土坑断面



47SK05 土坑断面



写真図版 6 柳之御所遺跡第47次調査遺構・出土遺物

岩手県文化財調査報告第103集
岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成9年度）

発行日 平成10年3月

発 行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10-1

編 集 岩手県教育委員会事務局文化課

印 刷 株式会社杜陵印刷

盛岡市みたけ二丁目22番50号
